

平成 30 年度

科目修得試験の手引

手 続 日 程

手 続	締切日等の取扱		日 程			
	ポータルサイト	窓口・郵送	第1回	第2回	第3回	第4回
受験申込 開始日 (ポータルサイト)	0時から		3月 2日(金)	5月 17日(木)	8月 16日(木)	11月 1日(木)
履修登録 締切日	24時まで ※1	必着 ※2	4月生:2月28日(水) 10月生:3月14日(水)		4月生:8月29日(水) 10月生:8月 1日(水)	
リポート提出 締切日		必着 ※2		5月 30日(水)		11月 14日(水)
受験申込 締切日	24時まで ※1	必着 ※2	3月 14日(水)		8月 29日(水)	
受験票発送 予定期			3月 26日(月)	6月 11日(月)	9月 18日(火)	11月 26日(月)
試験日			4月 15日(日)	6月 24日(日)	10月 21日(日)	12月 9日(日)
試験結果 反映			5月中旬	8月上旬	11月下旬	平成 31 年 1月下旬

※1 締切時間直前は混雑が予想されますので、余裕をもって登録を行ってください。

※2 必着とは当該日の事務取扱時間内であることを言います。

はじめに

大学通信教育において、印刷教材を用いた「通信学修」は、最も基本的な学修方法です。

本冊子で説明する科目修得試験は、「通信学修」による成果を判定し、当該科目的単位を完成させるための試験をいいます。

以下、科目修得試験に関わる受験手続や試験会場などの詳細について説明しますので、「通信学修」に対する理解や今後の計画的な単位修得に役立ててください。

なお、「通信学修」への理解をいっそう深めるためは、補助教材である『学修要覧』・『リポート課題集（報告課題集）』等も併せて熟読するようにしてください。

本手引では

通信教育部ポータルサイトを「ポータルサイト」と記します。

URL : <https://online.dld.nihon-u.ac.jp>

※一部科目的廃止に伴う対応について

以下の科目は、平成 31 年度より廃止となります。

受験予定の学生はご注意ください。

【科目コード】 T10400

【科目名】 教育の歴史

【詳細】 平成 30 年度まで受験可能（本手引に掲載している試験日まで）

平成 31 年度以降受験不可

目 次

I	概 要	1
1	科目修得試験とは	1
2	受験資格	1
3	入学初年度の注意事項	2
4	特に注意を要する科目	2
II	手続日程	5
III	試験時間割	7
IV	受験までの流れ	9
1	受験までの略図	9
2	履修登録	9
3	教材の入手方法	13
4	通信授業（印刷教材）	19
5	リポートの作成	19
6	リポートの提出	20
7	受験申込	21
8	受験許可・不許可の確認	25
9	受験票	26
V	試験会場一覧	27
VI	試験会場マップ	29
VII	試験当日の注意	39
1	試験上の注意事項	39
2	試験時の参照物	40
VIII	試験結果	41
1	試験結果	41
2	結果反映の時期	41
3	注意事項	41
IX	学割証の発行（長距離区間乗車時の学生割引制度）	43
X	Q & A	45
XI	学修上のアドバイス	47
XII	各種用紙	114

I 概要

1 科目修得試験とは

科目修得試験とは、印刷教材を用いた通信学修の成果を総合的に判定し、当該科目的単位を修得するための試験をいい、年4回、全国約50会場で実施されます。

1回の試験で受験できる科目数は最大4科目で、以下の時間割で実施されます。

【試験時間割】

時限	試験時間
第1時限	10:00～11:00
第2時限	11:20～12:20
第3時限	13:10～14:10
第4時限	14:30～15:30

※ 各時限ごとに指定された科目の中から1科目を選択して受験します。

2 受験資格

科目修得試験を受験するためには、以下4つの条件をすべて満たさなければなりません。

① 年度授業料（学費）を納入済であること。

※ 年度授業料とは、在学を継続するために必要となる費用です。

正科生は、

学年末に送付される振込用紙で、所定の金額を納入しなければなりません。

4月入学生が第1回（4月）、10月入学生が第3回（10月）の試験を受験する際に、

予め受験年度の授業料の納入が必要です。

科目履修生は、

2年目の在学継続の申請後、継続費用等の納入が必要です。

② 受験科目に対する履修登録が、履修登録締切日までに行われていること。

③ 受験科目に対するリポートが、所定の通数をリポート提出締切日までに提出済であること。

④ 「ポータルサイト」又は「受験届」による所定の受験手続が受験申込締切日までに行われていること。

3 入学初年度の注意事項

入学初年度に受験できる最初の科目修得試験は下表のとおりです。

したがって、4月入学生（前期）は第1回（4月）、10月入学生（後期）は第3回（10月）実施の科目修得試験は受験できませんので留意ください。

入学時期	最初に受験できる科目修得試験
4月入学（前期）	第2回科目修得試験（6月24日）
10月入学（後期）	第4回科目修得試験（12月9日）

4 特に注意を要する科目

① 受験できない科目

授業科目の一部に、科目修得試験を受験できない科目があります。

したがって、以下のケースに該当する科目は、スクーリングによって修得しなければなりません。

スクーリングでしか履修できない科目例

入学時配布の『学修要覧』等で明記した授業科目一覧において、※印が付された科目が該当します。

ケース1	【スクーリングでしか履修できない科目】 体育実技、文理学部に配当の演習科目（英語学演習等）、教職実践演習など。
ケース2	【教材未刊行科目】 法哲学、西洋古典、東洋史入門、アメリカ経済論、市場調査論など。

※ ケース2の科目は、今後印刷教材が刊行された場合、科目修得試験の受験が可能となりますので、その際は『ポータルサイト』で告知します。

② 学科・学年配当の科目

授業科目の中には、特定の学部・専攻部門だけに配当された科目や、指定された学年に進級しなければ受験できない科目がありますので注意が必要です。

詳しくは『学修要覧』で確認してください。

③ 単位修得済の科目

既に所定単位が修得済の科目は再履修できません。

例えば、評価“C”で合格済の科目に対して、より良い評価を得るために再受験することはできません。

④ 同一科目で名称が異なる科目

以下の科目は、同一科目でありながら学部・専攻部門によって名称が異なる科目です。

当該科目を受験する場合は、各自の所属学部・専攻部門に該当する科目で受験してください。

科目コード	法学部	科目コード	文理学部	科目コード	経済学部	科目コード	商学部
L30200	国際政治学	L30200	国際政治学	R32700	国際政治論	S33200	国際政治学概論
K32200	日本史概論	Q30200	日本史概説	Q30200	日本史概説	Q30200	日本史概説
K32300	東洋史概論	Q30300	東洋史概説	Q30300	東洋史概説	Q30300	東洋史概説
K32400	西洋史概論	Q30400	西洋史概説	Q30400	西洋史概説	Q30400	西洋史概説
—	—	—	—	R32800	外国史概説	S33300	外国史
L20200	経済学原論	R20100	経済原論	R20100	経済原論	R20100	経済原論
L31300	経済学説史	R30100	経済学史	R30100	経済学史	R30100	経済学史
L31500	経済政策	R30700	経済政策総論	R30700	経済政策総論	R30700	経済政策総論
L31400	財政学	R31500	財政学総論	R31500	財政学総論	R31500	財政学総論
L31600	社会政策	R32100	社会政策論	R32100	社会政策論	R32100	社会政策論
T22000	地誌学概論	T21900	地誌学※	T21900	地誌学	T22100	地理学概論 (地誌を含む)
R32600	経済地理学	R32600	経済地理学	R32600	経済地理学	S32200	経済地理
—	—	T22600	法学通論※	T22700	法律学概論 (国際法を含む)	T22700	法律学概論 (国際法を含む)

* 文理学部で「T21900 地誌学」及び「T22600 法学通論」を履修できるのは、哲学専攻及び史学専攻のみです。

⑤ 旧教材による出題の取り止め科目

本学の科目修得試験において教材が改訂された場合、移行措置として、その年度に限り現行の教材（旧教材）と新教材の双方から出題されますので、どちらで受験をするかを、事前に確認してください。

下表に挙げる科目は、昨年度（平成29年度）改訂され、本年度（平成30年度）より新教材のみ出題、受験となります。

旧教材による配本を受け、今後科目修得試験を受験する方は新教材を入手して、学修の上、受験してください。

新・旧教材の判別は下表を参照願います。

科目コード	科目名	H29年度(4/1~) 旧教材			H29年度(4/1~) 新教材		
		教材コード	教材名	種別	教材コード	教材名	種別
L31600/ R32100	社会政策 / 社会政策論	000175	社会政策論 / 社会政策	開発本	000532	『増補改訂 総説現代社会政策』	市販本
M31900	文章表現法	000109	日本語の表現	市販本	000534	『テキスト 日本語表現』	市販本
N30200	アメリカ文学史	000267	An Outline of American Literature	市販本	000536	『アメリカ小説入門』	市販本
S30900	広告論	000481	広告論	開発本	000538	『ブランド・コミュニケーションと広告』	市販本
R31800	金融論	000320	金融政策とオープンマク □経済学	市販本	000540	金融論	開発本
T10100	現代教職論	000418	教職入門—教師への道—	市販本	000541	『現代教職論』	市販本
T21300	道徳教育の理論 と方法 / 道徳教育の研究	000214	道徳教育の理論と方法	開発本	000543	『道徳教育の理論と方法』	市販本
T30100	国語科教育法Ⅲ	000445	新たな時代を拓く 中学校・高等学校国語科 教育研究	市販本	000545	『中学校 高等学校 国語科指導法』	市販本

※ 一部旧科目コード（数字4桁）を表示している教材もありますので、必ず教材要綱で教材コードを確認してください。

II 手続日程

	手 続	日 程	締切日等の取扱い	
			ポータルサイト	窓口・郵送
第1回 科目修得試験	受験申込開始日 (ポータルサイト)	3月 2日 (金)	0時から	
	履修登録締切日	4月生 2月28日 (水) 10月生 3月14日 (水)	24時まで※1	必着※2
	リポート提出締切日	3月 14日 (水)		
	受験申込締切日		24時まで※1	
	受験票発送予定日	3月 26日 (月)		
	試験日	4月 15日 (日)		
第2回 科目修得試験	試験結果反映	5月中旬		
	受験申込開始日 (ポータルサイト)	5月 17日 (木)	0時から	
	履修登録締切日	5月 30日 (水)	24時まで※1	必着※2
	リポート提出締切日			
	受験申込締切日	6月 11日 (月)	24時まで※1	
	受験票発送予定日			
第3回 科目修得試験	試験日	6月 24日 (日)		
	試験結果反映	8月上旬		
	受験申込開始日 (ポータルサイト)	8月 16日 (木)	0時から	
	履修登録締切日	4月生 8月 29日 (水) 10月生 8月 1日 (水)	24時まで※1	必着※2
	リポート提出締切日	8月 29日 (水)		
	受験申込締切日		24時まで※1	
第4回 科目修得試験	受験票発送予定日	9月 18日 (火)		
	試験日	10月 21日 (日)		
	試験結果反映	11月下旬		
	受験申込開始日 (ポータルサイト)	11月 1日 (木)	0時から	
	履修登録締切日	11月 14日 (水)	24時まで※1	必着※2
	リポート提出締切日			
	受験申込締切日	11月 26日 (月)	24時まで※1	
	受験票発送予定日			
	試験日	12月 9日 (日)		
	試験結果反映	平成31年1月下旬		

※1 締切時間直前は混雑が予想されますので、余裕をもって登録してください。

※2 必着とは当該日の事務取扱時間内であることをいいます。

MEMO

III 試験時間割

第1時間限(10:00~11:00)	
科目コード	科目名
B10700	哲学
B11200	文化史
B11700	政治学
B11900	数学
B12100	心理学
C10100	英語Ⅰ
C10500	英語Ⅴ
D10400	ドイツ語Ⅳ
E10400	フランス語Ⅳ
F10300	中国語Ⅲ
G10100	日本語Ⅰ
K30100	民法Ⅱ
K30400	民法Ⅴ
K30800	刑法Ⅱ
K31000	行政法Ⅱ
K31200	国際私法
K31600	民事訴訟法
L20100	政治学原論
L30500	西洋政治史
M20200	国文学概論
M30400	国語学講義
M30500	国文学講義Ⅰ(上代)
M31500	漢文学Ⅰ
N20200	英文法
N30400	英作文Ⅰ
N30700	英語学概説
N31500	英米事情Ⅰ
P30100	宗教学基礎講説
P30300	哲学概論
P31000	哲学特殊講義
Q30200	日本史概説
K32200	日本史概論
Q30500	考古学概説
Q31000	東洋史特講Ⅰ
R20100	経済原論*
L20200	経済学原論*
R31000	日本経済論
R31400	経済開発論
R31700	租税論
R31800	金融論
R32600	経済地理学*
S32200	経済地理*
S30700	交通論
S30800	証券市場論
S31000	商業政策
S32800	会計学
T10100	現代教職論
T20400	国語科教育法Ⅱ
T20600	社会科・地理歴史科教育法Ⅱ
T21000	英語科教育法Ⅱ
T21200	商業科教育法Ⅱ
T21300	道徳教育の理論と方法◆
T21400	道徳教育の研究
T21500	特別活動論◆
T21600	特別活動の研究
T21800	地理学概論(地誌を含まず)
T22600	法学通論*
T22700	法律学概論(国際法を含む)*
U20100	学校経営と学校図書館
U20500	情報メディアの活用
Y20100	生涯学習論
Y20700	博物館資料保存論

注意事項

- ①◆印の科目は、平成23年度1学年入学生、平成24年度1学年入学生、2学年編・再入学生、平成25年度1学年入学生、2学年編・再入学生、3学年編・再入学生、平成26年度以降入学生及び科目履修生が履修することができます。
- ②＊印の科目は、同一内容でありながら学部によって科目コード・科目名が異なる科目であるため、受験手続の際に注意を要します。
- ③英語基礎は、文学専攻(英文学)の学生は、履修することができません。
- ④日本語Ⅰ～Ⅳは、外国人(日本語を母國語としない者)のみ履修することができます。
- ⑤入学初年度(平成30年度新入生)は、4月入学生は第1回(4月)、10月入学生は第3回(10月)実施の科目修得試験を受験することができません。
- ⑥『T10400 教育の歴史』は平成31年度以降受験ができなくなります。修得予定の学生は平成30年度中に修得してください。

第2時間限(11:20~12:20)	
科目コード	科目名
B10900	倫理学
B11000	宗教学
B11500	法学(日本国憲法2単位を含む)
C10300	英語Ⅲ
D10200	ドイツ語Ⅱ
E10200	フランス語Ⅱ
F10100	中国語Ⅰ
G10300	日本語Ⅲ
H10200	保健体育講義Ⅱ
K20100	憲法
K30200	民法Ⅲ
K30600	商法Ⅱ
K31300	労働法
K31700	刑事訴訟法
K31900	日本法制史
L30300	政治思想史
L30700	外交史
M30100	国文学史Ⅰ
M30800	国文学講義Ⅳ(近世)
M30900	国文学講義Ⅴ(近代)
M31400	国語音声学
N20100	イギリス文学史Ⅰ
N30500	英作文Ⅱ
N30600	英語音声学
N31300	放送英語
N31700	異文化間コミュニケーション概論
P20200	西洋思想史Ⅰ
P30200	倫理学基礎講説
P30700	東洋思想史Ⅱ
Q20100	日本史入門
Q30400	西洋史概説*
K32400	西洋史概論*
Q30600	考古学特講Ⅰ
Q30800	日本史特講Ⅰ
R20300	経済学概論
R30500	日本経済史
R30700	経済政策総論*
L31500	経済政策*
R30900	工業経済論
R32000	経済統計学
S20100	商学総論
S20200	経営学
S20300	簿記論Ⅰ
S30200	商法
S32000	観光事業論
S32700	中小企業論
T10400	教育の歴史
T10500	発達と学習
T20100	教育の社会学
T20200	教育制度論
T20700	社会科・公民科教育法Ⅰ
T22300	自然地理学概論
T22900	職業指導
T23000	心理学概論
T30100	国語科教育法Ⅲ
T30300	英語科教育法Ⅲ
U20200	学校図書館メディアの構成
Y20300	博物館概論
Y20800	博物館展示論
Y21300	文化人類学

第3時限(13:10~14:10)	
科目コード	科目名
B11100	歴史学
B11400	美術史
B11600	社会学
B12000	生物学
B12200	統計学
C10200	英語Ⅱ
D10300	ドイツ語Ⅲ
E10100	フランス語Ⅰ
F10200	中国語Ⅱ
G10400	日本語Ⅳ
K30300	民法Ⅳ
K30500	商法Ⅰ
K30900	行政法Ⅰ
K31400	知的財産権法
L30100	行政学
L30600	東洋政治史
L30800	地方自治論
M20100	国文学基礎講義
M30200	国文学史Ⅱ
M31000	国文学講義Ⅵ(現代)
M31600	漢文学Ⅱ
M31900	文章表現法
N20300	英米文学概説
N30300	英語史
N31000	スピーチコミュニケーションⅡ
N31200	英米文学特殊講義
N31400	新聞英語
N31600	英米事情Ⅱ
P20100	哲学基礎講読
P20300	東洋思想史Ⅰ
P30500	倫理学概論
P30800	日本思想史Ⅰ
Q20300	西洋史入門
Q30100	史学概論
Q31100	東洋史特講Ⅱ
Q31700	古文書学
R20200	経済史総論
R30800	農業経済論
R31600	地方財政論
R32100	社会政策論*
L31600	社会政策*
R32200	労働経済論
R32300	情報概論
S30500	マーケティング
S30600	保険総論
S30900	広告論
S31200	国際金融論
S31300	商業英語Ⅰ
S32100	商業史
S33300	外国史*
R32800	外国史概説*
T10200	教育原論◆
T10300	教育の思想(注意事項を要確認)
T20800	社会科・公民科教育法Ⅱ
T21700	教育の方法・技術論
T22200	人文地理学概論
T22400	漢字書法
T30200	国語科教育法Ⅳ
T30400	英語科教育法Ⅳ
U20300	学習指導と学校図書館
Y20600	博物館資料論
Y20900	博物館教育論

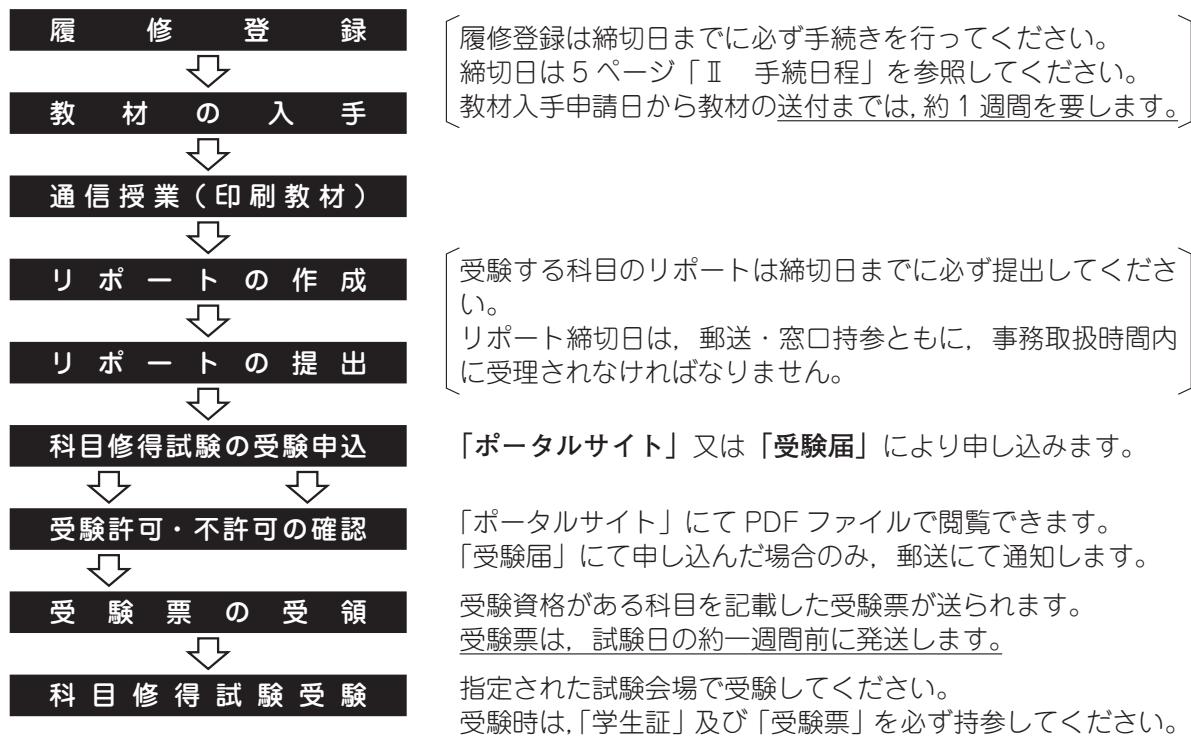
第4時限(14:30~15:30)	
科目コード	科目名
B10800	論理学
B11300	文学
B11800	経済学
B12300	科学史
C10400	英語Ⅳ
C10600	英語基礎
D10100	ドイツ語Ⅰ
E10300	フランス語Ⅲ
F10400	中国語Ⅳ
G10200	日本語Ⅱ
H10100	保健体育講義Ⅰ
K20200	民法Ⅰ
K20300	刑法Ⅰ
K30700	商法Ⅲ
K31100	国際法
K31500	税法
L30200	国際政治学*
R32700	国際政治論*
S33200	国際政治学概論*
L30400	日本政治史
M20300	国語学概論
M30300	国文法
M30700	国文学講義Ⅲ(中世)
N30100	イギリス文学史Ⅱ
N30200	アメリカ文学史
N30900	スピーチコミュニケーションⅠ
P30400	宗教学概論
P30600	西洋思想史Ⅱ
P31300	科学哲学
Q20400	考古学入門
Q30300	東洋史概説*
K32300	東洋史概論*
Q30900	日本史特講Ⅱ
Q31200	西洋史特講Ⅰ
R30100	経済学史*
L31300	経済学説史*
R30300	価格理論
R30600	西洋経済史
R31100	国際経済論
R31500	財政学総論*
L31400	財政学*
R31900	貨幣経済論
S30300	商品学
S30400	貿易論
S31400	商業英語Ⅱ
T20300	国語科教育法Ⅰ
T20500	社会科・地理歴史科教育法Ⅰ
T20900	英語科教育法Ⅰ
T21100	商業科教育法Ⅰ
T21900	地誌学*
T22000	地誌学概論*
T22100	地理学概論(地誌を含む)*
T22500	かな書法
T22800	政治学概論
T30500	生徒指導・進路指導論
T30600	教育相談◆
T30700	教育カウンセリング論
U20400	読書と豊かな人間性
Y20400	博物館経営論
Y21000	博物館情報・メディア論
Y21200	民俗学

注意事項

- ①◆印の科目は、平成23年度1学年入学生、平成24年度1学年入学生、2学年編・再入学生、平成25年度1学年入学生、2学年編・再入学生、3学年編・再入学生、平成26年度以降入学生及び科目履修者が履修することができます。
- ②＊印の科目は、同一内容でありながら学部によって科目コード・科目名が異なる科目であるため、受験手続の際に注意を要します。
- ③英語基礎は、文学専攻(英文学)の学生は、履修することができません。
- ④日本語Ⅰ～Ⅳは、外国人(日本語を母国語としない者)のみ履修することができます。
- ⑤入学初年度(平成30年度新入生)は、4月入学生は第1回(4月)、10月入学生は第3回(10月)実施の科目修得試験を受験することができません。
- ⑥『T10400 教育の歴史』は平成31年度以降受験ができなくなります。修得予定の学生は平成30年度中に修得してください。

IV 受験までの流れ

1 受験までの略図



2 履修登録

履修登録上の注意事項

「ポータルサイト」と「履修届」の両方で申込みがあった場合は、「ポータルサイト」の内容を有効とします。

① 「ポータルサイト」による申込み

●履修登録の前に

1	履修登録には、IDとパスワードが必要です。 ID = 学生番号 初期パスワード = 自分の西暦生年月日（半角数字8桁）
2	履修登録の受付メールを受信するには、メールアドレスの登録が必要です。 「学生メニュー」の「学生情報照会・修正」より、送付先アドレスを事前に登録してください。

●履修登録方法

- 1 通信教育部公式ホームページ（URL:<http://www.dld.nihon-u.ac.jp>）の「在学生ログイン」をクリックしてください。

- 2 「学生メニュー」を選択し、「履修登録」をクリックしてください。

- 3 履修登録科目の一覧から登録したい科目のチェックボックスを選択し、[登録確認] ボタンをクリックしてください。
※一覧には学修が開始できる科目が表示されます。

- 4 履修登録する科目を確認し、[登録実行] ボタンをクリックしてください。

- 5 履修登録が完了すると、登録されているメールアドレスに受付通知メールが配信されます。

●履修登録確認

- 1 履修登録方法の1の手順で、ログインしてください。

2 「学生メニュー」を選択し、「履修登録確認表」をクリックしてください。

履修登録確認表照会						
履修登録確認表照会						
学生番号			学生氏名			
履修年度	2015					
総合教育科目						
区分	履修年度	授業コード	科目名	担当者	単位数	備考
総合教育科目	2014	BT11000	歴史学	高瀬 博文 他	4	進続中
総合教育科目	2014	BT17000	政治学	間根 二三夫 他	4(2)	進続中
総合教育科目	2015	BT21000	心理学	窟暮 麻典 他	4	修得済

●履修登録の変更・取りやめ

同一履修年度かつまだ、学修を開始していない科目に限り、「ポータルサイト」で変更・取りやめをすることができます。

- 1 履修登録方法の1・2の手順で、履修登録の画面まで進んでください。

- 2 取り消したい科目の前の「消しゴム」部分をクリックし、「取消」に変わったら、**登録確認** ボタンをクリックし、履修登録方法の4・5の手順で変更を完了させてください。

履修登録

■ 履修登録

学生番号		学生氏名	
登録年度	2015	登録学期	秋期
登録年度の登録合計 単位数	33		

[凡例]   

■ 総合教育科目

選択	授業コード	科目名	単位	学年
<input checked="" type="checkbox"/>	BT01500	総合科目Ⅰ	(2)	1, 2, 3, 4
<input type="checkbox"/>	BT02500	総合科目Ⅱ	(2)	1, 2, 3, 4
<input type="checkbox"/>	BT03500	総合科目Ⅲ	(2)	1, 2, 3, 4
<input type="checkbox"/>	BT04500	総合科目Ⅳ	(2)	1, 2, 3, 4
<input type="checkbox"/>	BT05500	総合科目Ⅴ	(2)	1, 2, 3, 4
<input type="checkbox"/>	BT06500	総合科目Ⅵ	(2)	1, 2, 3, 4

② 「履修届」による申込み

「履修届」による申込みは、以下の要領で本誌巻末の「履修届」を作成し、教務課に提出してください。

書き損じた場合は、修正テープ又は修正液で訂正してください。
訂正線で訂正する場合は、訂正印は不要です。

(1) 登録年度

本履修届にて履修登録する場合は、4月生が第1回、10月生が第1回から第3回を受験する場合は「平成29年度」、4月生が第2回以降、10月生が第4回以降を受験する場合は「平成30年度」と記入してください。

(2) 学生番号・氏名・提出年月日・電話番号

電話番号は、記載事項を確認する場合に使用します。確実に連絡のとれる電話番号を記載してください。

(3) 科目コード・科目名

科目コード及び科目名は、『学修要覧』又は『コース履修の手引』を確認し、科目コード（6ヶタ）を記入してください。不備がある場合は受理できませんので注意してください。

(4) 単位

各科目的所定単位を記入してください。

(5) 合計単位

必ず合計単位数を記入してください。

【よくある不備】

- ・科目コード及び科目名の記入漏れ
- ・科目コードと科目名の不一致
- ・不配当科目的記入（例：3学年から履修登録できる科目を2学年で「履修届」に記入する。）
学部や入学年度によって名称が異なる科目や登録できない科目があります。
特に教職コースの科目は注意が必要です。
- ・「卒業論文」、「博物館実習Ⅱ」及び「博物館実習Ⅲ」、「教育実習」、「教育実習事前・事後指導」及び「教職実践演習」は登録する必要がありません。
- 「履修届」とは別の手続きとなります。『学修要覧』及び『コース履修の手引』を確認してください。
- ・履修登録済みの科目的記入
一度履修登録した科目は在学中有効ですので、再度履修登録することはできません。
- ・スクーリング等で所定単位が4単位の科目で、2単位分修得している科目は登録できません。履修登録済みと同様の扱いとなります。
もし記入された場合は、『履修登録エラーエラーエラー一覧』に『すでに履修登録済みの科目です。』と表記されます。
- ・単位修得済み科目的記入
単位修得済み科目的登録はできません。
もし記入された場合は、『履修登録エラーエラーエラー一覧』に『修得済みのため再履修できません。』と表記されます。
- ・年間登録単位を超過
年間48単位（教職生及び2学年以上の教職コース履修生は60単位）まで履修できます。
もし超過して記入された場合は、『履修登録エラーエラーエラー一覧』に『履修制限単位を超えた履修登録はできません。』と表記されます。

③ 履修登録上の注意

- ・「履修届」の不備内容によっては、受理せず返却する場合があります（不受理）。したがって、科目修得試験やスクーリング併用試験方式等の履修登録締切日以前に「履修届」が大学に到着していても、不受理の場合は履修登録にならず、試験の申し込みができません。
- ・履修登録を行っただけでは、教科書の配本はありません。配本申請を別途行う必要があります。
- ・履修済みの科目的変更、取消しは学修を行っていない（リポート未提出、スクーリング申込みなし等）場合のみ可能です。履修登録が上限に達していない場合、Web履修登録や巻末の「履修届」をコピーして使用して追加の登録が可能です。

3 教材の入手方法

① 教材を入手する手続について

通信教育部で扱う教材は、「通信授業」（在宅学修）を目的とした教材です。通信教育部で扱う教材を入手する手続は、以下の2通りあります。

(1) 「配本申請」による手続き【無料】

教材を無料で入手する手続きです。

正科生のみが対象となります。4月生は4月1日から、10月生は10月1日から当該年度の申請ができます。年度内2回まで、合計32単位分まで申請できます。

ア 「ポータルサイト」による申込み（こちらを推奨します）

●申込みの前に

申込みには、IDとパスワードが必要です。

ID=学生番号

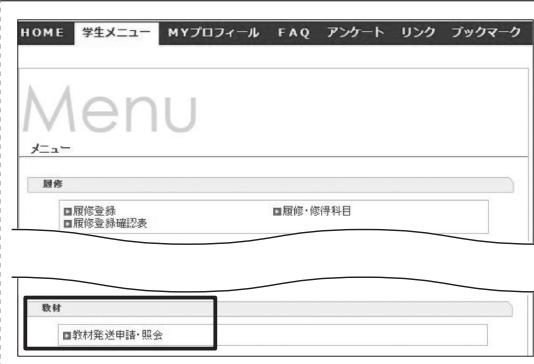
初期パスワード=自分の西暦生年月日（半角数字8桁）

●申込方法

- 1 通信教育部公式ホームページ
(URL:<http://www.dld.nihon-u.ac.jp>)
の「在学生ログイン」をクリックしてください。



- 2 「学生メニュー」を選択し、「教材発送申請・照会」をクリックしてください。



3	<p>ページ最下部の「配本申請（無料）」ボタンをクリックしてください。</p>	<p>教材発送一覧（処理済分）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>申込年月日</th><th>申込区分</th><th>教材名</th><th>単位数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2017/04/13</td><td>印刷教材</td><td>哲学『西洋思想の要諦周覧』(000404)</td><td>4</td></tr> <tr> <td>2017/04/13</td><td>印刷教材</td><td>日本史入門『方法教養の日本史』(000484)</td><td>4</td></tr> <tr> <td>2017/03/17</td><td>補助教材</td><td>リポート用紙(20通)(100002)</td><td>0</td></tr> <tr> <td>2017/03/17</td><td>補助教材</td><td>日本大学歌集(CD)(100007)</td><td>0</td></tr> <tr> <td>2017/03/17</td><td>補助教材</td><td>同封物一覧(はじめにお読みください)(100098)</td><td>0</td></tr> <tr> <td>2017/03/17</td><td>補助教材</td><td>総合保障制度案内(100104)</td><td>0</td></tr> <tr> <td>2017/03/17</td><td>補助教材</td><td>平成29・30年度 報告課題集(リポート課題集)(100138)</td><td>0</td></tr> <tr> <td>2017/03/17</td><td>補助教材</td><td>平成29年度 学修要覧(100139)</td><td>0</td></tr> <tr> <td>2017/03/17</td><td>補助教材</td><td>平成29年度 教材要綱(100140)</td><td>0</td></tr> <tr> <td>2017/03/17</td><td>補助教材</td><td>平成29年度 科目修得試験の手引き(100141)</td><td>0</td></tr> <tr> <td>2017/03/17</td><td>補助教材</td><td>平成29年度 学修計画表・科目修得試験手帳(100142)</td><td>0</td></tr> <tr> <td>2017/03/17</td><td>補助教材</td><td>平成29年度 スクーリング開講科目予定表(100143)</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">[配本申請（無料）] [教材購入（有料）] [変更]</p>	申込年月日	申込区分	教材名	単位数	2017/04/13	印刷教材	哲学『西洋思想の要諦周覧』(000404)	4	2017/04/13	印刷教材	日本史入門『方法教養の日本史』(000484)	4	2017/03/17	補助教材	リポート用紙(20通)(100002)	0	2017/03/17	補助教材	日本大学歌集(CD)(100007)	0	2017/03/17	補助教材	同封物一覧(はじめにお読みください)(100098)	0	2017/03/17	補助教材	総合保障制度案内(100104)	0	2017/03/17	補助教材	平成29・30年度 報告課題集(リポート課題集)(100138)	0	2017/03/17	補助教材	平成29年度 学修要覧(100139)	0	2017/03/17	補助教材	平成29年度 教材要綱(100140)	0	2017/03/17	補助教材	平成29年度 科目修得試験の手引き(100141)	0	2017/03/17	補助教材	平成29年度 学修計画表・科目修得試験手帳(100142)	0	2017/03/17	補助教材	平成29年度 スクーリング開講科目予定表(100143)	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
申込年月日	申込区分	教材名	単位数																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
2017/04/13	印刷教材	哲学『西洋思想の要諦周覧』(000404)	4																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
2017/04/13	印刷教材	日本史入門『方法教養の日本史』(000484)	4																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
2017/03/17	補助教材	リポート用紙(20通)(100002)	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
2017/03/17	補助教材	日本大学歌集(CD)(100007)	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
2017/03/17	補助教材	同封物一覧(はじめにお読みください)(100098)	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
2017/03/17	補助教材	総合保障制度案内(100104)	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
2017/03/17	補助教材	平成29・30年度 報告課題集(リポート課題集)(100138)	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
2017/03/17	補助教材	平成29年度 学修要覧(100139)	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
2017/03/17	補助教材	平成29年度 教材要綱(100140)	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
2017/03/17	補助教材	平成29年度 科目修得試験の手引き(100141)	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
2017/03/17	補助教材	平成29年度 学修計画表・科目修得試験手帳(100142)	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
2017/03/17	補助教材	平成29年度 スクーリング開講科目予定表(100143)	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
4	<p>「教材コード」欄に配本を希望する教材の教材コードを入力してください。教材コードは別途「教材要綱」を参照してください。また、をクリックすると教材名での検索が可能です。配本を希望する教材コードの入力が終了したら「登録」ボタンをクリックしてください。</p> <p>なお、登録ボタンは、確認事項の□にチェックをすることにより、クリックできるようになります。</p>	<p>教材発送登録</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>申込区分</th><th>教材コード</th><th>単位数</th><th>備考</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="text"/></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td><input type="text"/></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td><input type="text"/></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td><input type="text"/></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td><input type="text"/></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td><input type="text"/></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td><input type="text"/></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td><input type="text"/></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td><input type="text"/></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td><input type="text"/></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td><input type="text"/></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td><input type="text"/></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td><input type="text"/></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td><input type="text"/></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td><input type="text"/></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td><input type="text"/></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td><input type="text"/></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td><input type="text"/></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td><input type="text"/></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td><input type="text"/></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td><input type="text"/></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td><input type="text"/></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td><input type="text"/></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td><input type="text"/></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td><input type="text"/></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td><input type="text"/></td><td></td><td></td><td></</td></tr></tbody></table>	申込区分	教材コード	単位数	備考	<input type="text"/>				<input type="text"/>				<input type="text"/>				<input type="text"/>				<input type="text"/>				<input type="text"/>				<input type="text"/>				<input type="text"/>				<input type="text"/>				<input type="text"/>				<input type="text"/>				<input type="text"/>				<input type="text"/>				<input type="text"/>				<input type="text"/>				<input type="text"/>				<input type="text"/>				<input type="text"/>				<input type="text"/>				<input type="text"/>				<input type="text"/>				<input type="text"/>				<input type="text"/>				<input type="text"/>				<input type="text"/>			</																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
申込区分	教材コード	単位数	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<input type="text"/>			</																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							

- 7 登録内容は「教材発送申請・照会」で確認できます。

◆教材発送一覧（未処理分）

受付前の状態です。「選択」にチェックをすることで、取消しが可能です。

◆教材発送一覧（処理済分）

受付後の状態です。取消しはできません。

教材実証一覧(実施履歴)						
登録年月日	学年区分	教材名	単位数	備考	中心権限	
□ 2015/08/14 可用教材	学年別教材(1年生)	学年別教材(1年生)社会教科 第(第1回)00001500	4	0		
□ 2015/08/14 可用教材	国語の基礎、国語の文法、国語の読み方等に関する問題集(00001501)		4	0		
□ 2015/08/14 可用教材	古文書を解説 古文唐宋文入門(00001502)		4	0		
□ 2015/08/14 可用教材	西洋の歴史(西洋政治史)(第3回)(00001503)		4	0		

教材実証一覧(検索履歴)						
登録年月日	学年区分	教材名	単位数	備考	実施履歴日	中心権限
2015/04/15 可用教材	政治学(000279)		4	0	2015/04/17	
2015/04/15 可用教材	老子(000384)		4	0	2015/04/17	
2015/04/15 可用教材	世界古典思想の源流(西洋)(000484)		4	0	2015/04/17	
2015/04/15 可用教材	民法(000487)		4	0	2015/04/17	
2015/03/25 植物教材	リボ→雨紙(20題)(100002)		0	0	2015/05/25	
2015/03/25 植物教材	日本大学農業(000167)		0	0	2015/05/25	
2015/03/25 植物教材	「種類別」(000)周辺-便用用対照表(000010)		0	0	2015/05/25	
2015/03/25 植物教材	「種類別」の作成-提出について(000011)		0	0	2015/05/25	
2015/03/25 植物教材	問題別-見つけたら読みこなす(000008)		0	0	2015/05/25	
2015/03/25 植物教材	新規登録(000001)		0	0	2015/05/25	

イ 用紙による申込み ※詳細は教材配本申請書裏面をご参照ください。

記本申請(無償)

平成 年 月 日

日本大学通信教育部 御中
(提出先: 研究事務課)

教 材 配 本 申 請 書

学 生 姓 号				氏 名			
.....
准拠先電話番号(携帯電話可)				-			

No	教材コード	教材名				配 本 単位数
1	單位
2	單位
3	單位
4	單位
5	單位
6	單位
7	單位
8	單位
9	單位
10	單位

合 計

單位

ポータルサイト「本籍送付申請会員」の「[本籍申請]」から申請できます。

申請宛地2段階、提出段階2段階での確認ができます。

申請宛地は、郵便局名と郵便番号を記入して下さい。

申請段階は、メールアドレスと登録IDを記入して下さい。

申請段階は、郵便局名と郵便番号を記入して下さい。

「教材コード」は、教材名欄に「教材スクーリングの手引」で確認し、記入して下さい。

「登録ID」は、教材名欄に「教材スクーリングの手引」で確認し、記入して下さい。

「郵便局名」は、郵便局名と郵便番号を記入して下さい。

「郵便局番号」は、郵便局名と郵便番号を記入して下さい。

※登録情報は、トヨコトモさんへよく見えます。

※スクーリング等で既定化された既往の教材は、対象外です。

事務局使用欄

.....
-------	-------	-------	-------

(2) 「教材購入」による手続【有料】

教材を有料で入手する手続です。

科目履修生が教材を入手する場合や、正科生が「配本申請」の回数・単位数の上限を超えた場合、その他の理由で教材を入手したい場合に有料で購入する手続です。

ア 「ポータルサイト」による申込み（こちらを推奨します）

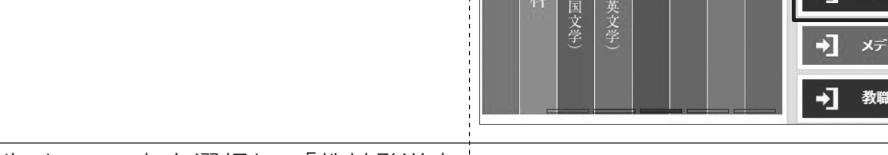
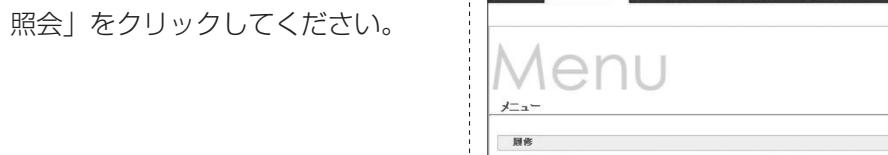
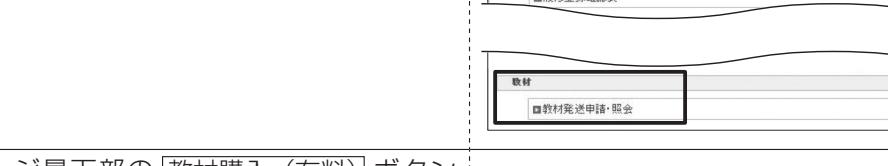
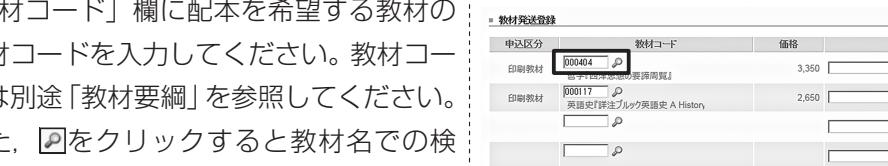
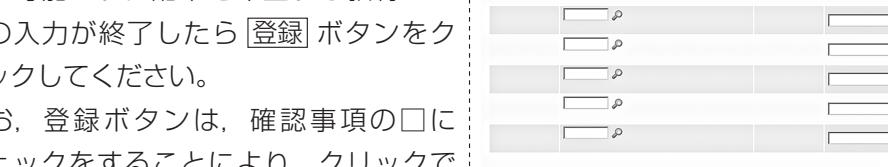
●申込みの前に

申込みには、IDとパスワードが必要です。

ID = 学生番号

初期パスワード=自分の西暦生年月日（半角数字8桁）

受験までの流れ

1	通信教育部公式ホームページ (URL: http://www.dld.nihon-u.ac.jp)の「在学生ログイン」をクリックしてください。	
2	「学生メニュー」を選択し、「教材発送申請・照会」をクリックしてください。	
3	ページ最下部の [教材購入 (有料)] ボタンをクリックしてください。	
4	「教材コード」欄に配本を希望する教材の教材コードを入力してください。教材コードは別途「教材要綱」を参照してください。	
	また、  をクリックすると教材名での検索が可能です。配本を希望する教材コードの入力が終了したら [登録] ボタンをクリックしてください。	
	なお、登録ボタンは、確認事項の□にチェックをすることにより、クリックできるようになります。	
		
		

5	<p>問題がなければ、[登録実行] ボタンをクリックしてください。最終確認のメッセージが表示されるので、[OK] ボタンをクリックしてください。</p>	
6	<p>画面上に「処理が正常に完了しました。」と表示されます。</p>	
7	<p>「教材発送申請・照会」ページ最下部の [教材購入願作成] ボタンをクリックしてください。</p>	
8	<p>問題がなければ、[はい] ボタンをクリックしてください。 その後、「教材購入願」の PDF ファイルが作成されます。</p>	

9	「教材購入願」を印刷し、連絡先電話番号及び本人署名を記入の上、購入代金を添えて会計課へ提出してください。	
---	--	--

イ 用紙による申込み ※詳細は教材購入願裏面をご参照ください。



② 注意事項

- (1) 教材は「通信教育教材」に限り購入できます。
- (2) 手続後の変更・取消し、納入金額の返還はできません。
- (3) 印刷教材は、大学登録住所宛てに送付します。教材が手元に届くまで 7 ~ 10 日を要しますので、余裕をもって手続をしてください。
- (4) 窓口での教材配本はできません。

教材の改訂

在学中に、教材が改訂される場合がありますが、改訂年度に限り、改訂後の新教材と改訂前の旧教材の双方から選択し、試験に臨むことができます。

ただし、改訂年度の翌年は、新教材でなければ学修できませんので、履修登録した年度内に単位修得に至るよう心掛けましょう（1 ページ「I 概要」を参照）。

なお、新教材で受験できるのは、改訂年度の第 2 回科目修得試験からとなります。

※ 新教材になっても、教材の自動配本はありません。新教材入手するためには、別途「配本申請」又は「教材購入」の手続きをする必要があります。

注意！

教材を入手しただけでは、試験を受験できません。
必ず、**履修登録および受験申込**をしてください。

4 通信授業（印刷教材）

① 日常の学修

教材を読み破り、一区切りごとに要点を整理しまとめることが大切です。
また、教材の内容をより詳しく理解するために、参考書や文献を大いに活用してください。

② 学修計画

(1) 試験の時間割を活用

まずは、7・8ページに掲載した「Ⅲ 試験時間割」を参照してください。
年4回の試験において、1回の試験で受験できる科目数は、各時限から1科目の計4科目です
から、この範囲内で、“いつ・どの科目を受験するのか”を選定します。

なお、試験の時間割は年4回を通して変更することはありません。

(2) 計画的な受験計画

必ずしも4科目受験しなければならないわけではありません。
例えば、1・2時限目からいずれか1科目、3・4時限目からいずれか1科目の計2科目をコン
スタントに受験する等、無理のない計画を立てるのがよいでしょう。

※ 大学通信教育においては、強い継続の意志が必要です。

③ 教材の入手

教材は、別途各自で用意する必要があります。

「通信学修」で使用する教材は、「配本申請」又は「教材購入」手続により、大学から送付すること
もできます。

(1) 教材配本申請書による配本（無料）

正科生のみ対象。年度内2回まで合計32単位分まで申請できます。

(2) 教材購入による購入（有料）

科目履修生の教材入手や、教材配本申請の回数・単位数の上限を超えた場合等で、教材入手し
たい場合には、有料で購入することができます。

※ 詳細は「ポータルサイト」で確認してください。（P.13 参照）

5 リポートの作成

① リポートについて

教材を熟読し、大学から与えられた課題にそって、リポートを作成し、提出後、添削指導と合わせ
て評価を受けます。

科目修得試験の受験には、リポート作成は不可欠であり、作成に当たっては、与えられた課題に
対して、的確かつ論理的に記述することが必要です。

常日頃からさまざまな文章を読み、作文能力が身に付けられるよう心掛けましょう。

② リポート課題（『報告課題』）

『リポート課題集（報告課題集）』という冊子が配布され、各科目、課題に基づいてリポートを作成していきます。

リポート課題の有効期間は『リポート課題集（報告課題集）』発行から2年間ですので、有効期間内の課題に基づいたリポートを作成することになります。

ただし、教材が改訂された科目的有効期間は、改訂された科目的『リポート課題』に明記された有効期間に注意してください。

③ リポートの作成要領

(1) リポートは、**大学指定のリポート用紙**を用いて作成します。

(2) **2単位につき1通**のリポートを作成します。

したがって1・2単位科目は1通（分冊1）、4単位科目は2通（分冊1・分冊2）必要となります。

なお、「かな書法」は、2単位ですが2通のリポートが必要です。

(3) リポート1通につき、**1,600字～2,000字**で作成します。

(4) ワープロの使用は認めませんので、**ペンを用いて手書きで作成**します（消せるタイプのペンは使用できません）。

6 リポートの提出

① リポート提出の要領

科目修得試験を受験するためには、事前にリポートを提出しておかなければなりません。

リポート提出の締切日は、年4回の実施回ごとに定められています（5ページ「Ⅱ 手続日程」参照）。

したがって、皆さんのが“いつ・どの科目を受験するか”の計画を立てれば、リポート提出のスケジュールが定まります。

② リポート提出締切日の取扱い

リポートは、郵送又は窓口で受け付けますが、いずれも締切日の事務取扱時間内に到着した分まで有効です。郵送の場合、消印有効ではありませんので注意してください。

③ リポートの効力

科目修得試験の受験条件は、締切日までに必要な通数のリポートが提出してあることであり、試験前に合格していなくても受験は可能です。

ただし、リポートが合格しなければ、科目的所定単位が完成しません。

したがって、当該科目について、事前に提出したリポートが不合格で、科目修得試験が合格した場合、試験の合格結果は在学中有効なので、不合格のリポートが合格すれば当該科目的単位は完成します。

また、事前に提出したリポートが合格で、科目修得試験が不合格の場合、リポートの合格結果は在学中有効なので、科目修得試験が合格すれば、当該科目的単位は完成します。

④ 不備・無効リポート

以下の事項に該当する「不備・無効リポート」は、受理をせず返却します。たとえ科目修得試験のリポート締切日以前にリポートが到着していても、不備により返却された場合には、締切に間に合ったことにはなりません。

特にリポート締切日間際には、「不備・無効リポート」が多く見受けられますので、十分注意してください。

【不備・無効リポートの例】

- (1) 解答形式が異なる（縦書・横書）。
- (2) 鉛筆又はワープロ等を使用している（消せるタイプのペンも使用不可）。
- (3) 複数の課題から選択することが指示されている場合に、選択した課題番号に○印を付けていない。
- (4) 課題及びバーコードシールが貼付されていない。
- (5) 課題の有効期限が過ぎている。
- (6) 未解答及び白紙、字数の過不足がある。

* 上述の内容は不備・無効リポートの一例ですので、詳しくは『リポート課題集（報告課題集）』を参照してください。

⑤ その他

- (1) 返却されたリポートは在籍期間中大切に保管してください。
- (2) 郵便事故によるリポート未着について、いかなる配慮も行ないませんので、郵送の場合は、郵便局窓口から特定記録郵便（リポート1通175円）で郵送することをお勧めします。また、不慮の郵便事故に備えて、提出するリポートは必ず写しを取って保管しておいてください。
- (3) リポート用紙は、入学時に20通配布します。その後、必要な場合は各自で購入してください。（1組20通1,000円）。購入の際は、ポータルサイトから「リポート用紙購入願」を印刷し、使用してください。

7 受験申込

申し込み上の注意事項

「ポータルサイト」と「受験届」の両方で申込みがあった場合は、「ポータルサイト」の内容を有効とします。

① 「ポータルサイト」による申込み

●申込みの前に

1	申込みには、IDとパスワードが必要です。 ID = 学生番号 初期パスワード = 自分の西暦生年月日（半角数字8桁）
2	申込みには、パソコンのメールアドレスの登録が必要です。 登録していない場合は、「ポータルサイト」にある「NU-AppsG（在学生専用メールアカウント）」を参照して登録してください。
3	事前に履修登録が必要です。 9ページ参照

●申請方法

1 通信教育部ホームページ（URL： http://www.dld.nihon-u.ac.jp ）の「在学生ログイン」をクリックしてください。	
--	--

2	<p>「学生メニュー」をクリックし、「科目修得試験申請・取消」をクリックしてください。</p>	
3	<p>「試験期間」・「開催場所」を選択し、検索をクリックしてください。 ※実施回ごとに申込期間が違いますので、P.5 の手続日程を確認してください。</p>	
4	<p>受験したい科目的チェックボックスを選択し、[申請]をクリックしてください。申請確認画面で科目を確認し、[申請実行]をクリックしてください。最終確認ができるので、「OK」をクリックしてください。 ※履修登録を行った科目のみ表示されます。必ず事前に履修登録を行ってください。</p>	

●受付完了

申請受付が完了すると、登録されているメールアドレスに受付メールが配信されますので、必ず確認してください。配信されない場合は、申込確認画面で確認してください。

※いかなる場合でも、申込受付が完了していないければ受験申込として受付できませんので、申込の受付状況は、十分確認してください。

科目修得試験申請一覧							
■ 申請済み科目修得試験一覧							
選択	期間	試験実施年月日	申請期限	開催場所	時限	試験コード	科目名
<input checked="" type="checkbox"/>	2	2016/06/26	2016/06/01	東京 日本大学通信教育部	第3時限	G111000217	歴史学

申請が完了した科目が
こちらに表示されます。

●申請確認

「ポータルサイト」で確認することができます。

1	申請方法の1・2の手順で、ログインしてください。	
2	<p>「学生メニュー」をクリックし、「科目修得試験情報一覧」をクリックしてください。</p>	

3	申請内容が表示されます。	<p>科目修得試験情報一覧</p> <p>開講年度: 2015 全て 検索</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>開講年度</th> <th>試験期間</th> <th>試験実施年月日</th> <th>開催地</th> <th>時限</th> <th>試験コード</th> <th>科目名</th> <th>状態</th> <th>申請年月日</th> <th>採点年月日</th> <th>評価</th> <th>担当者</th> <th>備考</th> <th>受験票</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2015</td> <td>3</td> <td>2015/10/04</td> <td>東京</td> <td>3</td> <td>K3090000315</td> <td>行政法Ⅰ</td> <td>採点中</td> <td>2015/08/16</td> <td></td> <td></td> <td>池村正道</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2015</td> <td>2</td> <td>2015/06/28</td> <td>東京</td> <td>1</td> <td>B121000217</td> <td>心理学</td> <td>採点済</td> <td>2015/05/23</td> <td>2015/07/13</td> <td>合格</td> <td>藤田圭一</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>3</td> <td>B111000217</td> <td>歴史学</td> <td>申請中</td> <td>2015/05/23</td> <td></td> <td></td> <td>藤井信行</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	開講年度	試験期間	試験実施年月日	開催地	時限	試験コード	科目名	状態	申請年月日	採点年月日	評価	担当者	備考	受験票	2015	3	2015/10/04	東京	3	K3090000315	行政法Ⅰ	採点中	2015/08/16			池村正道			2015	2	2015/06/28	東京	1	B121000217	心理学	採点済	2015/05/23	2015/07/13	合格	藤田圭一							3	B111000217	歴史学	申請中	2015/05/23			藤井信行		
開講年度	試験期間	試験実施年月日	開催地	時限	試験コード	科目名	状態	申請年月日	採点年月日	評価	担当者	備考	受験票																																													
2015	3	2015/10/04	東京	3	K3090000315	行政法Ⅰ	採点中	2015/08/16			池村正道																																															
2015	2	2015/06/28	東京	1	B121000217	心理学	採点済	2015/05/23	2015/07/13	合格	藤田圭一																																															
				3	B111000217	歴史学	申請中	2015/05/23			藤井信行																																															

●申請内容の変更・取りやめ

申込期間内に限り、「ポータルサイト」で変更・取りやめをすることができます。

<p>申込内容を変更する場合には、一旦、申請内容を削除する必要があります。「学生メニュー」をクリックし、「科目修得試験申請・取消」をクリックし、申請済み科目修得試験一覧より、科目を選択し、削除してから、再度申請を行ってください。</p>	<p>科目修得試験申請一覧</p> <p>■ 申請済み科目修得試験一覧</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>選択</th> <th>期間</th> <th>試験実施年月日</th> <th>申請期限</th> <th>開催場所</th> <th>時限</th> <th>試験コード</th> <th>科目名</th> <th>申請年月日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>□</td> <td>2</td> <td>2016/06/26</td> <td>2016/06/01</td> <td>東京 日本大学 通信教育部</td> <td>第3時限</td> <td>B11000217</td> <td>歴史学</td> <td>2016/05/20</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">取消</p> <p>■ 未申請科目修得試験検索</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>試験期間※必須</td> <td>選択してください ▾</td> </tr> <tr> <td>開催場所※必須</td> <td>選択してください ▾</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">検索</p>	選択	期間	試験実施年月日	申請期限	開催場所	時限	試験コード	科目名	申請年月日	□	2	2016/06/26	2016/06/01	東京 日本大学 通信教育部	第3時限	B11000217	歴史学	2016/05/20	試験期間※必須	選択してください ▾	開催場所※必須	選択してください ▾
選択	期間	試験実施年月日	申請期限	開催場所	時限	試験コード	科目名	申請年月日															
□	2	2016/06/26	2016/06/01	東京 日本大学 通信教育部	第3時限	B11000217	歴史学	2016/05/20															
試験期間※必須	選択してください ▾																						
開催場所※必須	選択してください ▾																						

※ 申請期間の過ぎた科目修得試験は、受付できません。

② 「受験届」による申込み（ポータルサイトで申込みを行った場合は不要です）

「受験届」による申込みは、以下の要領で本誌巻末の「受験届」を作成し、教務課に提出してください。※別の実施回の受験届を使用した場合は無効になります。

(1) 記入上の注意

ア 会場コード・会場名

受験を希望する会場コード及び会場名です。

「V 試験会場一覧」を参照して記入してください。

イ 科目コード・科目名

受験を希望する科目コード及び科目名です。

「III 試験時間割」を参照して記入してください。

ウ 学生番号・氏名

記入上の注意事項	
<p>(1) 黒のボールペンを使用し、楷書で正確に記入してください。</p> <p>(2) 「受験届」提出締切後の追加、変更はできません。</p> <p>(3) 記入誤り、記入漏れによる追加変更は一切いたしません。</p> <p>(4) 次の場合、大学の判断により事務的な処理にて受験の決定を行いますので、希望科目を受験できない可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乱雑な記入 ・記入誤り、記入漏れ ・記入した科目コード、科目名の不一致 	

《記入例》

(2)	<p>□ 内をすべて記入してください。 日本大学通信教育部 副中 (提出先: 教務課試験係)</p> <p>平成 30 年度 第2回 科目修得試験受験届</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>年</th> <th>月</th> <th>日</th> <th>実施回</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2018</td> <td>6</td> <td>24</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>会場コード</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>K</td> </tr> <tr> <td>会場名</td> <td colspan="6">日本大学通信教育部</td> </tr> </table> <p>受験希望科目</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>時限</th> <th>科 目 コ 代</th> <th>科 目 名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>C 1 0 1 0 0</td> <td>英語Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>B 1 1 1 0 0</td> <td>歴史学</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>■ 提出締切日 <u>平成 30 年 5 月 30 日 (水)</u> 窓口提出: 事務取扱時間内 郵送提出: 必着 ■ これは窓口にて、提出してください。 ■ これは、平成 30 年度第2回科目修得試験の受験届です。それ以外の科目修得試験でこの受験届で申し込みの場合、無効となります。 ■ 本受験届は、上記科目修得試験の受験に関する事項について使用します。 ■ 履修登録を行っていない科目は、本用紙のみでは申込が完了しません。 必ず、履修登録を行ってください。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>学 生 番 号</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>8</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>フ リ ガ ナ</td> <td colspan="7">ニチダイ タロウ</td> </tr> <tr> <td>姓 名</td> <td colspan="7">日大 太郎</td> </tr> <tr> <td>自宅電話番号</td> <td colspan="7">03-5275-8911</td> </tr> <tr> <td>緊急連絡電話番号</td> <td colspan="7"></td> </tr> </table> <p>教務課受付印</p>	年	月	日	実施回	2018	6	24	2	会場コード	1	3	0	0	1	K	会場名	日本大学通信教育部						時限	科 目 コ 代	科 目 名	1	C 1 0 1 0 0	英語Ⅰ	2			3	B 1 1 1 0 0	歴史学	4			学 生 番 号	1	1	1	8	1	0	0	0	フ リ ガ ナ	ニチダイ タロウ							姓 名	日大 太郎							自宅電話番号	03-5275-8911							緊急連絡電話番号							
年	月	日	実施回																																																																												
2018	6	24	2																																																																												
会場コード	1	3	0	0	1	K																																																																									
会場名	日本大学通信教育部																																																																														
時限	科 目 コ 代	科 目 名																																																																													
1	C 1 0 1 0 0	英語Ⅰ																																																																													
2																																																																															
3	B 1 1 1 0 0	歴史学																																																																													
4																																																																															
学 生 番 号	1	1	1	8	1	0	0	0																																																																							
フ リ ガ ナ	ニチダイ タロウ																																																																														
姓 名	日大 太郎																																																																														
自宅電話番号	03-5275-8911																																																																														
緊急連絡電話番号																																																																															

(2) 「受験届」を提出する（提出締切日は表紙を参照）

「受験届」の記入が終わったら、申込内容の控えをとり、「受験届」を教務課に提出してください。提出方法は以下の2通りです。

ア 教務課窓口に直接提出

教務課前に設置しているポスト（白色）に投函してください。【提出期限は事務取扱時間内】

イ 郵送で提出する

「受験届」を封筒に入れ、切手貼付の上、郵送してください。【提出締切日必着】

郵送提出においての注意事項

天災や郵便の遅延・未着そのほかの事故については、いかなる配慮も行いません。

「受験届」が教務課に届かなかった場合、受験ができなくなりますので、特定記録郵便・簡易書留・書留を強くお勧めします。

特定記録郵便の場合、大学での受領記録が残りませんので、「科目修得試験受験資格審査結果通知書」が届くまで、郵送した際の受領証を必ず保管してください。紛失の場合、郵便追跡確認ができなくなります。

また、リポート等、他の書類と一緒に送付するとその間にはさまってしまい、事故の原因になります。「受験届」は単体で送付してください。

(3) 受験科目的変更・追加

(1) 受験科目変更届の作成

用紙で受験科目的変更・追加をする場合は、本誌巻末の「受験科目変更届」を使用し、以下の記入例を参考に作成してください。

※変更・追加のために、複数の「受験届」用紙を使用した場合や他の実施回の「受験届」を使用した場合は、正しい申込みが判別不能となり、申込みが「無効」となりますので、決して使用しないでください。

(2) 記入事項

変更・追加する事項の記入を行うほかに変更前の申込科目の「科目コード」、「科目名」、「会場コード」及び「会場名」を明記してください。また、自己の学生番号・氏名も忘れずに記入してください。

(3) 提出先・提出方法

「受験届」提出と同様です。

(4) 提出締切

「受験届」提出の締切日と同一です。別途の日程はありません。

※郵送の場合は受験届の提出と同様に提出締切日必着です。

《記入例》

平成30年5月30日		
日本大学通信教育部教務課長 殿		
平成30年度科目修得試験受験科目変更届		
構のことについて、既に「受験届」にて申し込んだ受験科目を下記のとおり変更いたしました。本書面をもってお願ひいたします。		
記		
(受験希望回)		
実施回	2	
(当初の受験科目)		
時限	科目コード	科目名
1	C 1 0 1 0 0	英語I
2		
3	B 1 1 1 0 0	歴史学
4		
(変更後の受験科目)		
時限	科目コード	科目名
1	C 1 0 1 0 0	英語I
2		
3	C 1 0 2 0 0	英語II
4		
(受験希望会場)		
会場コード	1 3 0 0 1 K	
会場名	日本大学通信教育部	
上記のとおり相違ありません。		
学生番号	1 1 1 8 1 0 0 0	教務課受付印
フリガナ	ニチダイ タロウ	
氏名	日大 太郎	
自己薦否番号	03-5275-8911	
緊急時電話番号		

8 受験許可・不許可の確認

申込内容に基づき大学が受験資格審査を行い、その結果を通知します。ポータルサイトでの申請者には送付されません。ポータルサイト上の「科目修得試験情報一覧」にて同様の通知をPDFファイルで閲覧できますので、確認してください。

《受験資格審査結果通知書例》

科目修得試験受験資格審査結果				
2018年9月19日				
学 学 科 名	受験が許可された場合は、「○」 が表示されます。			
	時 限	科 目 コ ード	受 験 科 目	受 験 許 可
1	C10100	英語Ⅰ	×	認定済
2	N31700	異文化間コミュニケーション概論	○	
3	N31600	英米事情Ⅱ	○	
4	H10100	保健体育講義Ⅰ	×	リポート未提出

申込みに不備があった場合
に表示されます。【主な不
備理由】を参照ください。

不許可理由として、特に多い内容を以下に参考として掲載します。

履修なし・不配当科目

- 履修登録なしとは、受験届に記載された科目が事前に必要な履修登録の手続がなされていない場合のことをいいます。受験することはできません。
- 不配当科目とは、配当学部・学科以外の科目のことをいい、受験することはできません。

リポート未提出・リポート数不足

4単位科目の場合、分冊1と分冊2の2通のリポート提出が必要です。以上の条件が満たされていない場合は、リポート不足あるいは未提出となります。また、提出期限以降に提出したりポートは期間外扱いとなり、今回の科目修得試験は受験できません。

なお、異議のある場合は、教務課（試験係）まで問い合わせてください。

以上

日本大学通信教育部
東京都千代田区九段南4-8-28
電話：03-5275-8911

〒102-8005
東京都千代田区九段南
4-8-28
日大 太郎 殿
2218100
(科目修得試験受験資格審査結果通知)

【時限・科目コード・科目名の確認】

必ず時限・科目コード・科目名を確認してください。

【主な不備理由一覧】

○履修なし

受験届のみ提出している場合に表示されます。科目修得試験の受験はできません。

○不配当科目

配当学部・学科以外の科目のことをいいます。科目修得試験の受験はできません。

○リポート未提出・リポート数不足

リポートの提出数が所定の通数に達していない場合に表示されます。科目修得試験の受験はできません。

9 受験票

受験が許可された科目名や試験会場等が記載された「受験票」を、試験日の約一週間前に発送します。

なお、試験日の5日前になんでも「受験票」が届かない場合は、「ポータルサイト」の「学生メニュー」⇒「科目修得試験情報一覧」より、受験票の印刷が可能です。なお、記載内容に疑義等がある場合は、教務課試験係まで連絡してください（電話 03-5275-8911）。

郵便はがき	2	
料金別納郵便		
〒102-8005 東京都千代田区九段南 4-8-28		
日大 太郎 殿 (学生番号: 12181000)		
科目修得試験受験票		
試験日	2018年6月24日(日)	
会場名	日本大学通信教育部	
特記事項		
時限・時間	受験科目	単位
1 10:00~11:00	C10100 英語Ⅰ	2
2 11:20~12:20		
3 13:10~14:10	C10200 英語Ⅱ	2
4 14:30~15:30		

日本大学通信教育部

V 試験会場一覧

科目修得試験の開催地・会場名等は次表のとおりです。各会場の「○」の入っている回に開催されます。
「-」の回は開催されません。

諸般の事情により急きよ、会場を変更する場合がありますが、その際は『ポータルサイト』等で告知します。

(会場マップは29~37ページに掲載)

地域	開催地	会場コード	会 場 名	第1回 4/15	第2回 6/24	第3回 10/21	第4回 12/9
北海道	札幌	01013K	札幌日本大学高等学校	○	○	○	○
	函館	01018K	函館短期大学	-	○	-	○
	釧路	01027K	釧路市鳥取コミュニティセンター	○	○	○	○
	帯広	01028K	とかちプラザ	○	○	○	○
	旭川	01041K	旭川市勤労者福祉会館	○	○	○	○
	網走	01040K	オホーツク・文化交流センター	-	-	-	○
東北	青森	02013K	県民福祉プラザ	-	○	-	○
	八戸	02011K	友の会福祉会館	○	-	○	○
	盛岡	03003K	岩手公会堂	○	-	-	-
		03005K	アイーナ（いわて県民情報交流センター）	-	○	○	○
	仙台	04006K	南光学園東北高等学校（小松島キャンパス）	○	○	○	○
	秋田	05002K	ノースアジア大学	-	○	-	○
	山形	06001K	日本大学山形高等学校	○	○	○	○
	郡山	07002K	日本大学工学部	○	○	○	○
関東	水戸	08014K	茨進ゼミナール 水戸駅前総本部校	○	○	○	○
	土浦	08007K	土浦日本大学高等学校	○	○	○	○
	宇都宮	09003K	栃木県教育会館	○	○	○	○
	前橋	10007K	群馬会館	○	○	○	○
	習志野	12001K	日本大学生産工学部（津田沼校舎）	○	○	○	○
	東京	13001K	日本大学通信教育部	○	○	○	○
	藤沢	14002K	日本大学生物資源科学部（湘南校舎）	○	○	○	○
中部	新潟	15001K	東京学館新潟高等学校	○	○	○	○
	富山	16002K	富山県民会館	-	-	-	○
	金沢	17006K	石川県文教会館	○	-	○	○
		17007K	ITビジネスプラザ武蔵	-	○	-	-
	甲府	19003K	帝京西東京予備校（本部校舎）	-	○	-	○
	長野	20003K	長野日本大学高等学校	○	○	○	○

地域	開催地	会場コード	会 場 名	第1回 4/15	第2回 6/24	第3回 10/21	第4回 12/9
中部	松本	20008K	松本市商工会議所	○	—	—	—
		20005K	松本市駅前会館	—	○	○	○
	三島	22001K	日本大学国際関係学部	○	○	○	○
	静岡	22010K	静岡駅ビル パルシェ会議室	○	○	○	○
	名古屋	23004K	愛知県青年会館	○	—	—	—
		23012K	ゼミナールプラザ（金山プラザホテル）	—	○	○	○
	津	24001K	津工会館	—	○	—	○
近畿	京都	26009K	京都アスニー	○	○	○	○
	大阪	27014K	大阪学園大阪高等学校	○	○	○	○
	神戸	28002K	兵庫県民会館	○	○	○	○
中国・四国	米子	31007K	国際ファミリープラザ	—	○	—	—
	松江	32004K	ろうかん（労働会館）	—	—	—	○
	岡山	33007K	おかやま西川原プラザ	○	○	○	○
	広島	34003K	広島市立広島工業高等学校	○	○	○	○
	山口	35002K	山口県婦人教育文化会館	○	○	○	○
	徳島	36006K	徳島市生涯福祉センター（ふれあい健康館）	—	○	—	○
	高松	37005K	高松市生涯学習センター	○	—	○	—
	松山	38001K	ひめぎんホール 別館	—	○	—	○
	高知	39004K	高知県立県民文化ホール	○	—	○	—
九州・沖縄	福岡	40016K	福岡県水産会館	○	○	○	○
	諫早	42004K	長崎日本大学高等学校（明倫館）	○	○	○	○
	熊本	43001K	ユースピア熊本（県青年会館）	○	○	○	○
	大分	44006K	大分市大分南部公民館	○	○	○	○
	宮崎	45001K	宮崎日本大学高等学校	○	○	○	○
	鹿児島	46001K	鹿児島県市町村自治会館	—	○	○	—
		46005K	鹿児島県社会福祉センター	○	—	—	○
	那霸	47004K	沖縄県青年会館	○	○	○	○

VI 試験会場マップ

科目修得試験会場として使用する会場を掲載しています。

急きょ、会場を変更した場合は『ポータルサイト』等で告知します。

なお、事前に送付される受験票に試験会場が明記されますので、そちらを必ず確認した上で試験に臨んでください。

※ 会場についての問い合わせは、教務課試験係（TEL 03-5275-8911）までお願いします。

※ 開催地の後に付されている数字は実施回を示します。

※ 会場によっては上履き（スリッパ等）を使用する場合があります。

※ 喫煙場所は会場の指示にしたがってください。

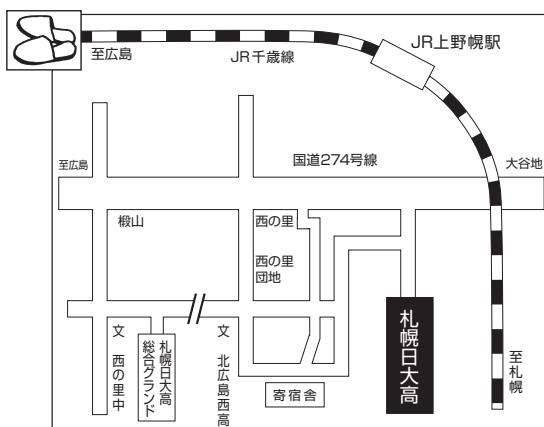


: この表示のある会場では、必ず上履きを持参してください。

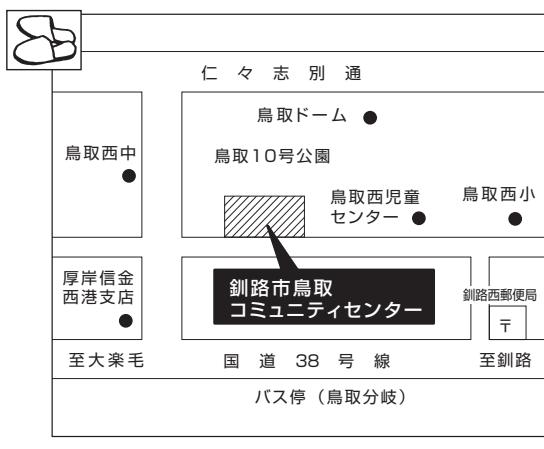


: この表示のある会場では、必ず「首下げ式のネームプレート」による学生証の提示が必要です。首下げ式のケースを学生が各自で用意してください。

開催地	札幌	会場コード	01013K
会場名	札幌日本大学高等学校		
所在地	北広島市虹ヶ丘 5-7-1		
交通案内	JR 千歳線「上野幌」駅から徒歩約 7 分		
マップ			



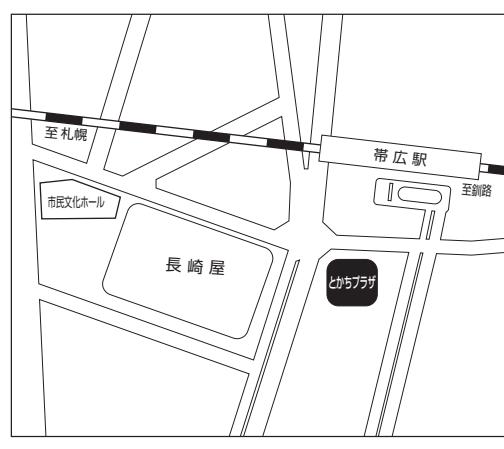
開催地	釧路	会場コード	01027K
会場名	釧路市鳥取コミュニティセンター		
所在地	釧路市鳥取北 8-3-10		
交通案内	JR「釧路」駅から大楽毛・白糖方面行きバス「西郵便局前」降車徒歩約 2 分		
マップ			



開催地	函館（第2・4回のみ）	会場コード	01018K
会場名	函館短期大学		
所在地	函館市高丘町 52-1		
交通案内	JR「函館」駅前から函館バス「函館大学前」降車徒歩 1 分		
マップ			



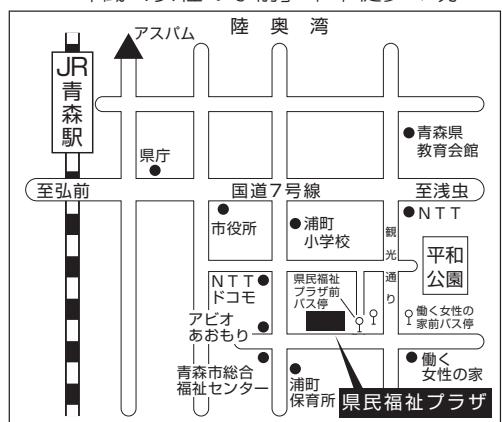
開催地	帯広	会場コード	01028K
会場名	とかちプラザ		
所在地	帯広市西 4 条南 13 丁目 1 番地		
交通案内	JR「帯広」駅から徒歩約 3 分		
マップ			



開催地	旭川	会場コード	01041K
会場名	旭川市勤労者福祉会館		
所在地	旭川市6条通4丁目		
交通案内	「旭川」駅より徒歩15分		
マップ			



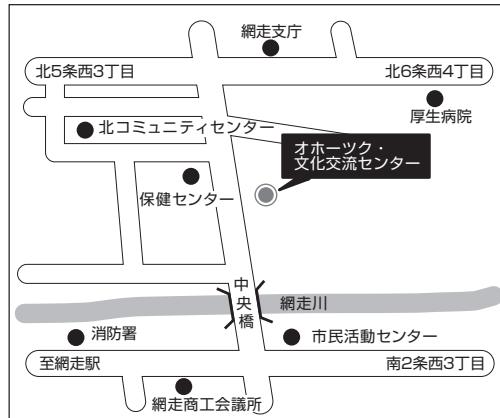
開催地	青森（第2・4回のみ）	会場コード	02013K
会場名	県民福祉プラザ		
所在地	青森市中央3丁目20番30号		
交通案内	中央環状線「県民福祉プラザ前」下車 JR青森駅前3番乗場よりバスで15分 「働く女性の家前」下車徒歩1分		
マップ			



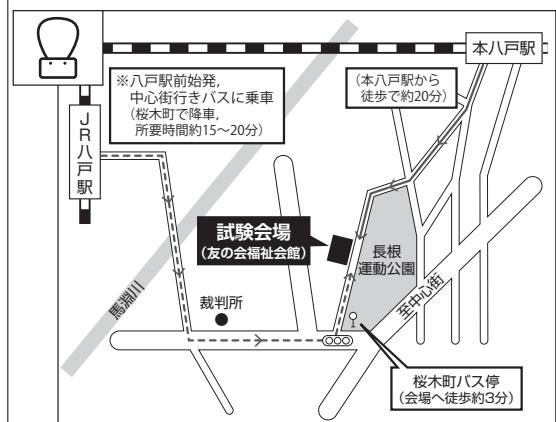
開催地	盛岡（第1回のみ）	会場コード	03003K
会場名	岩手県公会堂		
所在地	岩手県盛岡市内丸11-2		
交通案内	バス『県庁・市役所前』下車、盛岡駅⑤⑥番線「茶烟」「都南の園」「たら山」「バスセンター」「日詰」「本宮・飯岡」行き、盛岡駅⑪⑯番線 盛岡都市循環バス「でんでんむし」		
マップ			



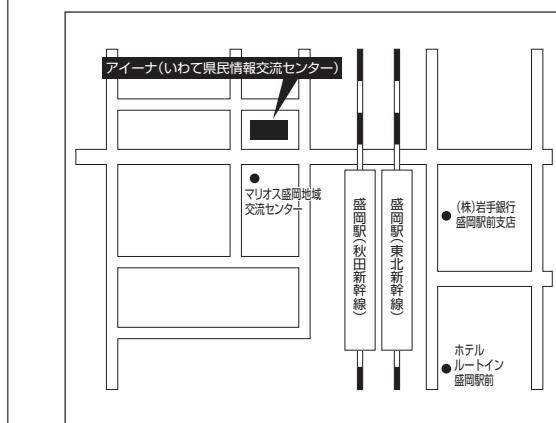
開催地	網走（第4回のみ）	会場コード	01040K
会場名	オホーツク・文化交流センター		
所在地	網走市北2条西3丁目3番地		
交通案内	JR石北本線「網走」駅から徒歩5分		
マップ			



開催地	八戸（第1・3・4回のみ）	会場コード	02011K
会場名	友の会福祉会館		
所在地	八戸市長根1丁目2-8		
交通案内	JR「八戸」駅から中心街行き「桜木町」降車徒歩約3分		
マップ			



開催地	盛岡（第2・3・4回のみ）	会場コード	03005K
会場名	アイーナ（いわて県民情報交流センター）		
所在地	盛岡市盛岡駅西通1丁目7番1号		
交通案内	JR・IGR「盛岡」駅から徒歩4分		
マップ			



開催地	仙台	会場コード	04006K
会場名	南光学園東北高等学校(小松島キャンパス)		
所在地	仙台市青葉区小松島4-3-1		
交通案内	JR「仙台」駅前からバス旭ヶ丘駅行き 「東北薬科大東北高校前」降車。JR仙山線 「東照宮」駅下車徒歩約20分 地下鉄「台原」駅から徒歩約15分		
マップ			



開催地	山形	会場コード	06001K
会場名	日本大学山形高等学校		
所在地	山形市鳥居ヶ丘4-55		
交通案内	JR「山形」駅からバス上山線「元木」 降車徒歩約5分		
マップ			



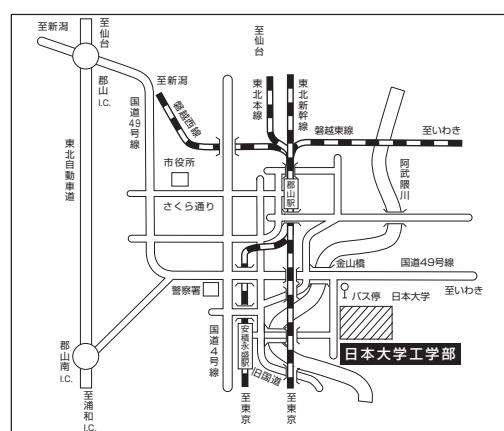
開催地	水戸	会場コード	08014K
会場名	茨進ゼミナール 水戸駅前総本部校		
所在地	水戸市宮町2-1-10		
交通案内	JR常磐線「水戸」駅（北口）から徒歩 約4分		
マップ			



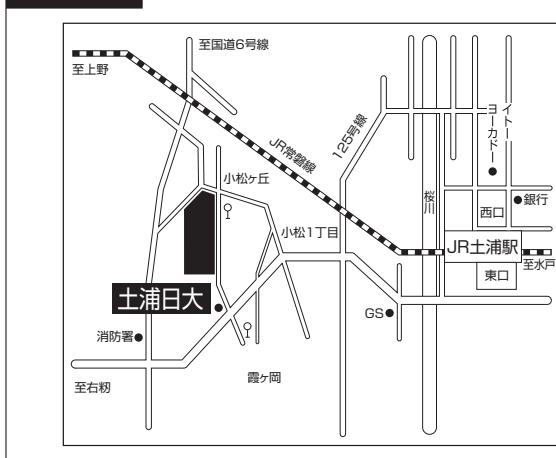
開催地	秋田(第2・4回のみ)	会場コード	05002K
会場名	ノースアジア大学		
所在地	秋田市下北手桜守沢46-1		
交通案内	JR「秋田」駅（東口）からバスノースア ジア大学行き「ノースアジア大学前」降車 徒歩約2分		
マップ			



開催地	郡山	会場コード	07002K
会場名	日本大学工学部		
所在地	郡山市田村町徳定中河原1		
交通案内	JR「郡山」駅からバス昭和町、日本大学 経由徳定行「日本大学」降車		
マップ			



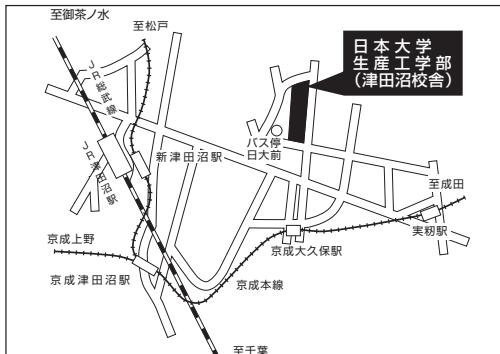
開催地	土浦	会場コード	08007K
会場名	土浦日本大学高等学校		
所在地	土浦市小松ヶ丘町4-46		
交通案内	JR常磐線「土浦」駅から徒歩約25分, バス荒川沖駅東口行き「小松ヶ丘」降車		
マップ			



開催地	宇都宮	会場コード	09003K
会場名	栃木県教育会館		
所在地	宇都宮市駒生 1-1-6		
交通案内 マップ	JR「宇都宮」駅から関東バス作新学院・駒生方面行き「東中丸」降車徒歩約1分		



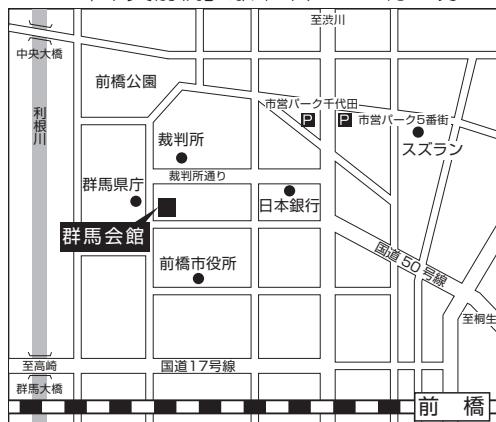
開催地	習志野	会場コード	12001K
会場名	日本大学生産工学部(津田沼校舎)		
所在地	習志野市泉町 1-2-1		
交通案内 マップ	JR「津田沼」駅北口④番バスのりばから京成バス「日本大学前」降車(近くに同じ生産工学部実験校舎がありますが、こちらでの実施はありませんので注意してください)		



開催地	藤沢	会場コード	14002K
会場名	日本大学生物資源科学部(湘南校舎)		
所在地	藤沢市亀井野 1866		
交通案内 マップ	JR「小田急江ノ島線六会日大前」駅から徒歩約3分		



開催地	前橋	会場コード	10007K
会場名	群馬会館		
所在地	前橋市大手町二丁目1番1号		
交通案内 マップ	JR両毛線「前橋」駅下車、バス約6分 「新前橋」駅下車、バス約7分 「中央前橋」駅下車、バス約7分		



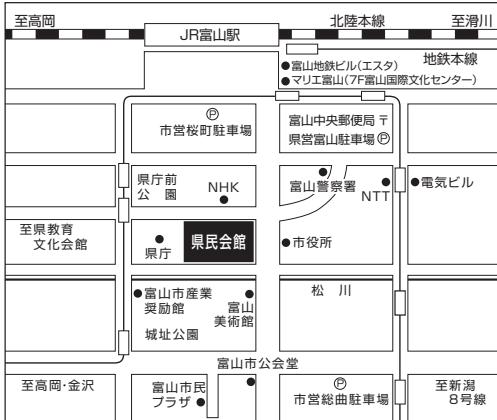
開催地	東京	会場コード	13001K
会場名	日本大学通信教育部		
所在地	千代田区九段南 4-8-28		
交通案内 マップ	JR中央・総武線「市ヶ谷」駅から徒歩3分、都営地下鉄新宿線、東京メトロ有楽町線・南北線「市ヶ谷」より徒歩2分		



開催地	新潟	会場コード	15001K
会場名	東京学館新潟高等学校		
所在地	新潟市中央鐘木 185-1		
交通案内 マップ	JR「新潟」駅(南口)から「市民病院行」バスで約20分「新潟産業センター前」降車徒歩約3分		



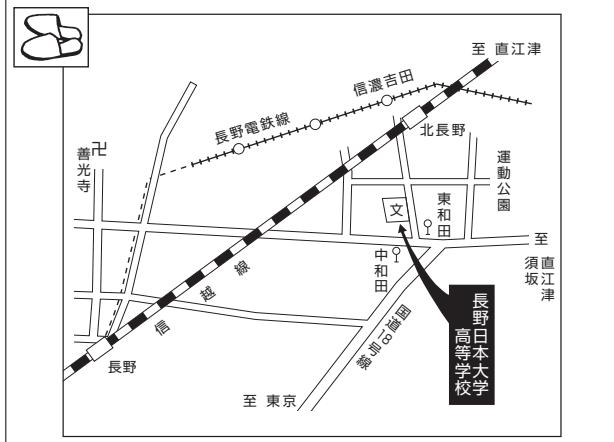
開催地	富山（第4回のみ）	会場コード	16002K
会場名	富山県民会館		
所在地	富山市新総曲輪4-18		
交通案内	JR「富山」駅（南口）から徒歩約10分		
マップ			



開催地	金沢（第2回のみ）	会場コード	17007K
会場名	ITビジネスプラザ武蔵		
所在地	金沢市武蔵町14番31号		
交通案内	JR「金沢」駅より徒歩10分		
マップ			



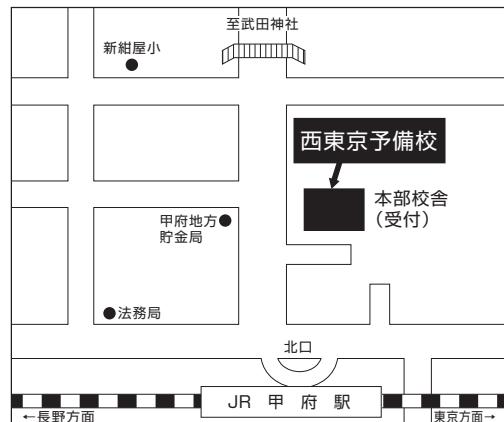
開催地	長野	会場コード	20003K
会場名	長野日本大学高等学校		
所在地	長野市東和田253		
交通案内	JR「北長野」駅から徒歩約13分		
マップ			



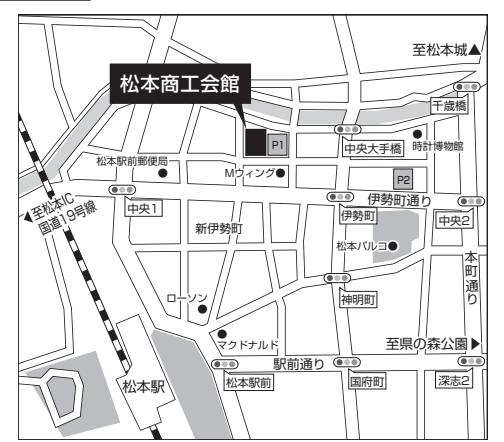
開催地	金沢（第1・3・4回のみ）	会場コード	17006K
会場名	石川県文教會館		
所在地	金沢市尾山町10-5		
交通案内	「金沢」駅より香林坊方面行き、「南町」下車、徒歩2分		
マップ			



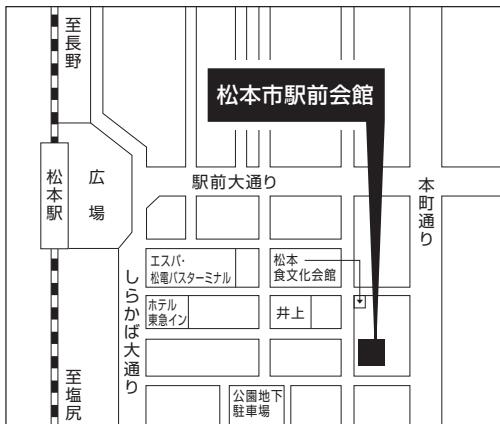
開催地	甲府（第2・4回のみ）	会場コード	19003K
会場名	帝京西東京予備校（本部校舎）		
所在地	甲府市北口2-15-4		
交通案内	JR「甲府」駅北口から徒歩約2分		
マップ			



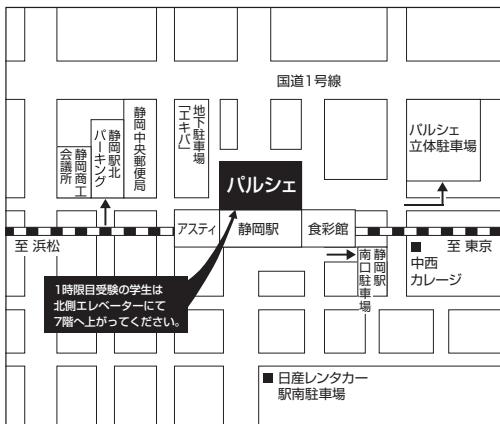
開催地	松本（第1回のみ）	会場コード	20008K
会場名	松本商工会議所		
所在地	長野県松本市中央1-23-1		
交通案内	JR篠ノ井線松本駅下車		
マップ			



開催地	松本（第2・3・4回のみ）	会場コード	20005K
会場名	松本市駅前会館		
所在地	松本市深志 2-3-21		
交通案内	「松本」駅から徒歩約10分 (近隣に有料駐車場あり)		
マップ			



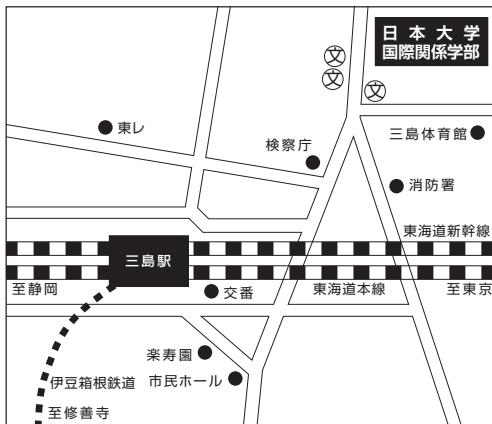
開催地	静岡	会場コード	22010K
会場名	静岡駅ビル パルシェ会議室（7階）		
所在地	静岡市葵区黒金町49番地		
交通案内	JR「静岡」駅直結（有料駐車場あり）		
マップ			



開催地	名古屋(第2・3・4回のみ)	会場コード	23012K
会場名	ゼミナールプラザ（金山プラザホテル）		
所在地	名古屋市中区正木3-7-15		
交通案内	JR・名鉄「金山総合」駅から徒歩7分		
マップ			



開催地	三島	会場コード	22001K
会場名	日本大学国際関係学部		
所在地	三島市文教町2-31-145		
交通案内	JR「三島」駅から徒歩約10分		
マップ			



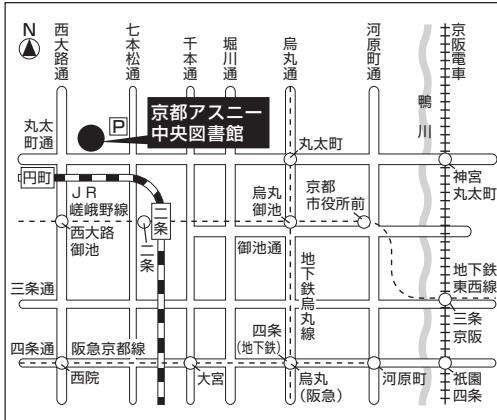
開催地	名古屋（第1回のみ）	会場コード	23004K
会場名	愛知県青年会館		
所在地	名古屋市中区栄1-18-8		
交通案内	市バス、名鉄向かい20乗車、「納屋橋」下車→リッチモンドホテル角、南へ250m地下鉄「伏見」駅下車、7番口、西へ300m→旧名宝会館角、南へ250m		
マップ			



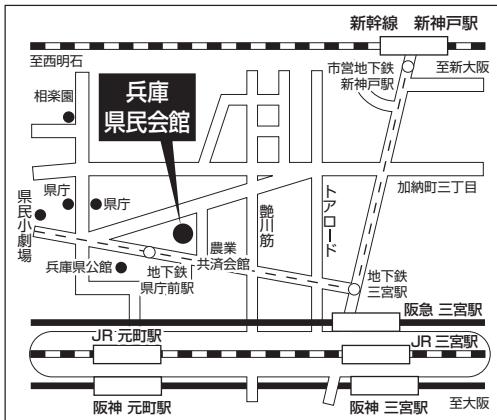
開催地	津（第2・4回のみ）	会場コード	24001K
会場名	津工会館		
所在地	津市半田川田町142		
交通案内	近鉄「津新町」駅から徒歩約15分		
マップ			



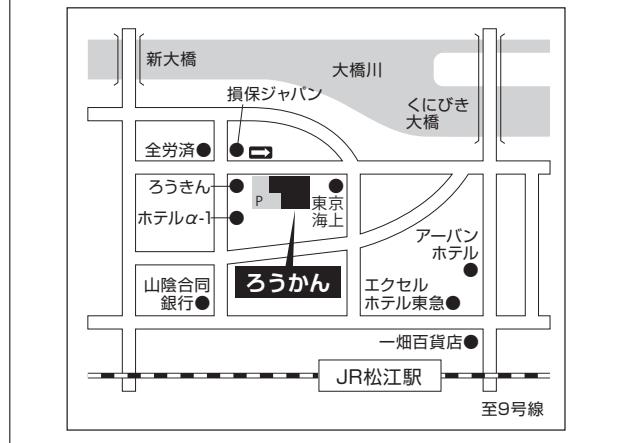
開催地	京都	会場コード	26009K
会場名	京都アスニー		
所在地	京都市中京区聚楽廻松下町 9-2		
交通案内	JR「円町」駅から徒歩 10 分		
マップ			



開催地	神戸	会場コード	28002K
会場名	兵庫県民会館		
所在地	神戸市中央区下山手通4丁目16-3		
交通案内	JR・阪神「元町」駅より徒歩7分、地下鉄「県庁前」駅東1・2出口徒歩1分		
マップ			



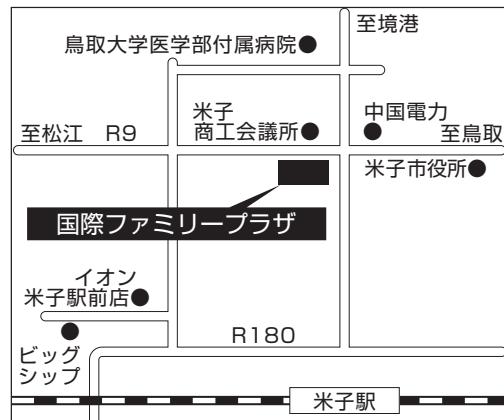
開催地	松江（第4回のみ）	会場コード	32004K
会場名	ろうかん（労働会館）		
所在地	島根県松江市御手船場町 557-7		
交通案内	JR「松江」駅より徒歩3分		
マップ			



開催地	大阪	会場コード	27014K
会場名	大阪学園大阪高等学校		
所在地	大阪市東淀川区相川 2-18-51		
交通案内	阪急京都線「相川」駅前から徒歩 1 分		
マップ			



開催地	米子（第2回のみ）	会場コード	31007K
会場名	国際ファミリープラザ		
所在地	鳥取県米子市加茂町2丁目180番地		
交通案内	JR「米子」駅より徒歩7分		
マップ	米子空港より車で約20分		



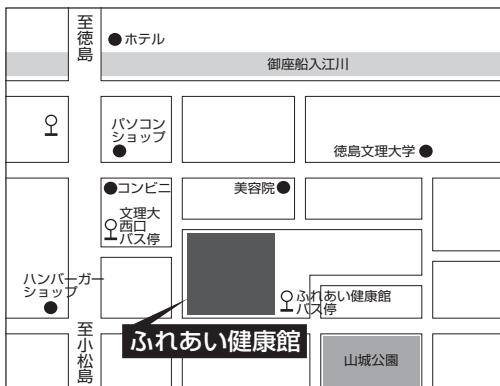
開催地	岡山	会場コード	33007K
会場名	おかやま西川原プラザ		
所在地	岡山市中区西川原255番地(おかやま西川原プラザ)		
交通案内	JR 山陽本線、赤穂線 西川原・就実駅 下車 北出口 徒歩 0 分		
マップ	宝塚マップ 西川原 (天下・日吉) 住印マップ		



開催地	広島	会場コード	34003K
会場名	広島市立広島工業高等学校		
所在地	広島市南区東本浦町1番18号		
交通案内 マップ	JR「広島」駅から広電バス④「市立工業高校前」下車		



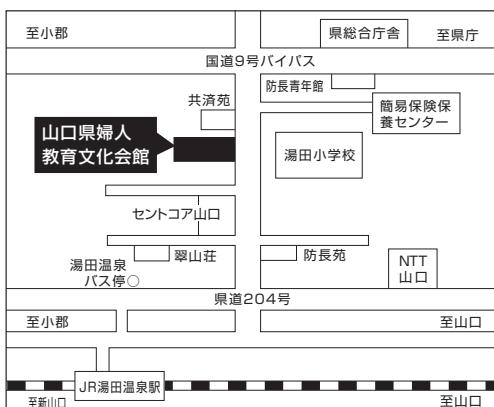
開催地	徳島(第2・4回のみ)	会場コード	36006K
会場名	徳島市生涯福祉センター(ふれあい健康館)		
所在地	徳島市沖浜東2丁目16番地		
交通案内 マップ	徳島市営バス(徳島駅前3番のりば)「ふれあい健康館行き」終点下車、徳島バス(徳島駅前5番のりば)バイパス経由小松島方面行き「文理大西口」下車		



開催地	松山(第2・4回のみ)	会場コード	38001K
会場名	ひめぎんホール 別館		
所在地	松山市道後町2丁目9番14号		
交通案内 マップ	JR「松山」駅から・伊予鉄市内電車(道後温泉前行)で約15分「南町・県民文化会館前」で下車・伊予鉄バス(道後温泉駅前行)で約20分		



開催地	山口	会場コード	35002K
会場名	山口県婦人教育文化会館		
所在地	山口市湯田温泉5-1-1		
交通案内 マップ	JR山口線「湯田温泉」駅から徒歩約15分		



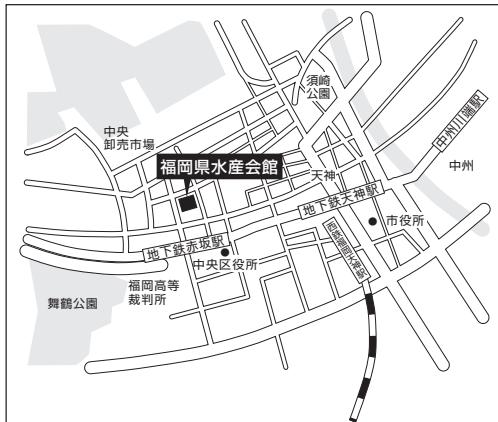
開催地	高松(第1・3回のみ)	会場コード	37005K
会場名	高松市生涯学習センター		
所在地	高松市片原町11番地1「むうぶ片原」ビル内		
交通案内 マップ	琴電「片原町」駅下車徒歩1分		



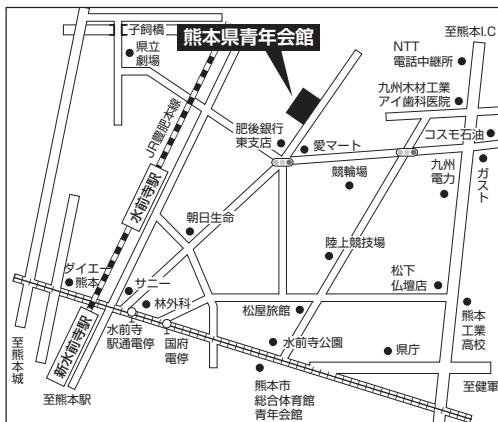
開催地	高知(第1・3回のみ)	会場コード	39004K
会場名	高知県立県民文化ホール		
所在地	高知市本町4丁目3-30		
交通案内 マップ	とさでん交通路面電車「高知駅前」(約5分)「はりまや橋」下車。「鏡川橋, 朝倉, いの方面行き」に乗り換え(約5分)「県庁前」下車 徒歩数分		



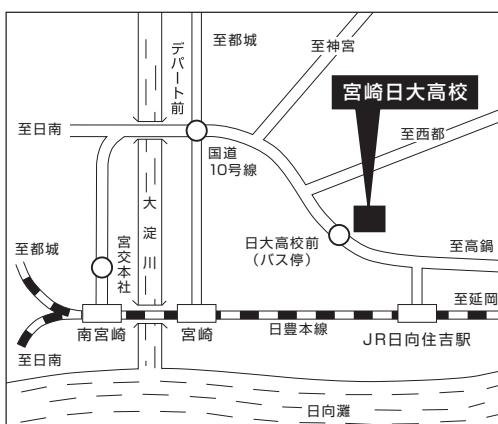
開催地	福岡	会場コード	40016K
会場名	福岡県水産会館		
所在地	福岡市中央区舞鶴 2-4-19		
交通案内 マップ	福岡市地下鉄「赤坂」駅 3番出口から徒歩約5分		



開催地	熊本	会場コード	43001K
会場名	ユースピア熊本		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺 3-17-15		
交通案内 マップ	市電「水前寺駅通」電停より徒歩10分		



開催地	宮崎	会場コード	45001K
会場名	宮崎日本大学高等学校		
所在地	宮崎市大字島之内 6822-2		
交通案内 マップ	JR「日向住吉」駅から徒歩約15分		



開催地	諫早	会場コード	42004K
会場名	長崎日本大学高等学校(明倫館)		
所在地	諫早市貝津町 2360		
交通案内 マップ	JR「西諫早」駅から徒歩約15分、県営バス「日大前」降車徒歩約2分		



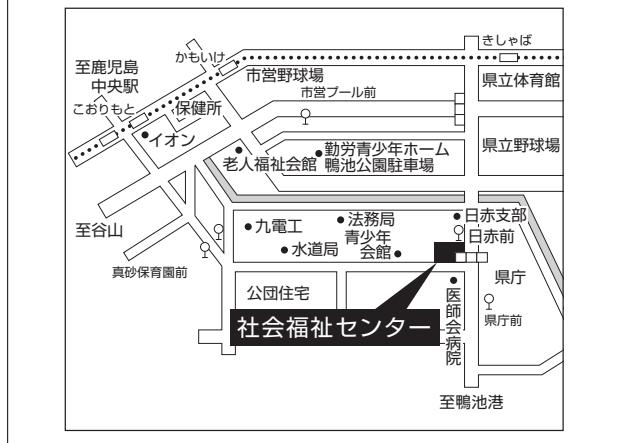
開催地	大分	会場コード	44006K
会場名	大分市大分南部公民館		
所在地	大分市大字曲 1113		
交通案内 マップ	JR「敷戸」駅から徒歩約15分		



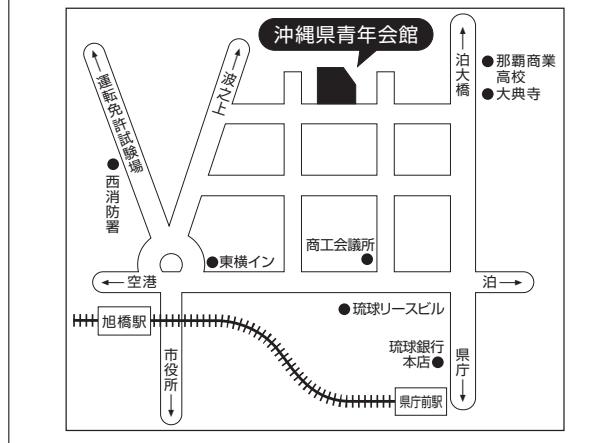
開催地	鹿児島 (第2・3回のみ)	会場コード	46001K
会場名	鹿児島県市町村自治会館		
所在地	鹿児島市鴨池新町 7-4		
交通案内 マップ	「鹿児島中央」駅からバス鴨池港行き「県庁西」降車徒歩約2分		



開催地	鹿児島（第1・4回のみ）	会場コード	46005K
会場名	鹿児島県社会福祉センター		
所在地	鹿児島市鴨池新町1-7		
交通案内	「郡元」「鴨池」下車、徒歩12分		
マップ			



開催地	那覇	会場コード	47004K
会場名	沖縄県青年会館		
所在地	那覇市久米2-15-23		
交通案内	モノレール「旭橋」駅から徒歩7分		
マップ			



VII 試験当日の注意

1 試験上の注意事項

<試験開始前>

- ① 監督者から試験開始の指示があるまでは、問題を開封しないこと。
- ② 携帯電話等は一切使用を禁止する。試験場内では電源を切り、鞄等に収納し、身体から離しておくこと。時計として使用することも禁止する。
- ③ 大学が許可した科目のみ解答すること。
- ④ 受験者は、試験開始時刻から30分以上60分以内で解答すること。
- ⑤ 解答は担当教員の指示がない限り、解答用紙1枚で解答し、2枚使用しての提出は認めない。
- ⑥ 解答作成の際、下敷き並びに修正液の使用は認めない。
- ⑦ 解答時の持込みは、原則として、「全可」か「不可」としているが、担当教員によっては、この取り扱いによらない場合がある。

<試験開始後>

- ① 監督者から「開始」の指示後、最初にペン又はボールペンで、解答用紙の記入欄に年度、実施回、時限、科目コード、科目名、担当教員名、受験年月日、学部、専攻部門、学生番号、氏名、試験場名（試験場コードでも良い）を正確に記入すること。当該事項の記載不明確、誤記又は記載なき答案は採点対象にならない場合がある。
- ② 当該試験時間に配付された解答用紙以外の用紙を使用した場合は、その試験は無効とする。
- ③ 解答用紙には問題の解答と関係のない記述はしないこと。
- ④ 参照物等の持込みが許可されている場合、貸借は認めない。この他、電子辞書、電子情報機器の使用も一切認めない。
- ⑤ 問題が縦書きの場合には、解答用紙も縦書きで記載し、問題が横書きの場合には解答用紙も横書きで記載すること。なお、縦書きとは、本冊子の左側部分を上に問題文が縦書きの場合であり、解答する場合には解答用紙も氏名等記入欄を左側にして、解答すること。
- ⑥ 改訂教材（新教材・旧教材）の科目を解答する場合には、必ず解答用紙の科目名欄に、科目名と併せて「新教材」・「旧教材」の区別を明記した上で解答すること。
- ⑦ 指定以外のものを参照した場合や時間を超過して解答した場合など、社会通念上、不正な方法により解答した場合には、不正行為とみなす。
- ⑧ 監督者の指示に従わない者、受験態度の良好でない者、その他不正行為があったとみなされた者については、受験を停止させ、退場を命じる。この場合、原則として受験した全科目を無効とし、学則に基づき処分を行う。
- ⑨ 試験開始後の一時退室は、原則として認めない。

<試験終了後>

- ① 退室は、試験開始30分経過後とし、それ以前の退室は一切認めない。また、30分経過後であっても監督者の判断によっては、退室を認めない場合もある。なお、一旦退室した者の再入室は認めない。
- ② 退室は、静かにかつ速やかに行い、その際、席取りのための目的で私物は残しておかないこと。
- ③ 解答用紙の持ち帰りは一切認めない。

2 試験時の参照物

科目修得試験の試験時参照物は「一切不可」（一切の参照物の持込禁止）です。ただし、例外として担当教員から参照物が許可された科目が一部ありますので、以下の参照物共通の注意事項を確認してください。

なお、参照物が許可された科目は『ポータルサイト』で告知します。

① 試験時参照物についての注意事項

- (1) 全ての参照物について、通信機能の有無にかかわらず「電子辞書」・「電子情報機器」の使用は一切認めません。
- (2) 参照物の「辞書」・「辞典」についても通信機能の有無にかかわらず「電子辞書」・「電子情報機器」の使用は一切認めません。
- (3) 参照物が「指定の六法のみ」の場合、次の9種類に限定し参考を認めます。
ただし、「六法」への書き込み（アンダーライン、マーカー含む）は一切認めません。また、「六法」付録の小冊子も参照物とは認められません。

『六法全書』（有斐閣）	『司法試験用六法』（第一法規）
『デイリー六法』（三省堂）	『旧司法試験用六法』（第一法規）
『ポケット六法』（有斐閣）	『新司法試験用六法』（第一法規）
『コンパクト六法』（岩波書店）	『基本六法』（岩波書店）
『セレクト六法』（岩波書店）	

- (4) 参照物が「全て可」の場合、次の物の参考を認めます。

教材	ノート（ルーズリーフ可）
参考書	辞書・辞典

また、参照物への書き込み（アンダーライン、マーカー含む）を認めますが、「六法」への書き込みは一切認めません。

なお、「電子辞書」・「電子情報機器」の使用は一切認めません。

VIII 試験結果

試験結果の発表は、「ポータルサイト」にて行われます。

また、受験届による申込者のみ通知を発送します。

試験結果は、「合格」「不合格」「未受験」のいずれかで表示されます。

1 試験結果

合格	100点満点中60点以上の評価を得ると「合格」です。 ただし、受験科目が合格しても、事前に提出したリポートが合格でなければ、所定単位が完成しません。
不合格	100点満点中60点未満の評価を得ると「不合格」です。 なお、試験結果が不合格でも、事前に提出したリポートが合格ならば、次回以降の試験に合格することで所定単位が完成します。
未受験	受験したにも関わらず、「未受験」と通知された場合は、通知日から1週間以内に教務課試験係までご一報願います（電話 03-5275-8911）。

2 結果反映の時期

次回の科目修得試験受験届提出期間日前には結果をお知らせする予定です。

反映時期の目安は、5ページ「II 手続日程」を参照してください。

いかなる事情があろうと試験結果について窓口・電話・郵便等での問い合わせには一切応じられません。

また、郵便物の天災による遅延・未着、その他の事故による未着については、いかなる配慮も行いません。

3 注意事項

予め提出したリポートが不合格で、科目修得試験が合格した場合は、以降他の単位修得方式に切り替えることはできません（その科目的単位を完成させるためには、リポートを合格させる必要があります）。

MEMO

試験結果

IX 学割証の発行 (長距離区間乗車時の学生割引制度)

1 申込方法

巻末の「学割証交付願」にて学生課へ郵送又は窓口で申請してください。

※郵送の場合は、82円切手を貼付した宛名明記の返信用封筒が必要です。

2 発行対象条件 (全項目該当が条件)

- ① 正科生であること。
- ② 科目修得試験を受験することが目的であること。
- ③ JR 各社の鉄道又はバスを使用すること。
JR以外の会社における学割証の適応の可否は、当該会社に各自で問い合わせてください。
- ④ 乗車距離が片道 101km 以上であること。

3 割引額

普通乗車券運賃の 2 割 (特急券や指定券は割引き対象外)

4 乗車日 (有効期間)

乗車日は当該行事初日の 10 日前から最終日の 5 日後までの間に限り選択することができます。

学割証には交付願に記載された乗車日が「有効期間」として記載されますが、この「有効期間」とは乗車券を購入できる期間のことです。その期間内でなければ、乗車券は購入できません。

5 発行枚数

原則として 1 枚です (1 枚で往復が購入できます)。

6 往復乗車券有効期間

往復乗車券の有効期間は以下のとおりです。

片道の距離 (km)	200kmまで	400kmまで	600kmまで	800kmまで	1000kmまで
有効期間	4 日間	6 日間	8 日間	10 日間	12 日間

7 発行開始日

試験回	試験日	発行開始日
第 1 回	4月 15 日 (日)	3月 26 日 (月)
第 2 回	6月 24 日 (日)	6月 11 日 (月)
第 3 回	10月 21 日 (日)	9月 18 日 (火)
第 4 回	12月 9 日 (日)	11月 26 日 (月)

※ 発行開始以前の申請は、開始日まで保留とし、開始日以降に発行・発送となりますので、ご注意ください。

8 発行所要期間

発行開始日以降で、「学割証交付願」を受け付けてから 2 日後に発行します（即日発行はできません）。郵送の場合も同様で、受付日の 2 日後にポストに投函しますので、郵送に要する日数を考慮して申請してください。

※急ぎの場合であっても、発行所要時間を短縮することはできませんので、郵送で申請する場合は、速達郵便にて申請し、返信用封筒には速達郵便料金 362 円分の切手を貼付してください。

9 使用方法

JR 各駅の窓口にて「学割証」と「学生証」を提示することで「学生割引乗車券」を購入することができます。

10 禁止事項

「学割証」を不正に使用してはいけません。不正使用したことが発覚すると、「学割証」の発行が停止されるだけでなく、鉄道会社等の営業規則に基づき使用区間普通運賃の数倍の追徴金が課せられます。また、大学に対しても割引特典取り消し等の処分がなされるため、他の学生に多大な迷惑をかけることになります。不正使用は絶対に行わないでください。

なお、「学割証」を使用しなかった場合は、必ず学生課まで返却してください。

【不正使用の例】

① 記載事項を改変すること	④ 購入した乗車券を他人に譲渡すること
② 記名人以外が使用すること	⑤ 鉄道会社等の規則に違反して使用すること
③ 有効期間外に使用すること	⑥ その他、不正に使用すること

X Q & A

科目修得試験の受験に際して、皆さんからよく寄せられる質問をQ&Aでまとめました。

Question		Answer	
Q1	学内の友人から教材を譲り受けました。この教材を読んでリポートを作成してよいのですか。	A1	<p>はい。</p> <p>ただし、次の2点に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①リポート提出時には「履修登録」が必要です。提出前までに必ず登録をしてください。 ②教材は年度により改定される場合があります。譲り受けた教材は最新の教材なのか『教材要綱』等で必ず確認してください。
Q2	リポート作成に着手したいのですが、印刷教材が届きません。 印刷教材を入手するには、何か手続が必要ですか。	A2	<p>はい。</p> <p>印刷教材を入手するには「配本申請」が必要です。配本申請では毎年、年間32単位を上限とする印刷教材を受領することができます。</p> <p>年間で32単位分を超える教材が必要な場合は「教材購入」手続きにて購入してください。</p> <p>また、科目履修生は「配本申請」ができませんので、「教材購入」手続きによって印刷教材を入手してください。</p>
Q3	履修登録済み科目的教材が改訂されました。改訂後の新教材を用いて、最初からやり直さなければなりませんか。	A3	<p>いいえ。</p> <p>教材が改訂された年度内なら、改訂前の旧教材で受験できます。</p> <p>ただし、次年度は改訂された新教材で受験してください。</p>
Q4	リポートを提出したいのですが、いつでも提出できるのですか。	A4	<p>はい。</p> <p>ただし新入学生は、次の期日以降に提出してください。 4月入学生は4月1日。 10月入学生は10月1日。</p>
Q5	提出したリポートは、すぐに返却されますか。	A5	<p>いいえ。</p> <p>受付期間ごとに返却予定日を設けています。</p> <p>提出日によっては、2ヶ月程度かかることもあります。</p> <p>詳しくは「学修計画表」を参照してください。</p>
Q6	試験を受験するためにリポートを提出しましたが、試験直前に不合格で返送されました。それでも受験できるのですか。	A6	<p>できます。</p> <p>リポート提出期限までに、不備なく提出できていれば、不合格でも受験は可能です。</p>
Q7	リポートの提出期限さえ守れば、とりあえず何でもいいからリポートを提出すれば受験できるのですか。	A7	<p>できません。</p> <p>最低限のルールがあり、それが守られなければ不備リポート扱いとなり、受験できません。</p> <p>よくある代表的な不備リポートの例として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ①リポート課題の有効期間が守られていない。 ②指定した文字数内にまとまっているない。 ③鉛筆又はワープロを使用したリポート <p>その他不備となる例は、「リポート課題集（報告課題集）」を参照してください。</p>
Q8	第3回（10月）の試験を受験するために、リポートを提出したのですが、急用のため受験できませんでした。 そこで、第4回（12月）の試験で受験しようと思ったのですが、再度リポートを提出しなくてもよいのですか。	A8	<p>はい。</p> <p>その必要はありません。</p> <p>第3回（10月）の試験を受験するために提出したリポートが、第4回（12月）の試験でも有効だからです。ただし、第4回（12月）の試験に必要な受験申込手続は行ってください。</p>

Question		Answer	
Q9	試験には合格したのですが、リポートが不合格でした。この場合、リポートを不合格のまま放置するとどうなりますか。 また、不合格のまま放置すると、合格とされた試験結果は無効となるのですか。	A9	次のとおりです。 リポートを不合格のまま放置しても単位は修得できません。 リポートが不合格でも試験の合格結果は、在学中有効です。速やかにリポートを再提出して、合格してください。
Q10	今年入学したばかりですが、入学手続きが早かったので、既に印刷教材等を入手済みです。 一番早く受験できる科目修得試験の試験日を教えてください。	A10	次のとおりです。 4月生は第2回(6月)、10月生は第4回(12月)からの受験が可能です。
Q11	試験が年4回ありますが、合格は1回でよいのですか。	A11	はい。 1科目につき、1回合格すればよいです。
Q12	4単位科目を「スクーリング(メディア授業を含む) + リポート + 科目修得試験方式」で修得することを考えています。 この場合のリポート通数は1通でよいのですか。	A12	はい(ただし条件つき)。 1通でよいのは、試験の実施回ごとに設けられたリポート提出期限までに、当該科目のスクーリング結果が合格であることが求められます。 したがって、リポート提出期限までに、当該科目のスクーリング結果が判明していない場合は、2通のリポートが必要です。
Q13	4単位科目を「スクーリング(メディア授業を含む) + リポート + 科目修得試験方式」で修得することを考えています。 既に当該科目をスクーリングで2単位合格済みです。 これからリポートを1通提出しようと思うのですが、課題は分冊1と分冊2のうち、どちらを選択してもよいのですか。	A13	はい。 分冊1、分冊2のいずれか1通を提出してください。
Q14	今年入学した1年生です。 翌年の第1回(4月)科目修得試験で、2学年配当の科目を受験できますか。	A14	できません。 手続日程の関係から、早くても第2回(6月)の試験からの受験となります。 10月入学生も同様で、第4回(12月)の試験から受験となります。
Q15	第2回(6月)の試験で政治学を受験しようとしたのですが、急用のため受験できませんでした。このような場合、それ以降の試験であれば、いつでも受験できるのですか。	A15	はい。 ただし、時間割のうえで政治学は、第1限の科目ですから、今後の試験で受験する場合は、时限が重複しないように計画的に受験しなければなりません。
Q16	試験の時間割を年度内に変更することがあるのですか。	A16	いいえ。 年度内に変更はありません。 したがって、時間割を念頭に入れた受験計画を立ててください。
Q17	事情により会場を変更したいのですが可能ですか。	A17	次のとおりです。 受験申込期間中であれば変更可能です。以下のどちらかで手続を行ってください。 ポータルサイト→一度申込みを取消したうえで、あらためて申込みを行ってください。 受験届→P.124の平成30年度科目修得試験受験科目変更届に記入をし、提出してください。

XI 学修上のアドバイス

科目修得試験の受験に際して、1年間を通じて参考となるアドバイスを掲載しています。

以下のことを留意した上で一読してください。

- 1 掲載内容は、科目に対する総合的なアドバイスであって、試験問題を直接連想させるものではありません。
- 2 **担当教員からアドバイスの提示があった科目のみを掲載しています。**
したがって、アドバイスの掲載がないからといって、試験が実施されないということではありません。
- 3 科目によっては、実施回ごとに担当教員が異なる場合があります。

B10700 哲 学

江川 晃

「哲学」の科目修得試験を受験する皆さんに、一言アドバイスするならば、教材がより一般的な哲学・思想史的内容となったことにより、身近にある多くの哲学関係の参考や資料等を使って、勉強が楽出来るようになりました。従って、この『西洋思想の要諦周覧』1冊を精読すると共に、他の哲学・思想関係の本を傍にいて勉強していただきたく思います。学問は、1冊や2冊を読んで理解する事はなかなか難しいでしょう。

多くの先人が精魂込めて書き上げた著書を精読し勉強して、「考えること」を学んでください。
哲学はけして「暗記」科目ではなく、「単なる知識」を持つ事でもなく、専ら Philosophieren する事により「英知を磨く」ことを目的とする学問であると思います。さあ、「哲学力」を鍛えましょう！

B10800 論 理 学

江川 晃

論理学は、今までの経験を通して既に無自覚的に身に付いている思考方法に対して、それが真に正しいものであるかどうかを、自覚的に検討するものだと思います。言葉は、「文法」を知ることよりも先に、知らず知らずに身に付いていきます。しかし、言葉をより正しく語り、記述する為には、「文法」の働きを借りなければなりません。同じように、我々はいつの間に言葉を身に付けて行く過程で、その背後に在る「論理」をも身に付けています。これらが正しい思考か否かを検証するのが論理学の課題のひとつであります。正しい方法が明らかに成れば、それに従って思考をすると常に正しい事が保証される事になります。

論理学を自己学習する事は大変ですが、その本は、積み重ねることであろうと思います。従って、教科書の初めから良く読み、理解し自己のものとして行く事が大切でしょう。具体的には、「思考の原理」を確実に理解し、「概念」に進み、次に、「概念の論理的機能」を学び、内包と外延の関係を理解します。概念と概念との関係から「概念の種類」を学ぶ事により、「判断論」を理解する事ができるようになります。

「判断論」で重要な事は、概念で学んだ「概念の論理的機能」とオイラーの図あるいはVenn図を用いて「判断の基本的形式」を導き出し、判断の最も基本である「定言判断」のAEIOの4種類を出します。これらの上に「推論」が展開されます。

「推理」には、一般的には定言判断を用いる推理を基本とし、仮言、選言判断を用いる推理もあります。さらに、推理は、その前提に何をおくかによって帰納、演繹に分ける事が出来ます。本年の論理学が取り扱うのは、主として「演繹的推理」であります。それは「直接」と「間接」に分けられ、「直接推理」は、対当と変形に分ける事が出来ます。最後に間接推理を学びます。具体的には、原論、概念論、判断論、推理論の順に理解を進めて行きましょう。さあ皆さん、鋭い洞察力を養うためにも「論理学」にチャレンジしましょう！

B10900 倫 理 学

笠松 幸一

配本テキストは、生命倫理、環境倫理、情報倫理を内包する応用倫理（学）に主眼がおかれています。応用倫理は、現代の科学技術が私たちの生（生命・生活・人生）に及ぼした強いインパクト（問題状況）の中から1970年代に成立しました。したがって、科学技術の急速な進展に相関しながら、応用倫理には新しい学説・理論・概念が続々と誕生しつつあります。

まずは各章の扉のページを読んで（本文よりも小文字で記されております）各章の概要を予め把握してください。次に本文を熟読吟味することに努めてください。皆さんは初めて触れる用語（ゲノム創薬、

テーラーメイド医療、自然の権利、遠隔責任、デジタル・デバイド、電子民主主義 etc.) に多少とまどうこともあるでしょう。

その際は、索引に示される他のページも読む、各節末に記される参考文献に触れる等により理解を深めてください。

B11000 宗教学**合田 秀行**

「宗教学」では、世界宗教と呼ばれるキリスト教・イスラム教・仏教をはじめとして、古今東西における様々な宗教、あるいは宗教的な諸現象について、広い知識の習得を目的とします。明確な信仰対象に基づく宗教教団の活動のみならず、宗教的な諸現象と呼ばれるものには、日本の伝統文化として根付いている正月行事に始まる年中行事や七五三・結婚式・葬式などの通過儀礼等も含まれます。そのように捉えると、「宗教学」が扱う対象は、極めて広範囲に及ぶと言っていいでしょう。

さて、宗教は人類の歴史とともに始まったと言えます。強いて言えば、先史時代の壁画からも呪術的儀礼を思わせる図柄や、発掘によって葬送の儀礼を物語るような遺跡等が発見されています。また、未開宗教やすでに消滅してしまった古代宗教に関する研究も宗教学の対象となります。

また、現在もなお信仰されている諸宗教の思想的特徴やその歴史的背景を理解することは、世界中の諸民族の根底にある精神文化の相互理解を深化させるという観点からも、極めて重要と言えます。指定テキストでは、とりわけ日本人と関係の深い神道・仏教をはじめとして、世界宗教であるキリスト教・イスラム教が、多くのページを割いて取り上げられています。

指定テキストにおいて、仏教・キリスト教・神道は、複数の单元にまたがっていますが、その他の諸宗教も含めて、それぞれの宗教ごとに、開祖が存在する場合には開祖に関する伝承、さらに思想的特徴や歴史的展開について、自分なりに整理しながら学習していくことを推奨します。仏教を例に挙げれば、開祖であるゴータマ仏陀についての知識、さらに初期仏教・部派仏教・大乗仏教における思想的特徴、仏教のインドにおける展開から、諸地域への伝播の歴史について、テーマごとにまとめながら、自分なりのノートを作成していくのが望ましい学習法と言えます。

B11100 歴史学**高綱 博文**

テキストでは、古今東西、有名・無名の人物を通して「歴史」を語っています。「はじめに」の記載にある通り、「歴史学」では、彼らの活動を通して「異なる時代を理解」し、「他者を理解」することを学習目標としています。自身が興味を持った箇所のみを学習する、という姿勢では、学習目標に到達しません。目標達成のためには、日本史・東洋史・西洋史を、偏ることなく全般にわたって理解していくことが重要です。

テキストが人物を扱うため、「伝記」と誤解しやすいことも要注意事項です。登場する人物は、その当時の政治・社会環境のなかで活動しています。なかには当時の環境を変化させたいという思いをもって活動した人物もいます。同じ時代に生きながらも方向性が全く異なる人物もいます。よって、単に「誰がいつ何をおこなった」という事実把握のみでは「歴史」を理解したことになりません。彼らの活動には必ず意味があります。人物の活動内容をしっかりと把握した上で、そのような活動をおこなう時代背景や社会環境、地域性などを、参考文献などを調べて確実に理解していきましょう。人物の活動を一つの素材として利用しながら、時代・地域を考えていくように努めてください。その繰り返しによって、さまざまな地域、時代に生きた人々の考え方、その違いを知ることができるようになるでしょう。

最後に、リポートも上記のことを十分に理解した上で、努力を怠ることなく作成してください。

B11200 文化史**渡邊 浩史**

科目修得試験に合格するためには、まずリポートに合格しておく必要があります。リポートに合格するだけの知識と学力が無ければ、科目修得試験に合格するだけの学力は無いと思ってください。逆に言えば、リポートを独力で合格ラインの水準に達することができるだけの知識さえあれば、科目修得試験にも合格できるということです。

まずは全力でリポート作成に臨んでください。参考文献として上がっている文献の内容もよく学んでおいてください。

B11300 文学**辻 勝美**

テキストでは、詩・小説・戯曲・評論の文学ジャンルについて、それぞれ定義がなされ、歴史的な展開もふまえてその特色や問題点が説明されています。また、各ジャンルについて具体的な作品がとりあげられ、どのように鑑賞すべきなのか、その方法のモデルも示されています。それらの問題をさらに発展させ、「文学の本質」とは何かというテーマについても、想像力、ことば、イメージとの関係から考察、

説明しています。

一～五の各章ごとに内容を理解した上で、テキストに引用されている作品の具体例については、その部分だけでなく、できるだけその作品全体（出典）に実際にあたってみることが望まれます。とくに鑑賞・批評において説明、指摘されている文学的特質などが、その作品の中でどのような表現部分に表れているのか、具体的に調査し、確認しておくようにしてください。「文学」は、作品の表現（ことば）そのものに即して理解することが大切です。

テキスト中のさまざまな用語については、別に配布されている「学習指導書」や関連する文学事典類などにあたり、理解しておくようにしてください。

B11400 美術史

森下 和貴子

テキストの第Ⅰ章 先史・古墳時代から第Ⅵ章 鎌倉・南北朝時代までが学習範囲ですが、第Ⅱ章以降が重要です。各章ともおおよそ建築、彫刻、絵画、工芸などのジャンルごとに、その時代を代表する作例をあげていますので、テキスト掲載の写真を観察しながら作品の特徴を把握して下さい。さらにテキストだけでなく、参考文献や美術全集などの図版を参照することも勧めます。

テキストを学習することによって各時代の美術の特徴を理解したうえで、つぎに必要なのは全体の流れを把握することです。とくに仏像については、飛鳥時代から鎌倉時代に至るまでの様式や技法の変化をしっかりと学習して下さい。各自で時代別に作品名一覧を作成するなど、テキストの内容を整理して十分に理解することが必要です。

<参考文献>

- 『日本仏像史』水野敬三郎監修 美術出版社 2001年
- 『すぐわかる東洋の美術』竹内順一監修 東京美術 2000年
- 『日本美術の歴史』辻惟雄 東京大学出版会 2005年
- 『日本美術史ハンドブック』辻惟雄 泉武雄編新書館 2009年
- * そのほかテキスト P.223～P.226 掲載の文献参照

B11500 法学（日本国憲法2単位を含む）

船山 泰範

1. ここでは、「法学」を学ぶ上での心構えについて述べることにします。それが学修上のアドバイスにつながると思うからです。

「法学」は、法律学を学ぶ上での出発点であるとともに、到達点もあります。

まず、出発点ということは、法律なしに現代の社会生活は考えられませんが、複雑多岐にわたる社会をコントロールするため、法はさまざまな手法を用いています。そこで、法がどのような形で存在するかを学びながら、法がどのような働きをしているかをたしかめることが必要とされるのです。

つぎに、到達点ということは、是非、皆さんにそうしてほしいのですが、法律を全体として学んだ後で、もう一度「法学」に戻って考えて頂きたいと思っています。なぜなら、法律を作ったり、運用する場合、国会議員、官僚、法曹などさまざまな専門家が働きますが、法がいかにあるべきかの基準は国民自身に置かれなければならないからです。つまり、皆さんのが基準になるということなのです。

そして、このことから認識しなければならないことは、これまで積み上げられてきた法を吟味し、未来の法を創造してゆく主役は国民自身であるということです（国民が主権者）。したがって、国民が法のある姿を自らのものとして受け止めることができなければなりません。

2. 「法学」の新教材は、以上のような視点で編まれたものです。憲法学・民法学・法哲学・刑法学に取り組んでいる4人の研究者=教員が、皆さんに「法学」の世界への誘いとして執筆しました。その点で、私共が教科書執筆について心がけたことを述べておきます。ア. 法が社会生活の中でどのように働いているかに着目しました。イ. 法は社会の変動に伴い、変化が必要とされます。法のダイナミズムというものです。ウ. 法が生きている人間とどう関わるかに注意を向きました。法は人間性と結びつくものです。

3. 答案作成にあたって、次のような点について注意して下さい。

- ① 出題の意図がどこにあるかを考えましょう。
- ② 何をどのように論じたらよいのかという、答案構成を工夫しましょう。
- ③ 答案の分量としては、裏側まで及ぶようにして下さい。
- ④ 日本語としてわかりやすい文章を心がけて下さい。その一環として、次の点を意識して下さい。ア. 段落では必ず一字下げて書くこと。できれば、段落に番号をつけ、さらに、見出しをつけるとよいです。イ. 句読点をきちんとつけること。ウ. 長すぎる文は論理関係が不明瞭になるので、避けたい。
- ⑤ 答案の最初は、何が問題となるかという、問題の所在から始めることができます。

B11600 社会学**仲川 秀樹**

社会学の試験を受ける上で、学習すべき視点について。

- ① 社会学とは何か、概念を正確に理解すること。そこには用語の理解も含まれる。概念や用語以外に、社会学の研究対象とする領域の基礎理論を学ぶこと。さらに、社会学史から、主要な社会学者の研究なども理解する。
 - ② 行為と行動からはじめる。人はなぜ行動するのか。その動機や目的とは何か。
 - ③ 人間はなぜ集団を形成するのか。社会集団とはいかなるものか。
 - ④ 社会学の領域（領域社会学）を知る。それは研究対象となる。
 - ⑤ 社会学の研究テーマと研究対象は、家族や、地域社会の問題など多方面にわたる。家族であれば、伝統家族から現代家族の変化において、少子化・晩婚化・女性の社会的進出の問題などが浮上する。地域社会であれば、都市の膨張と地方の衰退などがあげられる。そこで生じる問題や課題は社会調査法などによって検証する。
 - ⑥ 社会学の世界を総括する。あらためて社会学とは何かを考える。
- 以上の視点をポイントに学習を進めてみましょう。

B11700 政治学**渡邊 容一郎**

政治学のテキストに、いわゆる決定版というものはありません。特に政治学の場合、執筆者の専門領域や関心事項が、そのままテキストの構成に反映されやすいといえます。したがって、「これ一冊を読めば、政治学の全体像がわかる」という完全なテキストは存在しないといえるでしょう。

しかし、心配する必要はありません。テキスト執筆者の得意分野が何であれ、政治学の本質をわかりやすく伝えたいという執筆者の「心意気」は、どんなテキストにも共通しているからです。

そこで、まず、この政治学テキストの目次を概観し、どのような項目で構成されているか把握してください。次に、の中でも特に自分にとって興味深い「章」あるいは「節」を一つ選んで、その内容を熟読してみましょう。（ちなみに、学生時代の私の場合は『イギリスの政党とその歴史』でした）。自分にとっては「面白い」内容なので、比較的すんなりと理解できるはずです。そして家族や職場の同僚など、他人に教えてあげられるくらいになればしめたものです。そうすると、政治学を理解するために必要な、自分なりの「軸足」「核」、あるいは「立脚点」のようなものが次第にできあがります。このような自分なりのポイントを出発点として、さらにテキストの残り部分にも徐々に関心領域を広げていきましょう。

こうして「各論から入って総論に至る」ことで、政治学についての知識や「ものの見方」が次第に身についていきます。大切なのは「興味のあるところからはじめること」です。それを自分の「武器」にすることで、政治学の「面白さ」が自然にわかってくると同時に、政治学の専門領域をさらに深く学ぼうという意欲も湧いてくると思います。

B11800 経済学**塙本 隆夫**

経済学は暗記が強要される科目ではありません。とはいっても、基本的な事柄やそれがどのようなことを意味するのかは、覚えなければなりません。しかし一番肝心なことは、「経済学的な考え方」を身につけることです。

このテキストでは、最初に極めて単純な「仮定」が説明されます。この単純な仮定に基づいて簡単な「理論モデル」が作られます。簡単な理論モデルを組み合わせて、高次な理論モデルを作り上げていきます。このように経済学の学習は、単純なモノから複雑なモノへと、一つずつ段階を登るようになっています。

このテキストでは、「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」との二つの領域を案内します。テキストをただ漫然と読むだけでは、「経済学的な考え方」は身につきません。

テキストを読みながら、①大事な箇所に線を引き、②説明の図がでたら自分で図を描き、③文字式や計算がでたら自分で計算しましょう。この3つの手順を通して「経済学的に考える力」を身につけてください。

①から③を着実に実行すれば、すべての理論を丸暗記する必要はなくなります。実際、260ページを超えるこのテキストを丸暗記することは、できない相談です。①から③を通じて「経済学的に考える力」を身につければ、単純な仮定から複雑な理論への筋道を、自分の力だけでたどっていけます。

テキスト前半部分の「ミクロ経済学」では1. 消費者行動、2. 企業行動、そして3. 市場の資源配分機能について学習します。消費者は、限られた予算と自分の選好に従って自分の効用を極大化します。ここから需要曲線が導出されます。一方、企業は、利潤を極大化することを目指します。ここから供給曲線が導きだされます。こうして得られた需要と供給から完全競争市場の価格調整機能を通じ、最適資源配分が達成されます。

テキスト後半部分の「マクロ経済学」では、ケインズ・モデルに基づき、どのようにして一国の国民所得（GDP）が決定されるのかを、学習します。1. これを「45°線」（所得 - 支出図）分析で説明し

ます。2. 次に「 45° 線」分析から「IS-LM」モデルが導出されます。こうして「国民所得決定の仕組み」が解き明かされます。そこから、3. 失業やインフレ・デフレの原因とその対処策が導きだされます。

B11900 数 学**立井 博子****1. 命題**

正しく推論を進めていくために、命題の合成の仕方にはどのような仕方があるか、もとの命題が真であるか偽であるかにしたがって、それらを合成して得られる命題が真であるか偽であるかを判定できること。

2. 集合

集合の記述、集合の表示、命題と集合との間の関係を説明できること。

3. ベクトルと行列

ベクトルと行列の表示、演算、連立1次方程式を係数法で解けること。

4. 群

群の定義、概念を説明できること。

5. 線型計画法

連立1次不等式の定義する凸多角集合を図示し、1次関数が最大、最少となる点、最大値と最小値を求めることができること。

6. 確率

順列と組合せ、確率を求めることができること。

7. ゲームの理論

ゲームが決定的であるかを判定でき、最良術策を示せること。

B12100 心 理 学**藤田 主一**

心理学は、行動科学として発展した学問です。私たちの意識や行動の背後にある現象を解明していくのが目的です。大学で学ぶ心理学は科学です。人間のルールのようなものを探して研究が進められています。テキストには現代心理学の概要がわかりやすく述べられています。心理学の基礎から応用までの領域が理解できるように編集されていますので、まずテキストを熟読してください。何度も読み直してください。心理学に興味のある人は、もっともっと知りたくなります。そういう人は、テキストの最後に参考文献が掲載されていますので、さらに学習を進めてください。

単位を得るためには、科目修得試験に合格しなければなりません。各回の試験にはテキストの中から4問が出題されます。その中（4問）から2問を各自が自由選択します。試験場への持込みは「全て可」ですが、持ち込んだテキストやノートなどをそのまま写すことは避けてください。自分が勉強した成果を答案に發揮できるよう幅広く学習してください。

心理学的な答案を作成するためには、心理学の考え方や心理学用語を身に付けなければなりません。覚えなければいけない学説や人名もかなりあります。ちょっと大変そうですが、テキストを頼りに取り組んでください。心理学に興味をもつ人はなんなくクリアできます。論理的な文章だけでなく、あなたの具体的な体験なども入れて豊かな答案にするとよいでしょう。あなたの答案には、あなたの学習成果が表現されます。どうぞ頑張ってください。期待しています。

B12200 統 計 学**熊谷 敦也**

統計学は、多数のデータが与えられた時に、様々な計算処理によってデータ全体の巨視的な特徴を表したり（記述統計）、部分的に与えられたデータを元にしてデータ全体の傾向を推測したりする（推測統計）ための学問です。

統計学の特徴の一つとして挙げられるのは、応用範囲が極めて広く、ほとんどすべての学問分野において何らかの形での応用が見られる、ということです。例えば何らかの調査を行ってデータが得られた場合、そのデータから客観的・定量的な結論を導くためには、統計学が必要不可欠なものになります。統計学は数学の一分野である確率論に基づいているため、数学のイメージが強いかもしれません、決して理工系学部の学生だけが学ぶものではありません。

教材は、記述統計、確率分布、推測統計、の3章からなります。まず、記述統計の章で、データの整理のしかたを学びます。特に、平均と分散の求め方とそれらの意味を理解して下さい。さらに、二つの変量がある場合に、それらの関わり合いを表す共分散・相関係数の求め方とそれらの意味を理解して下さい。

次に、確率分布について学んでいきます。確率分布は、この後で推測統計を学ぶ際に基礎となります。まず、確率変数や確率分布といった考え方をしっかり身に付けて下さい。その後、離散確率分布の例として二項分布、連続確率分布の例として正規分布が詳説されているので、これらの性質をよく理解して

下さい。その後、推定や検定に用いられる三つの確率分布が説明されます。これらは後の推測統計で必要となるものなので、初めて取り組んだ時点では理解できなくても、後で何度も振り返りつつ理解を深めていくつもりで学習するのがよいでしょう。

最後に推測統計について学びます。まず、標本抽出という考え方を身に付ける必要があります。母集団から標本を抽出するということが確率試行と考えられる点がポイントです。初めは、標本平均に的を絞って、これが確率的にどう分布するか、注意して考えて下さい。次に区間推定の考え方を学びます。区間推定では、ある区間が母数を含んでいる確率がいくつである、という推定のしかたをします。その後、仮説検定の考え方を学びます。まず、用語とそれらの意味を理解した上で、一般的な検定の手順を押さえて下さい。検定を行う時はその手順を参照しながら行って下さい。検定とは、ある仮説に対してその真偽を判定するものではなく、その妥当性のある確率（危険率）をとともに評価するということがポイントです。

全体を通して、電卓やPCを使ったりして、実際の計算練習を多く積み重ねることを強く推奨します。これにより統計学の各トピックの固有の考え方が自然と身に付いていくはずです。

参考文献

- 「統計学入門」稻垣宣生他（裳華房）
- 「明快演習数理統計」小寺平治（共立出版）

B12300 科学史

日高 千晴

テキストおよび参考書を熟読し、各章の内容を十分理解しておきましょう。各時代背景と社会的状況を把握した上で、科学現象が発見された経緯や後世に与えた影響、科学技術のあり方について考察してください。テキストに詳しく書かれていない歴史的、地理的、社会的状況や科学思想等については各自の参考書をもとに十分調べ理解を深めておくことも重要です。

解答作成においては設問の要点を抑え、明瞭な文章でまとめるよう心掛けてください。そのためには、キーワードを列挙しておき、次にその意味を詳細に説明するための言葉を加え、最後に前後の内容に矛盾のないよう文章を組み立てていくよう努めてほしいと思います。

C10100 英語 I

猪野 恵也

英文法に気を配りながらテキストを正確に読んで下さい。

できれば、物語や登場人物の気持を考えながら読んでいくと理解が深まり、読解力が増すと思います。

気をつけるべき文法事項は句と節、五文型、不定詞、動名詞、分詞、関係代名詞、関係副詞です。英文法書、英和中辞典で分からぬ文法事項や単語、イディオムを調べて下さい。

なお、科目修得試験の受験条件であるリポート作成は全力で取り組むように心掛けて下さい。

C10200 英語 II

青木 克憲

テキストの中では3つの作品が扱われています。話の展開を追うとともに登場人物の性格やさまざまの場面に置ける心理状態をよく考えながら読んでほしいと思います。それと併行して5文型を中心とした構文の分析を行い、主語、動詞、目的語、補語を、意識して読み進めてください。単語、熟語、そして語法上の規則は、英和中辞典や文法書を常にそばに置いて読み進めてください。1度、2度ではなく何度も読むことにより著者の意図、作品が生まれた背景、文学的な魅力がわかり、登場人物に対する自分の感情も生まれてくると思います。

C10300 英語 III

真野 一雄

テキストの英文を正確に理解することは言うまでもありませんが、報告課題（レポート）で学んだことを確認しましょう。

英文の文型・構文・構造を正しく理解してください。それが正しい和訳にもつながります。

参照物持込は全て不可です。

C10400 英語 IV

市川 泰弘

「はじめに」という部分でテキストの構成が書かれていますので、必ず読んでおいてください。各ユニットで学習する項目に関連する単語がPassageで使用されています。まず、内容を理解しながらどのような意味で使われているか、どのような単語の組合せ(Collocation)になっているのかを確認し、Exerciseに進んでください。Exerciseでは解答を見ないで自分なりの答えを考え、その後Common

Errors の説明や参考文献 (Longman Dictionary of common Errors) を参考に確認してください。単に確認するだけでなく、自分がわからなかった部分は単語帳を作るなどして再び確認が出来るようにしておくと良いでしょう。英作文は簡単なものを入れてあります。辞書などを使いながら解答を確認し、できればさらに英作文の練習を行ったりすることが実力を伸ばす有効な方法となります。Further Study のパラグラフライティングは Passage が基本の文章となっています。それぞれの内容のまとめ方のこつを理解していきましょう。それぞれのユニットが理解できたら、さらに TOEIC などの問題を確認作業として、またさらなる学習として勉強してみてください。

英語は継続して学習しなければ力が付かないものです。付け焼き刃的な学習は答案にすべてが反映されます。日頃の学習を重視し、こつこつと勉強を進めてください。

試験ではそれぞれの項目に関連した内容を尋ねたり、また実力がついてきたかどうかを確認する問題も出されます。問題は通し番号を打っておきますので、解答するときには必ず番号を示すようにしてください。解答番号がないとどの問の答えであるかわからなくなり、採点上では0点にしなければならない可能性があります。また問題の指示に従って記入をしてください。

C10500 英 語 V

小田井 勝彦

文章を読む目的は著者が一番語りたいこと、つまりその文のメインテーマを理解することです。英語Vではそこに至るまでに一つ一つのセンテンスの意味を深く理解することが大切です。

第一にはセンテンスが何個の単文から構成されて、それを接続している語（接続詞、関係詞）は何かを考えてください。

第二にはそれぞれの単文がどのような構造をしているのかを述語動詞を中心に考えてください。

第三には著者が使用している語句は具体的に何を言おうとしているのか考えてください。

第四には著者が個々のセンテンスで何を言おうとしているのか考えてください。

最後に文章全体のメインテーマを把握してください。

この教材はユーモアに託した物言いと控えめな物言いの仕方でイギリス人の国民性を語ったものですので、著者の真意を理解するためには丁寧に辞書を引き、何度も読む必要があります。

英語Vの科目修得試験では、辞書その他の持込みは認めませんので単語の意味も充分に頭に入れておく必要があります。

C10600 英 語 基 础

飯野 朝世

通信教育部指定教科書からの出題ですので、十分に学習して試験に臨みましょう。各ユニット初ページの文法説明を（文法書やWebsite なども利用して）よく学習し、練習問題をレベル1からレベル3まで順に行い、答え合わせをして、自身の学習内容の理解度をチェックしましょう。

各ユニットのCulture Note や長文問題を何度も読み返し、そこから出題されたときにも対処できるよう理解を深めましょう。テキストの欄外に記載されている「注」や「ポイント」にも目を通してください。

教科書に沿った『学習の手引き』には、和訳だけでなく、その解答に至る説明が詳細に書かれていますのでよく読んでください。

参照物持ち込みはすべて不可です。

D10100 ドイツ語 I

川嶋 正幸

ドイツ語Iでは、基礎文法の基礎の基礎を理解するように学習してください。まず教科書の文法事項の説明をよく読み、練習問題を解いて、理解しにくい箇所があれば確認してください。文法の説明は、先に学んだ事柄を基礎にしていますので、学習事項を未消化のままに先に進んでしまうと、結局行き詰まってしまうことになりかねません。分からぬ箇所があれば、必ず市販の参考書でしっかりと理解してから、次に進むようにしてください。市販の参考書は図書館で借りてもよいのですが、難しかったり、余り分厚かったりするものは避け、自分に向いているものを選ぶことが大事です。

ドイツ語Iの文法で特に重視して欲しい点は、冠詞の格変化、人称代名詞の格変化、動詞の人称変化などの語形変化をきちんと記憶すること、そして文の中での動詞の位置を把握することです。また、教科書の単語は記憶するよう試みてください。ドイツ語は派生語が多いので、ひとつの単語を記憶すると、沢山の新たな単語が理解できるようになります。また名詞は、必ず定冠詞を付けて覚えるようにして下さい。試験では辞書を参照することができますが、基本的な単語まで辞書で引いている時間はありません。日頃暗記しておけば、例え意味を忘れていても、文脈から、また辞書を引いてもすぐに意味がわかるはずです。

D10200 ドイツ語Ⅱ**川嶋 正幸**

ドイツ語Ⅰで一通り理解した文法の基礎をもとに、ドイツ語Ⅱのテキストを読んでください。まず文法説明をよく読んでから、読本の部分の訳を試みて下さい。ドイツ語Ⅱのテキストは、初級から中級への橋渡しのテキストですから、ドイツ語Ⅰで学んで、文法はもう十分と考えがちですが、文法は同じ事柄でも何度も繰り返しませんと確かなものにはなりません。したがって、まずは発音から始まる文法事項をしっかりと確認してください。またテキストに現れる単語は、記憶するようにしてください。なかでもテキストの末尾にある不規則変化表の動詞は、すべて重要な動詞ですから必ず全部覚えるように試みてください。一度覚える努力をした単語は、例え意味を忘れてしまっても、辞書で調べれば時間をかけることなく意味に到達できます。また名詞を覚える際には、必ず定冠詞を頭につけて覚えてください。

このテキストに書かれている文を読みこなせば、辞書や文法書が手元にあれば、普通のドイツ語の文は大体の意味が読みとれるようになっているはずです。

学習の際には、文の文法的な関係がきちんと理解できているか確認をしながら読むようにしてください。なお科目修得試験の受験条件であるリポート作成には、全力で取り組むように心掛けてください。

D10300 ドイツ語Ⅲ（新教材）**川嶋 正幸**

ドイツ語Ⅰ、Ⅱを済まして、読みたいジャンルのドイツ語の文章を読む鍵がいよいよ手に入ったところですが、ドイツ語Ⅲではその鍵を基にして実践的な長文読解力を付けてゆきます。ドイツ語の場合、長文はとはいっても複雑な構造など稀で、普通の文章は一つ一つの短い文の組み合わせから出来ていますから、その一つ一つの文が理解できれば、長文も問題なく理解できるはずです。テキストのどの文も、ドイツ語Ⅰ、Ⅱで学んだ文法の基礎に基づいた文だからです。したがって試験の準備のためにも、文法の基礎をしっかりと確立しておく必要があります。ドイツ語Ⅰ、Ⅱの「学習上のアドバイス」も参照して学習してください。

試験では独和辞典を参照することができるとはいえ、日頃独和辞典に親しんでいませんとなかなか使いこなすことができません。日頃調べた単語に下線を引いておくなどしておくと、記憶する助けにもなりますし、辞書を効率的に引くことができますが、まずは日頃、特に基礎的な単語を記憶する努力を、少しずつでよいので続けるようにしてください。また名詞は必ず定冠詞を前につけて覚えてください。

D10300 ドイツ語Ⅲ（旧教材）**川嶋 正幸**

ドイツ語Ⅲの段階では長文を読む力が求められます。ドイツ語の場合、長文とはいっても一つ一つの短い文の組み合わせから出来ていますから、その一つ一つの文が理解できれば、長文も問題なく理解できるはずです。テキストのどの文も、ドイツ語Ⅰ、Ⅱで学んだ文法の基礎に基づいた文だからです。したがって試験の準備のためにも、文法の基礎知識を確かなものにしておく必要があります。ドイツ語Ⅰ、Ⅱの「学習上のアドバイス」も参照して学習してください。

試験では独和辞典を参照することができるとはいえ、日頃独和辞典に親しんでいませんとなかなか使いこなすことができません。日頃調べた単語に下線を引いておくなどしておくと、記憶する助けにもなりますし、辞書を効率的に引くことができます。特に基礎的な単語は、日頃から少しずつでよいので記憶するように努力してください。また名詞は必ず定冠詞を前につけて覚えてください。沢山記憶し、沢山忘れることが記憶のコツです。

D10400 ドイツ語Ⅳ**川嶋 正幸**

ドイツ語Ⅳのテキストは文学作品ですが、日常使われるドイツ語で書かれていますので、特殊な表現はほとんど出てきません。このような文が読みこなせれば、普通のドイツ語の文であれば充分に読みこなせるようになっているはずです。調べても分からぬ個所もあるかもしれません、そのような個所はとりあえず置いておいて、前後の分かる部分をつないで、分からなかった個所を推測し、その推測が正しいかどうかを文脈から調べるといった方法もよいでしょう。いずれにせよ、分からない文があればノートに書き写してみて、文の文法構造を解明してみることです。文の構造の解明とは、どれが主語で、どれが目的語で、定動詞はどれかを確認するという作業にすぎません。つまり長文の読解にも、基礎の文法力がものをいうということです。特に分かりにくい原文の場合は、書き写してから、構造を把握してみるとよいでしょう。

いずれにせよドイツ語Ⅰからドイツ語Ⅲまでで学習した事柄で、まだよく理解できていない箇所があれば、しっかりと復習して把握しておかねばなりません。もちろん単語力も重要ですが、これは一朝一夕に身につくものではありませんが、日頃辞書に親しんでいると、テキストの語彙なら辞書で探せば大体見当がつく程度になるはずです。

なお科目修得試験の受験条件であるリポート作成には、全力で取り組むように心掛けてください。

E10100 フランス語Ⅰ**大庭 克夫**

科目修得試験は、報告課題の内容をベースにそれを応用する形で出します。したがって報告課題にきちんと取り組まれた人なら、あとは範囲内の単語や文法事項を覚える=インプットするだけで済むはずです（もちろんしっかり覚えるのには大変な努力が必要ですが、外国語は覚えることが仕事です）。

1. 出題は、(1)基本的な単語（名詞）の書き取りと(2)和文仮訳および(3)発音記号の文字化とそのうえでの和訳です。
2. なお単語の書き取りでは、「可算名詞」であれば《不定冠詞单数》を、「不可算名詞」であれば《部分冠詞》を付けてください【報告課題と同じ】。
3. 重点的学習領域は報告課題の内容全般です【報告課題で使用している単語・表現などはすべて出題するものと考えてください】。
4. 数字は1～10までと100 < cent >だけを範囲とします（200なら< deux cents >、300なら< trois cents >）。なお《2.deux》《3.trois》《6.six》《8.huit》《10.dix》は後続の名詞が「母音」で始まるのかによって発音が変わってきますし、《9.neuf》も後続に《an》と《heure》がきたときだけ音が変わります。『指定教材フランス語Ⅱ』と仏和辞典をひいてよく調べておいてください。

E10200 フランス語Ⅱ**大庭 克夫**

科目修得試験は、報告課題の内容をベースにそれを応用する形で出します。したがって報告課題にきちんと取り組まれた人なら、あとは範囲内の単語や文法事項を覚える=インプットするだけで済むはずです（もちろんしっかり覚えるのには大変な努力が必要ですが、外国語は覚えることが仕事です）。

1. 出題は、(1)仏作文（和文仮訳）と(2)発音記号の文字化とそのうえでの和訳です。
2. 重点的学習領域は報告課題の内容全般です【報告課題中の単語・表現などはすべて出題するものと考えてください】。なお外国語は当然「積み重ね」が基本ですから、報告課題《フランス語Ⅰ》で出題されている単語・表現も当然出題範囲とします。
3. 数字は1～31までとします。なお曜日、月・季節などは、報告課題の中で直接出題していないものも当然出題範囲とします。
4. 仏語Ⅱでは《aller》《venir》《faire》《prendre》《partir/sortir》など非常によく使われる不規則動詞の活用がメインです。時間と労力を割いてしっかりインプットしてください。

E10300 フランス語Ⅲ**大庭 克夫**

科目修得試験は、報告課題の内容をベースにそれを応用する形で出題します。したがって報告課題にきちんと取り組まれた人なら、あとは範囲内の単語や文法事項を覚える=インプットするだけで済むはずです（もちろんしっかり覚えるのには大変な努力が必要ですが、外国語は覚えることが仕事です）。

1. 出題は、(1)仏作文（和文仮訳）と(2)発音記号の文字化とそのうえでの和訳です。
2. 重点的学習範囲は報告課題の内容全般です【報告課題中の単語・表現などはすべて出題するものと考えてください】。また外国語は当然「積み重ね」が基本ですから、報告課題《フランス語Ⅰ・Ⅱ》中の単語や表現も当然出題します。
3. フランス語Ⅲでは動詞の「時制」として「複合過去形」を覚えてください。意味は単なる過去形ですが、形としては《助動詞》と《過去分詞》を組み合わせて作ります。《助動詞》は通常は《avoir》ですが、《aller》《venir》《partir/sortir》など「場所の移動を表わす自動詞」は《etre》を用います【このとき、「主語」と「過去分詞」が《性・数一致》する点に注意】。また《naltre》（生まれる）、《mourir》（死ぬ）も例外的に助動詞《etre》を用います。
4. 《se coucher》（寝る）、《se lever》（起きる）などのように英語の～ oneself（例：enjoy oneself）に当たる動詞を「代名動詞」といいます。この「代名動詞」も「複合過去」を作るときは、「助動詞」に《etre》を用います。

E10400 フランス語Ⅳ**大庭 克夫**

科目修得試験は、報告課題の内容をベースにそれを・応用する形で出題します。したがって報告課題にきちんと取り組まれた人なら、あとは範囲内の単語や文法事項を覚える=インプットするだけで済むはずです（もちろんしっかり覚えるのには大変な努力が必要ですが、外国語は覚えることが仕事です）。

1. 出第は、(1)仏作文（和文仮訳）と(2)発音記号の文字化とそのうえでの和訳です。
2. 重点的学習領域は報告課題の内容全般です【報告課題で使用している単語・表現などはすべて出題するものと考えてください】。
3. 数字は1～31までとします。なお曜日・月・季節なども当然出題します。
4. フランス語Ⅳでは動詞の「時制」として「未来形」と「半過去形」が中心になります。ともに動詞

の「語尾変化」で表しますが、「未来形」も「半過去形」も「語尾」はすべての動詞に共通の語尾をもちます。なお「複合過去形」が1回だけの单なる過去であるのに対して、「半過去形」は《過去の継続的な行為》(英語の過去進行形)および《過去における繰り返された行為》(英語の“used to”)を表します。

5. またフランス語IVでは「時制」として「大過去形」と《ジェロンディフ》を含めます。「大過去形」というのは英語の「過去完了」と同じで、通常「複合過去」で表される過去の行為より以前に完了していた行為を表します。
6. フランス語IVではさらに「条件法」と「接続法」という今まで習った「直説法」とは違う新しい《法》(モード)も範囲に含めます。「条件法」というのは英語の「仮定法」と同じです。ただし「未来形」と「半過去形」という《時制変形》も、「条法」と「接続法」という《法変形》もいっぺんにマスターするのは大変なので、試験では報告課題で取り上げた動詞のみを出題範囲とします。

F10100 中国語 I

福木 滋久

テキストは、添付のCDを活用しながら「発音篇」から学習をはじめ、発音の基本とピンインの構造を身に付けてから「本篇」の学習に入る。本テキストは文法解説を載せていないが、収録された言い回しは、どれも基本的なものばかりである。暗唱できるほどに何度も音読したり書き写したりするとよい。テキスト本篇各課の「基本表現」の例文については、日本語訳が付されている。この部分は、中国語から日本語訳、或いは日本語から中国語訳できるようにしておき、漢字の中国語文をピンインに、ピンインのみの中国語文を日本語に変換できるようにしておこう。本篇各課の「バリエーション」「会話」については、日本語訳は掲載されていない。学習に際しては、必ず「新出単語」や辞書などを参考に、日本語訳に取り組んでおくこと。この部分は、漢字やピンイン文からの日本語訳、漢字→ピンイン変換には対応できるようにしておくべきだ。また平成29・30年度報告課題で指定された個所は、特に重要な部分である。漢字文の日本語訳、ピンイン文の日本語訳、漢字→ピンイン変換、日本語からの中国語訳ができるようしっかりと復習しておくように。各課の学習を終えたら、必ず各課末の「ドリル」に取り組み、定着度を確認する。各課の学習においては、必ず「ドリル」まで取り組むこと。

◎中国語を漢字で表記する際は以下の点に留意する。

- ・字体は正確な簡体字を用い、筆画や止め撥ねにも注意して、明瞭かつ丁寧に書く。
- ・教科書の漢字部分には単語と単語の間にスペースを挿入するが、書く時は空白を入れず続けて書く。
- ・句読点（。、？！；“”等）を正しく使い分ける。
- ・数はすべて漢数字で表記する。

◎中国語をピンインで表記する際は以下の点に注意する。

- ・アルファベットは誰が見ても判別できるよう明瞭かつ丁寧に書く。
- ・声調符号は、四声の違いを明確にして書き、正しい位置につける。
- ・大文字と小文字を正しく使い分ける。(文頭・固有名詞の頭文字は大文字、それ以外は小文字)
- ・漢字と違いピンインは、分ち書き(一単語は続けて書き、単語間は離して書く)に留意する。
- ・数も全てピンインで表記する。ただCD、DVDなどのローマ字語は、そのままの標記でよい。
- ・句読点（、、？！；“”等）を正しく使い分ける。

このテキストは、「基本表現」「新出単語」部分以外には、日本語訳が付されていないため、辞書は必須である。学習にあたって、必ず辞書(中日辞典)を入手しておくこと。種々の中日辞典が出版されているが、安価なコンパクト辞典よりも本格的な辞書を備えておくほうが、結局は効率的である。一例として……

『中日辞典 第3版』小学館

……を挙げておく。電子辞書は携帯には便利であるが、学習用としては書籍版の辞書に及ばない場合が多い。なお日中辞典は初めのうちはなくてもよい。辞書の選び方や引き方、その他学習方法など不明な点は、質問の制度を使って問い合わせること。

F10200 中国語 II

福木 滋久

テキストは、必ず第1～5課の発音の学習を終えてから、第6課以降の本編学習に入ること。本テキスト第6～18課は、「本文」をはじめ、ほとんど日本語訳を載せていない。学習に際しては、必ず「新出単語」や辞書等を参考にして、日本語訳に取り組む必要がある。本編各課の学習にあたっては、まず「新出単語」に目を通した後、「キーワード」の部分から学習するとよい。「キーワード」の例文は日本語訳が付されているので、中国語から日本語訳、或いは日本語から中国語訳できるようにしておき、ピンインのみの中国語文を日本語に変換、あるいは漢字文をピンインに変換できるようにしておくこと。続いて新しい文法事項の「ポイント」を学び、最初に戻って「本文」「理解を深めよう」の順で学習する。「ポイント」の例文・「本文」・「理解を深めよう」の例文は、漢字やピンイン文からの日本語訳、漢字→ピン

イン変換に対応できるようにしておくべきだ。CDを聴きながら何度も発音し、書くなどして、収録された言い回しを暗唱できるほどに覚えるとよい。平成29・30年度報告課題で指定された個所については、特に重要な部分である。漢字文の日本語訳、ピンイン文の日本語訳、漢字→ピンイン変換、日本語からの中国語訳ができるようしっかりと復習しておくよう。各課の学習を終えたら、巻末の「ドリル」を用いて定着度を確認する。各課の学習においては、必ず「ドリル」まで取り組むこと。

◎中国語を漢字で表記する際は以下の点に留意する。

- ・字体は正確な簡体字を用い、筆画や止め撥ねにも注意して、明瞭かつ丁寧に書く。
- ・教科書の漢字部分には単語と単語の間にスペースを挿入するが、書く時は空白を入れず続けて書く。
- ・句読点（。、？！；“”等）を正しく使い分ける。
- ・数はすべて漢数字で表記する。

◎中国語をピンインで表記する際は以下の点に留意する。

- ・アルファベットは誰が見ても判別できるよう明瞭かつ丁寧に書く。
- ・声調符号は、四声の違いを明確にして書き、正しい位置につける。
- ・大文字と小文字を正しく使い分ける。（文頭・固有名詞の頭文字は大文字、それ以外は小文字）
- ・分ち書き（一単語は続けて書き、単語間は離して書く）に留意する。
- ・数も全てピンインで表記する。ただCD、DVDなどのローマ字語は、そのままの標記でよい。
- ・句読点（。、？！；“”等）を正しく使い分ける。

辞書は必須である。学習にあたって、必ず辞書（中日辞典）入手しておくこと。種々の中日辞典が出版されているが、安価なコンパクト辞典よりも本格的な辞書を備えておくほうが、結局は効率的である。一例として……

『中日辞典 第3版』小学館

……を挙げておく。電子辞書は携帯には便利であるが、学習用としては書籍版の辞書に及ばない場合が多い。なお日中辞典は初めのうちはなくてもよい。辞書の選び方や引き方、その他学習方法など不明な点は、質問の制度を使って問い合わせること。

F10300 中国語Ⅲ

福木 滋久

中国語Ⅲは、中国語Ⅰ・Ⅱで学んだ語彙や文法を基礎として、総合的な応用力を養い、更なるステップアップを目指す科目である。学習時には、初級教材を手元に置いて参照するとよいが、中国語Ⅰ・Ⅱの現行教材は語彙索引を欠いているので、むしろ辞書を用いるケースが多いかもしれない。教科書の分量は、従来の教材に比べ少ない。よって科目修得試験にあたっては、山をはらず広く準備しておく必要がある。出題形式は、「(1)漢字文の日本語訳」、「(2)ピンイン文の日本語訳」、「(3)漢字→ピンイン変換」、「(4)中国語作文」である。日本語訳は、本文・文法例文・置き換え練習・応用会話等、どこから出題されても訳せるようにしておくこと。「学修指導書」でも指示しているように、特に本文については、巻末の「本文会話一覧」やCDを用いて、繰り返し取り組むべきだ。よって、ピンイン関係の問題は、本文の会話文から出題される可能性が比較的高いだろう。テキストは日本語訳を載せていないものの、「学修指導書」には「文法」の例文と「応用会話」部分について邦訳例を紹介している。これらの部分については、中国語・日本語訳がそろっているので、日本語から中国語への翻訳もできるように練習しておくこと。また、平成29・30年度報告課題で指定された個所については、特に重要な部分である。漢字文の日本語訳、ピンイン文の日本語訳、漢字→ピンイン変換、日本語からの中国語訳ができるようしっかりと復習しておくよう。

◎中国語を漢字で表記する際は以下の点に留意する。

- ・字体は正確な簡体字を用い、筆画や止め撥ねにも注意して、明瞭かつ丁寧に書く。
- ・教科書の漢字文には単語と単語の間にスペースを挿入するが、書く時は空白を入れず続けて書く。
- ・句読点（。、？！；“”等）を正しく使い分ける。
- ・数はすべて漢数字で表記する。

◎中国語をピンインで表記する際は以下の点に留意する。

- ・アルファベットは誰が見ても判別できるよう明瞭かつ丁寧に書く。
- ・声調符号は、四声の違いを明確にして書き、正しい位置につける。
- ・大文字と小文字を正しく使い分ける。（文頭・固有名詞の頭文字は大文字、それ以外は小文字）
- ・分ち書き（一単語は続けて書き、単語間は離して書く）に留意する。
- ・数も全てピンインで表記する。ただCD、DVDなどのローマ字語は、そのままの標記でよい。
- ・句読点（。、？！；“”等）を正しく使い分ける。

辞書は必須である。学習にあたって、必ず辞書（中日辞典）入手しておくこと。種々の中日辞典が出版されているが、安価なコンパクト辞典では対応できない。2000ページクラスの辞書が必要だ。一例として……

『中日辞典 第3版』小学館・『日中辞典 第3版』小学館

……を挙げておく。電子辞書は携帯には便利であるが、学習用としては書籍版の辞書に及ばない場合が多い。辞書の選び方や引き方、その他学習方法など不明な点は、質問の制度を使って問い合わせること。

F10400 中国語Ⅳ（旧教材）**福木 滋久**

中国語Ⅳは、中国語Ⅰ・Ⅱで学んだ語彙や文法を基礎として、まとまった文章を読解する力を養い、更に高度なレベルへの到達を目指す。学習時には、初級教材を手元に置いて参照できるようにしておくのが望ましい。ただし中国語Ⅰ・Ⅱの現行教材は語彙索引を欠いているので、むしろ辞書を用いるケースが多いだろう。テキストは第1～15課までの構成となっているが、難易度順というわけではない。

学習に際しては、まず「語注」を見て新出単語を確認し、続いて「解説の手がかり」で関連する文型を学習する。この例文についても日本語↔漢字の相互変換、漢字→ピンインへの変換ができるようにしておくこと。単語と文法の学習を終えたら、本文の本格的学習に入る前に、一度末尾の練習問題に本文を見ながら取り組んでみるとよい。本文理解のヒントになるはずだ。

本文の学習においては、必ず全文を翻訳してみる必要がある。「語訳」「解説の手がかり」「練習問題」の内容と辞書を参考に日本語訳を試みる。一度訳文を書きだしてみた後、原文と対照し、不備を補ったり、誤訳を訂正したりして、完成度の高い訳文を目指そう。

訳が一通りできるようになったら、後は練習あるのみである。何度も音読みし、何度も書き出すなどして覚え、日本語↔漢字の相互変換、漢字→ピンインへの変換ができるよう努める。最後にもう一度、巻末の練習問題に取り組んで定着を確認することも忘れずに。

科目修得試験の日本語訳問題では、大体の意味を掴んでいても、意訳が過ぎれば減点の対象となる。原文の構造を極力変えないように心掛け、文の構造や単語のニュアンスを把握していることをアピールできているような訳がもとめられる。中国語訳については、「解説の手がかり」の例文を中心に、語彙や文法事項の理解を問うような短文邦訳問題となる。平成29・30年度報告課題で指定された個所については、特に重要な部分である。漢字文の日本語訳、ピンイン文の日本語訳、漢字→ピンイン変換、日本語からの中国語訳ができるようしっかりと復習しておくように。

◎中国語を漢字で表記する際は以下の点に留意する。

- ・字体は正確な簡体字を用い、筆画や止め撥ねにも注意して、明瞭かつ丁寧に書く。
- ・教科書の漢字部分には単語と単語の間にスペースを插入するが、書く時は空白を入れず続けて書く。
- ・句読点（。、？！；“”等）を正しく使い分ける。
- ・数はすべて漢数字で表記する。

◎中国語をピンインで表記する際は以下の点に留意する。

- ・アルファベットは誰が見ても判別できるよう明瞭かつ丁寧に書く。
- ・声調符号は、四声の違いを明確にして書き、正しい位置につける。
- ・大文字と小文字を正しく使い分ける。（文頭・固有名詞の頭文字は大文字、それ以外は小文字）
- ・漢字と違いピンインは、分ち書き（一単語は続けて書き、単語間は離して書く）に留意する。
- ・数も全てピンインで表記する。ただCD、DVDなどのローマ字語は、そのままの標記でよい。
- ・句読点（。、？！；“”等）を正しく使い分ける。

辞書は必須である。学習にあたっては、必ず中日辞典（できれば日中辞典も）入手しておくこと。安価なコンパクト辞典より本格的な辞書を備えておくほうが、結局は効率的である。一例として……

『中日辞典 第3版』小学館・『日中辞典 第3版』小学館

……を挙げておく。電子辞書は携帯には便利であるが、学習用としては書籍版の辞書に及ばない場合が多い。なお日中辞典は、学習が進むにつれ、あると便利なケースが増えしていくだろう。その他学習方法など不明な点は、質問の制度を使って問い合わせること。

G10100 日本語Ⅰ**三原 裕子**

日本語Ⅰは日本語学習を150時間ぐらいますすんだレベルです。

初級から中級へ進む人用コースですので、わからないところをそのままにしてはダメです。一つずつ理解してからすすんでください。

- ・日本語では「が」「は」「を」「に」「の」などの助詞が意味を知る上でとても大切です。どのような時に、どのような助詞がくるかを学習してください。
- ・テキストでは目的別に文型が示されています。文型と目的・場面のかんけいを勉強してください。
- ・文を作るときは文体に注意してください。「ます」「です」と「だ」などが混じらないようにします。

G10200 日本語Ⅱ**三原 裕子**

日本語Ⅱは中・上級レベルのひとつのためのものです。

日本語を学習する上で、たいせつなことの一つに、文法的な「はたらき」をする語を知ることがあります。

ですから、その「はたらき」を使用場面や接続の方法などと、あわせて理解してください。

文法的な「はたらき」がわかれば、長い文章や論理的な文章を読む力が身についてきます。

各文型を、じっさい自分でも使ってみてください。

ことばの意味やはたらきは一つではありません。初めて学習するもの、既に学習したものなどいくつかの意味や「はたらき」があらわれます。

知らない語はかならず辞書でしらべる、読めない漢字も同様に辞書でしらべて書けるようにするなど、着実な学習は不可欠です。

G10300 日本語Ⅲ**三原 裕子**

「日本社会を知る」ことも日本語上級の学習の一側面である。このような考え方から生教材を使用し、現代日本社会について知識を持つことを目的とした。学習としてはこれらの生教材で使われる表現文型を知って、使えるようになることが第一のポイントである。

本文を読んで理解するにとどまらず、「日本語」で自分の考えをまとめ、表現する力も身に付けるよう学習することをすすめる。

G10400 日本語Ⅳ**三原 裕子**

上級日本語学習者対象用に、日本語習得と日本事情を兼ねたテキストを選択した。本コースを学習することで、日本語の総合的な運用力を向上させ、同時に現代日本社会についての知識を身に付けられると考える。

意見文については、自分の意見を論理的に述べ、相手に誤解されることなく伝達することが大切である。そのため、明解な文章を構成する接続語や文末表現に留意して、多くの文を作ることが上達のコツである。

文の作成と同時に現代日本社会についての知識を増やし、自分の主張をもって日本の社会現象を判断することに挑戦していただきたい。

H10100 保健体育講義Ⅰ**高橋 正則**

体育は、横断科学といわれるよう多くの学問領域の知識を応用することによって、私たちの健康や体力の維持増進に役立てられている。このテキストは、高等教育に学ぶ大学生として多様化した現代の生活環境の中で体育がなぜ必要かを理解するために構成されている。

科目修得試験は、学習範囲内の知識を問うものであり、その理解度が評価の対象となることから、テキストに記されている「重要な用語」が解答の中にどれだけ多く用いられているかが重要である。したがって、解答が独自の見解でなされ、テキストに記されている「重要な用語」が含まれていない場合には評価の対象とならない。

H10200 保健体育講義Ⅱ**高橋 正則**

このテキストは、運動やスポーツが我々の生活にどのような役割を果たしているのか、また、日本や欧米諸国の健康・体力維持のための取り組みや具体的なトレーニングの実際についても解説している。

科目修得試験は、学習範囲内の知識を問うものであり、その理解度が評価の対象となることから、テキストに記されている「重要な用語」が解答の中にどれだけ多く用いられているかが重要である。したがって、解答が独自の見解でなされ、テキストに記されている「重要な用語」が含まれていない場合には評価の対象とならない。

K20100 憲 法**池田 実**

テキスト 235 ページ「憲法の学習方法」に記されているように、憲法および関連する法令の条文、重要判例ならびに主要学説をまんべんなく学習することが必要ですが、法学科目としての「憲法」は、①総論的分野、②人権分野、③統治機構分野に大別され、それぞれに学習の際の重点の置きどころが異なります。

① 総論的分野「第1章 国家」「第2章 憲法」「第3章 日本憲法史」「第10章 憲法の改正」「第

11章 憲法の保障」

総論的分野では、主として、憲法学の基礎理論や憲法の歴史を学習します。ここでは、「近代的意味の憲法とは何か?」「硬性憲法とは何か?」など、専門用語の定義や内容を説明できるようになることが重要です。憲法事典等を併用して学習を深め、用語・概念ごとにカードなどを使って重要事項を整理するとよいでしょう。

② 人権分野「第5章 国民」

人権分野では、主として、「憲法上の国民の権利・義務に関する一般原則」「平等権」「自由権」「社会権」「国務請求権」「参政権」など、日本国憲法に定める諸権利を学習します。ここでは、憲法の人権条項をめぐってどのような問題が生じているのか、判例および学説はそれにどのように答えていているのかを理解することが重要です。憲法の条文ごとに、それをめぐる論点と判例・学説の見解を、カードなどを使って整理するとよいでしょう。また、判例の詳しい内容を知りたいときは、判例解説書を参照してください。

③ 統治機構分野「第4章 天皇」「第6章 国会」「第7章 内閣」「第8章 裁判所」「第9章 地方自治」

統治機構分野では、主として、国会・内閣・裁判所や地方公共団体の組織や権能を学習します。ここでは、ある機関のあり方をめぐる法令上の「制度」がどうなっているかを理解することが重要です。テキストの説明には、その根拠となる憲法その他の法令の名称と条文番号が記されていますから、必ず六法を参照して、条文そのものをきちんと読んで理解を深める努力をしましょう。

K20200 民 法 I

山川 一陽

民法総則の領域は、民法全体に関する通則としての機能を果たすものである。それだけに議論が抽象的になりやすいところがあり、むずかしい学問領域である。そこで、まず民法総則の全体構造というものをよく理解して勉強を始めることが必要となる。①権利の主体、②権利の客体、③権利の変動原因という構造となり、権利の変動に関しては、意思による権利変動（法律行為論）と時効制度がある。意思に基づく権利変動原因となる法律行為論については、意思なき行為や瑕疵ある意思表示が問題となる。さらに代理人による法律行為や代理権なき者による法律行為としての表見代理や無権代理が問題となる。このように権利主体、権利客体、権利変動という構造を理解して勉強をすることが要求される（このあたりの問題については、民法総則教科書第1章第1節第2を参照されたい。同時に同書9頁の図解を参考のこと）。また、同時に民法の構造自体を理解した上で民法総則を勉強しなければなりません（これについては民法総則の教科書第1章第1節第1を参照されたい。同時に同書8頁の図解を参考のこと）。

いずれにしても教科書を丹念に読むことです。その際には、条文をしっかり読むことが必要となります。教科書で条文が引用されている場合にはその条文を知っていると思って必ず引いてみておくことです。

K20300 刑 法 I

南部 篤

1 刑法は、法律学のなかでも特に理論的で難解な内容を多く含む分野である。構成要件理論・因果関係・不作為犯・違法性の本質・誤想過剰防衛・防衛の意思・責任能力・原因において自由な行為・未遂犯・共犯・罪数など難しい課題が初学者の前に立ちはだかる。なぜだろうか。

それは、犯罪が成立するか否かの判断が死刑や懲役という刑罰発動に直結するからである。犯罪成否の判断が恣意に流れ不公平が生じたり、不安定なものとなったりしないよう、論理的で厳密な判断枠組みが必要とされるからである。

そこで、そのような体系的に構築された刑法解釈論、犯罪成立要件を中心とした組み立てられた犯罪論を学ぶことが、刑法総論の学習の中心をなすこととなる。そのことから、初学者はその内容を理解することに大きな努力を払わなければならなくなる。そして、ある程度高い理解レベルに達した者の方々に、今度は解釈論の整合性のみに目を奪われ、論理的なつじつま合わせに終始しようとする傾向がしばしば見られることとなるのである。しかし、犯罪が人間の営為であり、リアルな現実の問題であることを見失ってはならない。刑罰制度が人々の社会生活や人生を左右する深刻な権力作用として現れる、という現実感覚を忘れてはならない。論理的な思考の筋道を踏み外さずに、しかも妥当な結論を見出すことが目指されなければならないのである。

バランスのとれた法的思考能力に裏打ちされた刑法の理解・知識を獲得することが、法解釈学のゴールであるとともに、刑事に関する立法論の出発点ともなるのである。

2 刑法を学ぶにあたっては、できるだけ具体的な設例や現実の事件、判例などを念頭に学習を進めることが効果的である。具体例の提示により容易な理解を図るといった説明方法に意を尽くした教材を用いることが特に有益である。具体例に即した説明に触ることは、抽象的な議論の理解を助けるほとんど唯一の方法といつてもよいからである。

自分で教科書を読みすすめる際も、つねに具体的なイメージを想いかべ、具体例に即して思考を働かせるよう習慣づけることが有効である。そして、設例、判例の事案に関する法の解釈・適用を検討する際は、そこで行われた規定の解釈がどこまで一般化できるかを探ることが重要となる。

そして、自分が十分な理解に達したかどうかの指標は、例をあげて自分の言葉を用いて他人に説明し納得させうことができるかである。できない場合は、そのテーマを十分に咀嚼し自分のものにするところまで到達していないと考えなければならない。自分が理解していないことを、他人に説明し納得させることなどできるはずもないからである。

3 テキスト巻末の「指導書」を学習に役立ててほしい。そこには、テキストの叙述の順に沿って、章ごとに学ぶテーマを設問のかたちで示してある。いきなりテキストを開き、書かれていることを理解しようとするのではなく、まず指導書のこの学習テーマをひもとき、「この設問にどう答えたらいよいか?」を頭のすみにおきながら、テキストのページを読み込んでいく。まず、「○○は何のためにあるのか?」「□□と△△とはどのような関係にあるのか?」といった設問をいったん自らの関心として受けとめ、その上でテキストを読みすすめながら、それに対する解答を探っていく、というアクティブな学習態度で取り組む方が、法律学の理解に到達するやり方として効果的と考えられる。

テキストは、刑法学の基本的理解を獲得し、堅牢な基礎を築くことを目的に編集されている。そこで、さらに詳細な説明や、応用的なテーマ等についての解説、また関連事項へのコメント等が必要になる場合もある。そのような学習の際、①テキスト等を読みすすめるにあたり、専門用語の意味をすばやく知るために法律学辞典、法令用語辞典などが便利である。②あるテーマの理解が困難な場合は、別の著者による別の刑法の教科書の説明に触れて理解できることがある。色々な角度から問題をながめ、また、色々な表現方法の説明に接することにより理解が容易になることもあるのである。図書館や書店で多くの刑法教科書を手に取ってみよう。③実際に起こった事件に法を適用して事案の処理を行った先例、つまり裁判例をコンパクトに紹介しコメントを付した「判例集」は、学習をすすめる上でもっとも重要なツールである。前述の具体性を大切にする学習方法を助ける便利で強力な参考教材である。

4 本来、「すべての学問は素朴な疑問から出発する」ものであろう。やみくもに暗記に走るという思考停止に陥ることなく、常に、なぜだろう、どうしてそうなのか、と問題関心を研ぎ澄ませ、積極的態度で取り組むことこそ、刑法を学ぶ早道であり、真の理解に到達する最短ルートである。

K30100 民 法 Ⅱ

清水 恵介

本教材は、第1分冊の（通常）物権法と、第2分冊の担保物権法とで大きく内容を異にしている。

前半の物権法では、債権と比べた物権の特質を理解し、物権法の諸原則を学んだ上で、物権的請求権や（対抗要件主義の下での）物権変動論などといった個別論点の多く集まる重要領域の学修が求められるほか、占有権や所有権に代表される（担保物権を除く）物権の諸類型についても、条文や判例を中心とした学修が求められる。

これに対し、後半の担保物権法では、債権回収を容易にするための一連の法的手段である「担保」の重要な一角を占めるものとして、一連の担保物権の法的規律を学修する。これには、民法中に直接の根拠をもつ典型担保物権（留置権・先取特権・質権・抵当権）と、他の法的仕組みを担保の目的で流用した非典型担保（譲渡担保・所有権留保など）とが含まれる。ときに強制力を伴った債権回収のプロセスとも強く結び付いているため、債権法の基礎のみならず、民事執行法や各種倒産法制の基礎にも触れざるを得ず、前半とは異なった学修が求められる。

本教材やその各頁が引用する条文（各種六法のほか、政府が運用する「法令データ提供システム」からも現在の条文内容をネット表示できる。）や判例（多くの最高裁判例については、裁判所のホームページにある「裁判例情報」から判決等全文をネット表示できる。）にあたるので十分な理解に達しない場合は、『注釈民法』をはじめとする逐条解説書（コメントール）や、より頁数の多い物権法・担保物権法の教科書・体系書を参照するとよいであろう。異なる視点から書かれた別の解説を読むだけでも、法制度のより深い理解へと導いてくれるはずである。

また、重要論点を含んだ著名な最高裁判例については、『民法判例百選Ⅰ 総則・物権』（有斐閣）に付された解説や、最高裁調査官の執筆による『時の判例』（有斐閣）・『最高裁判所判例解説民事篇』（法曹会）中の各解説が有益である。

K30200 民 法 Ⅲ

山川 一陽

債権総論という部分を勉強するについては、最初にこれがなかなか理論的な性格を持つ領域であることをしっかりと認識することが要求される。

そこでまず債権総論の全体の構成というものを整理し、これを前提にこれが債権全体についての共通する議論をしているのであるということを考えながら教科書を読んでいくことが必要となる。もちろん教科書は条文の解説であるということになるから教科書を読んでいく場合にも常に六法を手元に置いて教科書に引用されている条文については面倒がらずにその都度六法をあけてみると重要なことがある。

教科書の読み方は人によって異なるところがあるが、概して言えばまず教科書を通読するということが必要となる。この際にどうしてもわからないことにこだわりすぎないで読みすすめるといいであろう。

またくりかえして読んでいくうちに最初は理解できなかったところも理解できてくることはいくらでもあるからである。

K30300 民 法 IV**矢田 尚子**

民法IV（債権各論）では、民法典の第3編「債権」のうち、債権の4つの発生原因である「契約」「事務管理」「不当利得」「不法行為」について学びます。

ここで扱う領域は、私たちの普段の暮らしと密接にかかわり、私たちの暮らしの変化とともに発展し、新たな問題をも生み出し続ける現在進行形の領域です。2017年5月26日、「民法の一部を改正する法律」が成立し、120年ぶりに民法（債権法）が大きく改正されました。この領域は、まさにその改正対象の中心となっています。何が問題となって、いかに法律が変わり、それが私たちの生活に今後いかなる影響を与えるのかを理解することは、私たちの暮らしを法律という角度から眺めてみる絶好の機会です。

皆さんのが学ぶテキストは、もっとも基本的で、必ず抑えておくべき知識が、簡潔にかかれています。ただし、その分、具体的なケースなどがイメージしづらいこともあるかもしれません。その際は、リポート課題の中で示された判例集などの参考文献もぜひ、活用してみてください。また、この領域に限りませんが、テキストを読む際は、六法を手元に置き、それを参照しながら、勉強してみてください。特に、この領域は、民法の中でも、多くの条文数が割かれている部分であり、条文を引く勉強にもなります。

ちなみに、民法の勉強は、全体像を把握することでようやく理解できる内容もあります。したがって、多少、読み進めていく中で、わからないところがあつても、くじけず、基本がわかれれば十分というくらいの軽い気持ちで読むとよいかもしれません。最初は、意義や要件、効果といった法律の勉強をするうえでの基本をここでも押さえることからはじめましょう。なお、余裕があれば、すでに学びおわっている民法I（民法総則）も併せて復習することをお勧めします。当時、抽象的でわからなかった内容も、民法VIの知識と結びつくことで理解が促され、ひいては、民法VIの理解もより深まることになります。「急がば回れ」、あせらず地道な知識の積み重ねこそが、民法の勉強の早道です。

K30400 民 法 V**山川 一陽**

親族相続法は、親族法と相続法というかなり異なった領域からできあがっているといつていいでしょう。親族法の方は、比較的の常識になじみやすいといえますが、相続法の方は、一種の応用物権法のような性格を有するものです。それだけにこれを勉強する際には物権法の理解がある程度必要となります。

親族法にあっては、家族というものの制度的な法構造を理解して勉強することが必要となります。同時に家族法と家族の公示方法としての戸籍制度を理解しないなりません。戸籍への登録ということとの関連から各種の届け出義務などを理解することが必要となるし、こうして公示される家族関係の法的効果を検討していく必要があるといえましょう。

相続法にあっては、やはりこれが一種の財産法的なものであるということを考え、ここにあってどのようにして相続人間の公平というものをどのように実現するかということを考えなければならないといえましょう。とりわけ法定相続にあってこれがどのように実現されるかを勉強してほしいところです。

遺言相続にあっては、遺留分との関わりというものを考えることが必要となります。同時に手続法との関係も考えていただきたい。遺言をめぐる問題点については裁判例を広く参照してみることが必要です。また、条文についてはしっかりと参照しなければなりません。

K30500 商 法 I (新教材)**南 健悟**

商法Iでは、主として、商法という法律の「総則」及び「商行為」に関する規定について講義する。そこで、まず商法という法律は、どのような法律であるのかを、テキスト（教材）の「1 商取引規制の意義、特質と法源」(p.4～p.21)を熟読して、理解することが重要である。商法は、「商人」や「商行為」と呼ばれる法概念をベースに、商取引に関する法律であるとされる。「商法」と聞くと、悪徳商法に関する法律であるかのようなイメージを持つかも知れないが、講義で扱う商法は、あくまで商人や商取引に関する法律を指す。普段の生活等では、あまり意識されない分野であることから、実際の商取引をイメージしながら学修することが望まれる。なお、以下では、商法の学修上の具体的なアドバイスについて述べる。

まず、商法Iでは、大きく分けて、2つのパートから成りたっている。すなわち、一つは、「商人」という商取引の主体に関するパート、そして、もう一つは、「商行為」(=商取引)というパートである。前者は、商人という商取引の主体に対する規整、より具体的にいえば、商人概念、商取引主体の表示（商号制度等）、商人情報の開示（商業登記制度、商業帳簿制度等）、そして、商人の人的設備の拡張（商業使用人制度、代理商制度）について扱う。後者の商行為と呼ばれるパートでは、具体的な商取引について扱う。実際に、テキストを読む場合等には、このような商人や商取引の具体的なイメージを浮かべながら、法制度や法解釈を考察することが望まれる。

➤ テキストとの関係

- ① 商取引の主体（商人）に関する規整…p.36～p.84
- ② 商行為に関する規整…p.100～p.177, p.258～p.279

➤ 知識の定着のための学修

法学は非常に難しい言葉等を用いるため、学修が難しいと感じるかもしれない。テキストには、いくつかの簡単な問題も紹介されていることから、このような問題を解きながら知識の定着を図るとよい。また、下記の参考文献を並行して用いることも有意義と思われる。

➤ 参考文献

- 落合誠一ほか『商法I—総則・商行為（第5版）』（有斐閣）
- 稲田俊信編著『商法総則・商行為法・保険法・海商法』（法学書院）

K30500 商 法 I (旧教材)**丹羽 重博**

テキスト「商法I」の「学習のしおり」を参考に熟読して、商人と商行為の概念を正確に理解してください。また、商法典が改正されたので、新しい六法で条文を確認しながら学習する必要があります。なお、一般法である民法と対比しながら勉強すると分り易いと思います。

K30600 商 法 II**大久保 拓也**

経済社会で重要な役割を担う会社について規律する会社法は、平成17年に全面改正（平成18年5月1日施行）され、さらに平成26年6月に重要な改正がされており、実務に与える影響は大きいものです。その内容を理解するためには、単にテキストや条文を読むに留まらず、日刊新聞紙の経済面を読んで学習しておくことが重要です。

会社法の内容ですが、テキストを熟読することが不可欠です。テキストは、条文数の多い会社法の内容をかなり簡潔に記述しています。そのため、テキストを読む際には必ず『六法』で条文に当たり、条文を通じて会社法制度を理解することが肝要です。会社法は、関連規定を含めて改正される頻度が高いです。そのため、毎年刊行される最新の六法を用意して学習して下さい。特にこの科目に関しては、平成26年6月に会社法が改正され、また、会社法を理解するためには民法の理解も必要となるところ民法は平成29（2017）年に改正されましたので、それ以降に刊行された六法（平成30年度版以降）が必要です。

テキストや六法を読む際、一般法である民法や商法、その他の法令の条文が出てくることがあります。その際、その条文にも当たり、必要に応じてそれらに関する参考テキストも調べて下さい。

また、難しい法律用語も多くあります。そこで、参考書として『法律用語辞典』を用意し、分からぬ用語は辞典で確認すべきです。会社法は平成26年に改正されたため、それ以降に刊行された辞典でなければ改正された制度まで解説されていないので、新しい辞典を揃えることも必要です。

なお、科目修得試験の受験条件であるリポートの作成についても上記の方針で取り組んで下さい。

K30700 商 法 III**丹羽 重博**

テキスト「商法III」の学習指導書「手形・小切手の学び方」を参考に本文を熟読して、法規と実務との違いを理解して下さい。

法律関係を図式化しながら勉学すると分り易く理解が進むと思います。

K30800 刑 法 II**船山 泰範**

1 刑法II（各論）は、一般的な常識で対処できるものでないことを最初に伝えておきたいと思います。ですから、格別に学ぶ必要があるのです。

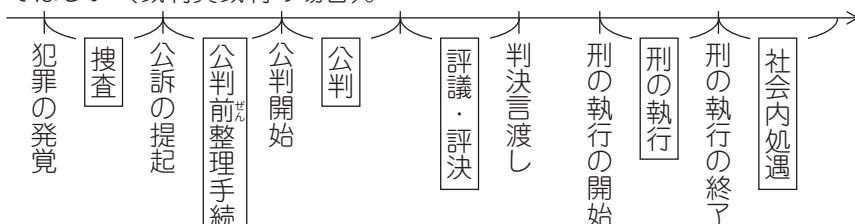
では、刑法各論は、なぜ常識と離れたところに位置しているのでしょうか。それは、刑法は刑法なりの合理性があるためです。その特色のいくつかを示しておきましょう。

(1) 法益保護のために、犯罪的結果が発生しなくても危険性に着目して犯罪類型が作られています。たとえば、未遂犯の規定はすべて危険性に着目しているのです。殺害にふさわしい行為がなされれば、被害者がけがをしても傷害罪ではなく、殺人罪の未遂（199条・203条）となるのです。

(2) 刑事司法のプロセスでうそがつかれた場合、可罰的（有罪）となることはごく限られています。虚偽告訴罪（169条）や、犯人を逃がすために犯人として名乗りること（103条）などです。うそは証拠裁判主義にとって困ることですが、それを見抜くために供述の裏をとることが当然とされている

捜査においては、一般に犯罪として取り上げるべきではないのです。

- (3) 同じような行為がなされても、(イ)その人の身分（立場）、(ロ)背景事情の知不知、などによって可罰性（処罰する必要性）が分かれます。
- (イ) 公務員が賄賂を受けとれば収賄罪（197条以下）ですが、民間人なら犯罪になりません。
- (ロ) 偽貨を使用しても、最初から知つていれば、偽造通貨行使罪（148条2項）、途中から知つたときは收得後知情行使罪（152条）で、法定刑に大きな差があります。
- 2 刑法各論は事例によって学習してください。犯罪の中に、人間の多面性を垣間見ることができます。
- 3 犯罪の成否は最終的には刑法各論だけではなく刑法総論と合体して理解しなければなりませんので、是非、刑法総論（特に、犯罪成立要件）と併せて学習してください。
- 4 刑法に限らず、法律を学ぶ人は常に六法を座右に置いて引くくせをつけましょう。少しずつ親しみがわきますから。ちなみに、大学に来るときには必ず携帯してください。
- 5 裁判員裁判がはじまって以来、事実認定のための証拠調査の状況が詳しく報じられるようになりました。刑法各論を学ぶために直接役立つ材料がたくさん提供されています。新聞では裁判員裁判について積極的にとりあげられています。参考にしましょう。
- 6 刑事訴訟法を未修であったとしても、刑事司法過程のあらましは知ってください。以下の略図を参考にしてほしい（裁判員裁判の場合）。



- 7 答案は、必ず段落を考え、段落に1, 2, …などの番号をふって下さい。これは、刑法Ⅱに限ったことではありません。

K30900 行政法Ⅰ

池村 正道

行政法は法典がないため、理解するのが大変難しいかもしれません、教科書は行政法の全体的な概要を説明したものですので、よく読んでいきますとだいたいの内容が理解できると思います。繰り返し、繰り返し、教科書をよく読んで理解し設問について答えてください。

K31000 行政法Ⅱ

池村 正道

行政法は法典がないため、理解するのが大変難しいかもしれません、教科書は行政法の全体的な概要を説明したものですので、よく読んでいきますとだいたいの内容が理解できると思います。繰り返し、繰り返し、教科書をよく読んで理解し設問について答えてください。

なお、行政法Ⅱ・行政法各論については、行政法Ⅰ・行政法総論（分冊2）を参考にすると設問に対する理解が増すと思いますので、参照してください。

K31100 国際法

喜多 義人

1. 学習上の注意

まず、テキストを熟読し、理解して下さい。そのうえで、テキストで取り上げた条文を国際条約集で確認し、事例（判例）についても国際法判例集で調べておくことが必要です。

2. 答案作成上の注意

- ① 問題の意図を正確に理解して下さい。
- ② 答案を書きはじめると前に、全体の構成を考えて下さい。
- ③ 文字は丁寧に、はっきり書いて下さい。
- ④ 誤字・脱字は減点となりますので、注意して下さい。
- ⑤ テキストの各項目ごとに模範答案を作成し、勉強するのがよいでしょう。

K31300 労働法

新谷 真人

1 労働法は、法改正が頻繁に行われている法領域であり、教科書だけでは新しい問題に対応できない場合があります。たとえば、労働契約法、男女雇用機会均等法、労働者派遣法が改正されていますし、政府の「働き方改革」の動向も注目されます。労働法を学修するにあたっては、このように現実の動向に関心をもって、アンテナを張っておく必要があります。

- 2 新聞等で報道された労働裁判にも、注意してください。そこで法的争点は何かについて、研究してみてください。
- 3 労働問題は、個別の労働条件をめぐるトラブルだけではありません。労働組合という集団的労使関係にも目を向けてください。

参考文献：

菅野和夫『労働法第11版 補正版』弘文堂, 2017年
 新谷眞人『労働法』弘文堂, 2014年
 別冊ジュリスト『労働判例百選第9版』2016年

K31400 知的財産権法

三村 淳一

1. 知的財産権制度は、人間の独創的な知的創造活動について、その創作者に一定期間の権利保護を与えるようにした制度であり、特許法、実用新案法、意匠法、商標法などの産業財産権及び著作権法や不正競争防止法を含む広範囲をカバーする法律です。それぞれの法律が、どの様なものを対象とし、どの様に保護しているのか理解することが重要です。知的財産権制度全般を理解するためには、指定教科書の他、土肥一史「知的財産権法入門（15版）」（中央経済社2015）が参考になるので、一読することを奨めます。
 2. 日本における特許制度では、書面主義を採用しており、発明品を特許庁に提出しても、特許を取得することができません。従って、特許取得に際しては、発明を文章で表現した明細書や発明を図化した図面と共に、特許を受けようとする発明を明記した特許請求の範囲を願書と共に提出する必要があります。これらの特許出願書類は、特許情報プラットホームで検索・入手できますので、特許法を学習するにあたって、自己の興味のある発明がどの様な特許として成立しているか、サーチをし、特許公報を読んでください。（<https://www.j-platpat.inpit.go.jp/web/all/top/BTmTopPage>）
 3. 特許として成立するためには特許要件を満足しなければならず、これには、発明であること、産業上利用できること、新規であること、従来の技術から進歩性があること等多くの要求があります。これらの要件を満たしているか否かの判断は、最終的には裁判所に判断が委ねられることになります。そのため、特許法習得には、判例を読んで法律を理解することも重要です。裁判所の判決文は、裁判所のホームページで公開されています。特に以下の判決は、重要な判例であり、一読してください。（http://www.courts.go.jp/app/hanrei_jp/search1）
- ① 東京高裁平成14.4.11 平成12(行ケ)65人を診察する方法事件
 - ② 最二小平成3.3.8 昭和62(行ツ)3リバーゼ事件
 - ③ 最三小平成5.3.30 平成3(行ツ)98数値制御通電加工装置事件
 - ④ 最二小平成26.6.5 平成24(受)1204号ブラバスタチナトリウム事件
 - ⑤ 最三小平成10.2.24 平成6(才)1083ボールスライン軸受事件
 - ⑥ 最三小平成12.4.11 平成10(才)364キルピー特許事件
 - ⑦ 東京地裁平成14.6.27 平成13(ワ)17772青色発光ダイオード事件（中間判決）
 - ⑧ 東京地裁昭和56.2.25 昭和50(ワ)9647一眼レフカメラ事件
 - ⑨ 東京地裁平成13.9.20 平成12(ワ)20503電着画像の形成方法事件
 - ⑩ 最三小平成11.4.16判決 平成10(受)153グアニジノ安息香酸誘導体事件
 - ⑪ 最三小平成9.7.1判決 平成7(才)1988BBS事件

K31500 税 法

黒川 功

- 1 各章ごとに要点をノートにまとめる方法で、学習を進めてください。
 - 2 各章について何がテーマであるか、そのことを憲法を頂点とする法体系の視角から考えるようにしてください。問題の本質・基礎理論を把握するようにしてください。
 - 3 テキストをほぼ4つに分けて、学習することとした場合、概ね次のテーマを想定して各人の考えをまとめるようにしてください。
- ① イ 財政学・税務会計学と税法学、口 税法の法的概念、ハ 納税者基本権、二 税法法律主義。
 - ② イ 借用概念、仮装行為、租税回避行為などと実質課税の原則の成否、
口 応能負担原則の法的意味、ハ 税法と信義誠実の原則、二 税法立法と税務行政。
 - ③ イ 租税法律関係の性質、口 連帶納税義務制度と第二次納税義務制度、
ハ 源泉徴収制度の法的構造、二 地方財政権の憲法的基礎。
 - ④ イ 税務調査権の種類と法的限界、口 税理士制度と税理士の使命、
ハ 税務争訟制度の仕組みと問題点、二 租税制裁制度の概要と法的問題点。

K31600 民事訴訟法**小田 司**

民事訴訟法を学習する際には、民事訴訟の基礎的知識の習得と民事訴訟の基本理論・構造についての理解が必要であるが、民事訴訟手続は鎖状につながっていることから、民事訴訟法についての理解を深めるためには、訴えの提起から口頭弁論を経て判決に至るまでの過程、すなわち民事訴訟手続の全体像を見渡す必要がある。また、民事訴訟について具体的なイメージが描けるように、例えば貸金返済請求訴訟、売買代金支払請求訴訟、建物収去土地明渡請求訴訟、交通事故に基づく損害賠償請求訴訟などの紛争事例を意識して、民事訴訟の基本理論・構造について学習するのが望ましい。さらに、最近の法改正、最新の判例・学説の状況についても、意識するように心がける必要がある。

最後に、学習した項目については、練習問題等を解いて、正しく理解できているかどうか、その都度確認することを勧める。

K31700 刑事訴訟法**関 正晴**

テキストを読んで勉強するに際しては、捜査、公訴提起、公判、上訴、再審といった刑事手続全体の流れを理解し、それぞれの手続段階の性質・原理・解釈の基準を正確に理解するように努めてください。刑事訴訟法の学習では、制度が設けられている基本的な理由を理解しながら教科書を読むことも重要です。手続全体の流れを理解するために、刑事手続の概略図などを参考にして確認しつつ教科書を読むことも有益です。教科書に記載されている刑事訴訟法の条文は、六法全書で必ず読んでください。その上で、学習がある程度進んだときには、「刑事訴訟法判例百選第10版(有斐閣ジュリスト)」などを参考にして、現実に裁判で問題となった事例とその解決方法を検討することも、刑事訴訟法の理解を深めることに有益ですので、これをお勧めします。

K31900 日本法制史**佐藤 邦憲**

法制史は、歴史的事象に対して、法学的視点からアプローチする学問であるから、研究や学習をおこなう際に、歴史学を引き込んでくる(テキスト本・序説)。つまり、研究や学習には、法学の知識と歴史学の知識—歴史学的な処理ができなければならない。そこで学習の際には、当科目のテキスト本と併せて、この他に日本史の概説本、市販の文庫・全書本、廉価な雑記本そして高等学校で使用した教科書などをぜひ読んでいただきたい。

また、当科目のテキスト本には基本的な史料を多くいれた。これは、本文説明の根拠であるとともに、諸君たちの学習や研究の基礎的な材料でもある。史料は書き下しているので何度も読んでいただければその理解は決して困難ではない。法制史の科目修得試験・リポートなどの作成に当たっては、この史料を充分に利用し、かつ法制史は上記の視点とそして「法学のファミリーメンバーである」との姿勢から論述していただきたい。

L20100 政治学原論**吉野 篤**

まず、テキストの各章全体の概要を把握してください。次に、テキスト本文を注意深く読み進め、その際、重要と考えられる論点についてノートに整理してください。専門用語については各自で辞典その他にあたって意味を把握しておくようにしてください。これについてはネット上の情報を確認することも場合によっては必要になるかもしれません。各章末にある参考文献は、さらに深く研究するために重要な参考資料ですので、とくに興味がある点については、このような参考文献にあたってさらに理解を深めることも重要です。いわゆる「古典」を直接読むことは、大学生にとって非常に大切で、学問の幅が広くなると思います。

その後に、各章末の研究課題を、まずは何の参考もなしに解答してみてください。その際、解答の「論理構成」をきちんと組み立てることが大切です。このようなことを繰り返し行うことによって、学習効果も上がり、論理的な考え方が身につくと思います。時間をうまく工夫して、学修に取り組めば、必ず一定の成果が上がるとともに、学問の面白さに気付くはずです。

L30100 行政学**山田 光矢**

行政学を学習する上で、最初に理解しなければならないことは、政治学でいう行政と法律学でいう行政の相違である。法律学は権分立論の立法と行政と司法から行政を考える。法学で行政は内閣と行政機構(省庁等)の役割とされ、主に消極説で考える。対して行政学では五権分立論により選挙権と立法権と執政権(executive power)と行政権(administrative power)と司法権から行政を考える。

行政学では、主権者の行使する選挙権と議会が行使する立法権と大統領と長官や補佐官ら(政府)や内閣が担当する執政権(これら三つの権利は意思決定にかかわる行為であり、立法権と執政権は政治家

が中心となって行使するものである)が政治とされ、決定された意思の執行を担当する行政機構(省庁や地方公共団体等)や一般職公務員の役割などが行政とされるのである。決定された意思を中立的・効率的に執行することが行政の役割であり、行政機関の設立や、担当者である公務員の選任方法、そして公務員をいかに効率的に働かせるかが行政学の主要な課題となっているのである。

それゆえ教科書では、最初に行政の意義と行政学の誕生、時代の変化と行政需要の拡大への対応を中心とした行政学の発達、さらに国家と地方公共団体の関係や役割について論じている。次に官僚制機構を中心として、行政組織と公務員について研修までも含めて記述し理解を求める。第三に効率的な行政遂行に必要な行政管理や、行政機構内部の意思決定の日本の特色を稟議制として説明している。最後に情報公開を中心とした新しい時代に応じた行政のあり方や、行政改革の手段としての行政相談や行政監察、そして機構改革の一つの手段であるオンブズマンについて論述している。

行政の役割は小さな政府論と大きな政府論ではまったく異なっている。市民社会は自由主義に立脚し、自由放任による競争社会を前提とし、自己責任を中心とした個人の責任が重視されていた。国家は立法国家あるいは夜警国家と呼ばれ、消極国家すなわち小さな政府が理想とされ、政治は保守主義に基づいて実践されていた。大衆社会では自由競争による貧富の差の拡大が問題視され、社会福祉や社会保障による平等化社会の確立が重視された。国家は行政国家あるいは福祉国家と呼ばれ、積極国家すなわち大きな政府が理想とされた。政治は社会民主主義に基づいて実践された。

自由主義・保守主義に基づく消極国家では、自由競争が経済発展をもたらすが、貧富の差が拡大することが問題とされた。平等主義・社会民主主義に基づく積極国家では、社会福祉制度の拡充が人々に安心した生活を与えることを目的としているが、行政機構の拡大や財政赤字の増大をもたらし、国家や地方公共団体そのものの存立を危うくする可能性が認められる。それゆえ政権交代や行(財)政改革の必要性が顕在化するのであり、その望まれる方向性を考察するものが行政学である。

日本では行(財)政改革の必要性が、ドッジライン、シャウプ勧告、臨時行政調査会答申等によって、継続的に強調されてきているが、いまだに完全には実現されていない。この行(財)政改革のあり方や方向性は、教科書の内容を総合的に学習することで理解されるはずである。また、現在の行(財)政の問題点や行(財)政改革の目的や方向性を考えることは、行政に対する理解を深めてくれるとともに、どのような改革がなされるべきかという、個々人の考えの確立の手助けになるはずである。

行政は行政需要の拡大の影響を受けて、時代とともに変質していくものであり、それは留まるところを知らない。それゆえ行政学は時代との関係で、どのように行政需要が変化し行政機構や制度も変質してきたかという、歴史や理論の分析だけでは不十分な学問である。現状や将来に向けた考察も求められる学問である。

それゆえ、最初に教科書のそれぞれの項目を要約することで行政学の要点を理解する必要がある。それから、現在の行(財)政が抱える問題点を、マスメディアやネット等のニュースや情報や資料を通じて理解し、行(財)政改革の望ましい方向性や内容への理解を深めてもらうことが必要である。試験を受けるに当っては、教科書を四つに分類したことを参考にして学習して臨んでください。

L30200 国際政治学／R32700 国際政治論／S33200 国際政治学概論

佐渡友 哲

国際政治学(論)という学問分野は、私たちの生活と直接な関係がないように思われたり、難しい内容だと思われたりします。しかし実際には、国家間関係ばかりではなく、ヒトやモノの国境を超える交流や私たちの生活ともかかわる地球環境問題も取り上げられます。国際政治を学ぶことは、今日のグローバル化社会を考えるよい機会になると思います。

これから国際政治学の修学を始めようとする皆さんにとって大切なことは、国際社会を観察する姿勢をまず身につけることです。テキスト『国際関係論』の第1章を熟読して、学修する心構え、研究方法や研究領域などについて理解しましょう。そして目次全体に目を通してことにより、国際政治を観察するための4つの視点(第I編～第IV編)が提示されていることに気が付くでしょう。すなわち①歴史分析の視点(国際社会がどのように形成されたのか)、②現状分析の視点(国際社会の現状をどう捉えるか)、③理論分析の視点(現象や思考をどのように理論化するのか)、④課題分析の視点(現在解決すべき国際的課題はどのようなものか)などである。

テキストの第I編では、学び方の後に国際政治についての歴史の捉え方と20世紀の歴史、第II編では、米国の世界戦略、グローバリゼーション、安全保障、日本周辺の国際政治などの現状分析がテーマ別に取り上げられています。第III編では、現実主義と理想主義、地域統合論、国際レジームなどの理論的視点が説明されています。そして第IV編では、現在私たちが直面している世界的な課題として、南北問題、地球環境問題、紛争解決などが取り上げられており、市民社会がどのような役割を果たすかについても言及されています。

このように、国際政治を理解するために、「歴史」「現状」「理論」「課題」の4つの視点で捉えて下さい。テキストは全15章で構成されていますが、それぞれの章は独立したテーマで書かれていますので、関心のある章から精査・熟読することもできます。そして関心ある問題領域を発見したら、紹介されている参考図書(テキストの巻末)やネット情報を手に入れて、より理解を深めて下さい。また、基本的な

概念や専門用語がなかなか理解できない受講生は、まずテキストの用語解説や索引などを含め、全体に目配りをしてみてください。同時に事典やネット検索を積極的に利用してみましょう。

L30300 政治思想史**佐藤 高尚**

まずは教科書の内容を正確に読み取り、理解してください。そのうえで、取り上げられている思想家の著作にぜひ挑戦してみてください。これらの古典は、文庫本等で容易かつ安価に入手することが可能ですが。長い歴史の中で評価され続けてきた古典は、人間の叡知の結晶です。現代の政治を理解する際にも、古典から得られた知恵は必ず役に立つはずです。

答案の準備にあたっては、様々な参考文献に目を通して、多様な視点から思想内容を理解するように努めてください。テキストの内容をまとめることだけにとどまるのではなく、自分なりの考えを組み立てるよう努力してください。

L30400 日本政治史**瀧川 修吾**

まずは目次を縦覧してみましょう。本学の日本政治史のテキストは、章の中に2, 3の節があり、さらにその中に幾つかの項が設けてあります。場所によって項の数は異なりますが、[1] … [6] と表記されているものがそうです。学修の方法は人それぞれですが、各項で主題とされているテーマを意識しつつ、重要なキーワードを簡単な説明と共にノートに書き出すなどしながら、整理をしておくと良いでしょう。

年表を用いて事件等が大きな歴史の流れに占める位置を俯瞰したり、日本史辞典等を用いて特定のキーワードにつき、深く調べてみるのも面白い筈です。「自分が歴史上の人物〇〇であったとしたら、どうしたか…」、「あの時、あんな失敗やこんな偶然がなかったら…」といった、いわば身近な視点で歴史との対話を楽しんでみて下さい。強いて覚える苦役からは解放されるはずです。

当科目の科目修得試験では、原則、年月日の暗記までは要望されませんが、事件や出来事等の前後関係、因果関係はしっかりと把握しておいて下さい。そして、答案作成にあたっては、事件等の概要を要領よく纏めるだけでなく、必ず「私見」を、概要とは別して述べるように心がけて下さい（難しい場合は学んだ感想でも構いません）。

L30500 西洋政治史**杉本 榮**

次の手順に従って試験の準備を進めることを推奨します。

- ① 必ずノートを取りながらテキストを熟読する。
 - ② 各章末にある「知識を確認しよう」の問い合わせに解答する。
 - ③ 十分な解答が得られなかった場合には、再度、テキストで確認する。
- 上記の①～③のサイクルを繰り返し実行することで、試験対策は万全です。

L30600 東洋政治史**松村 修一**

細かい内容や年号などを覚えるのではなく、政治史においては、全体的な流れを把握し、事件や出来事、現象の因果関係を理解してください。

政治制度や政治過程においては、中国の場合は社会主義と共産党独裁との関連、韓国のは軍部独裁と民主化との関連を中心に特徴などを理解してください。

そして、最後に各章末にある「研究課題」に取り組んでおくとよいでしょう。

L30700 外交史**信夫 隆司**

外交史を学ぶ上で、物事が (What), いつ (When), どこで (Where), だれによって (Who), どのように (How), なぜ (Why) 起ったのかをつねに確認することが重要である。まったく同じ出来事が二度起ることはない。ただ、似たような出来事は起りうる。そこから、歴史の教訓なりが得られるだろう。

また、通史だけではなく、関心を持ったテーマについて、自ら勉学を進めることが重要である。幸い、個別の外交史のテーマについて、新書の類も数多く出版されている。これらを読みながら、ぜひ、理解を深めていただきたい。

L30800 地方自治論**外山 公美**

「地方自治論」の科目修得試験の受験に際しては、まず、テキストを熟読し、各章末（I章 = 62～

63ページ、Ⅱ章=124～125ページ、Ⅲ章=182～184ページ、Ⅳ章=238～239ページ)に示されている「学習指導要領」を参考に各章の目的について正確に理解してください。

その上で同じく各章末の【演習問題と学習のポイント】に掲げられている設問について、テキスト及び【学習のための参考文献】に示された文献や資料などを活用して、各設問についてレポート用紙1～2枚程度にまとめ、準備しておくとよいでしょう。

また、最近の動向については、マスメディアの報道はもちろんのこと総務省や各地方公共団体（都道府県や市区町村）のホームページなどでチェックしてください。地方自治に関する諸問題は常に生成され展開していますので、科目修得試験においても最近の動向に言及することについては高く評価します。

M20100 国文学基礎講義**近藤 健史**

本教材は上代から近世までの、散文と韻文の主な作品を取りあげているものである。

そこで各章の「本章のポイント」を読み、教材の内容を理解することが重要である。また、本教材は、目次が細分化されているのが特徴であり、その目次の項目をポイントとして各章を読むことが大切である。さらに、「知識を確認しよう」も大切である。各自、問題を解いて学修の成果を確認しておいてほしい。

M20200 国文学概論**藤平 泉**

4回ある試験は、広い範囲ですが、第1回から第4回まで教科書にそって出題しますので、第一分冊から第四分冊へと順に準備を進めると良いでしょう。(追再試験は、全範囲になります)教科書には、具体的な作品の引用が少ないので、教科書に上がっている文学作品については、近くの図書館や、インターネットなどを利用してできるだけ目を通してください。またその解説なども読んでおくと良いでしょう。むずかしい用語なども、辞書やインターネットで調べてみてください。

M20300 国語学概論**荻野 綱男**

本テキストは国語学(日本語学)の全般がカバーできるように、章に分け概観している。

特に、日本語学とは、音声と音韻、語彙、意味、文法、文章と文体、文字と表記、敬語、方言と共に通語は、基礎分野なので十分に把握し、それ以外の章で後ろ盾を得て欲しい。

その先の勉強を望むならば、各章末尾の【参考文献】を手がかりとして専門書や論文を読み進めるのがよいであろう。

M30100 国文学史 I (新教材)**近藤 健史**

テキストは、日本文学の流れをたどりつつ、その根幹を大きく捉え、作品の一部を示し、時代が下るにつれて、さまざまに分化・展開する様相を記している。まず、各時代における「概説」を読み、政治的・社会的・文化的・風土的背景や、文学の展開、特質などを学ぶことが大切である。次に、各時代のジャンルごとの作品の成立や特色、その影響などを学んでおいて欲しい。全体的な文学の流れは、巻末の「日本文学史年表」により理解を深めることを勧める。

M30100 国文学史 I (旧教材)**近藤 健史**

基本的には、作品成立事情や基盤、内容、特色、作者の特徴などを知っておくことが大切である。

また、文学史ということから、作品の発生と展開、例えば日記の分野での、発生の基盤や原因、その後の作品への影響、つまり後に続く各時代の作品を系統づけて見ておくことも重要である。さらに付け加えるならば、各時代の代表作者、作品の特徴などを解説した「注」の部分も読んでおいて欲しい。

M30200 国文学史 II (新教材)**武内 佳代**

まず、テキストの「序章」を読み、明治から昭和にかけての日本文学の特徴の概略を把握してください。そして、各章・各節で扱われている時代時代の文学のキーワードをおさえたうえで、それについて代表的な作家や作品を挙げて、その特徴や文学史上の評価・役割などについて整理をし、詳しく説明できるようにしてください。また、年表を参考にするなどして、文芸思潮がどのように変化・推移していくかについても説明できるようにしてください。

テキストで取り上げられている作品内容については、実際に作品を読んで深く理解することが望ましいです。

M30200 国文学史Ⅱ（旧教材）**武内 佳代**

テキストでは近世、近代の部分がⅡにあたります。

まずその歴史的背景を年表で押さえた上で文学の系統について流れを把握し、実際の作家や作品がどこに位置するのかを確認するようにしてください。さらにその作品がどのように分類され、意味づけられているのかを理解するようにして下さい。また代表的な作家と作品を結びつけ、その時代の社会状況や言語空間の中で説明できるようにして下さい。

用語については文学事典などを調べ理解を深めるようにして下さい。

M30300 国文法**杉山 俊一郎**

本テキストは統語論としての文法を扱っているので、高等学校までの文法知識を高等学校時の教科書などで再確認しておくのが良い。高等学校までの品詞論としての展開とは全く異なる点で違和感を覚えるかもしれないが、例文が豊富で平易な説明がなされ、例題も適切であるから、充分に活用して万全を期して欲しい。また、各章で示される文法知識や考え方について、テキストの例文だけでなく、自分で考えたり集めたりした用例を使って検討を加えてみるのも効果的である。

M30400 国語学講義**鈴木 功真**

本科目は国語史を大きく3つに分けており、付録として資料編が添えられている。しかし、資料名など細かな点を覚えておいても国語史の流れは把握できないので、307ページまでを重点的に勉強して欲しい。本科目のねらいは次のとおりである。

ポイント1. 国語史概要と奈良時代までの国語が把握できていること。

ポイント2. 平安時代以降の特徴が捉えられていること。

ポイント3. 院政鎌倉時代の特徴が捉えられていること。

ポイント4. 国語史の主要術語について答えられるようになっていること。

M30500 国文学講義Ⅰ（上代）**近藤 健史**

第一分冊では、古事記、日本書紀の歌謡、いわゆる記紀歌謡の表現技法を中心に述べている。ここでは、記紀歌謡の修辞法だけでなく、記紀歌謡の概説、内容などについても学んでおく必要がある。脚注の口語訳の利用も忘れずに。

第二分冊では、万葉の相聞歌の表現様式について述べている。ここでは相聞の名義、三種類の表現様式やその効果などを学んでおくべきである。

第三分冊は万葉集の羈旅歌、いわゆる旅の歌についてである。ここでは、旅の歌の在り方、分類した旅の歌の内容や表現の特徴などを学ぶべきである。例としてあげてある歌の意味を理解することも忘れないで欲しい。

第四分冊は、上代文学における農耕説話の意義、類型について述べている。これらについて理解するとともに、具体的な農耕説話について一読しておくことが大切である。

M30700 国文学講義Ⅲ（中世）**阿部 好臣**

とにかく、テキストを熟読するところから始まります。テキスト、特に大判の方は、かなり古いものではありますが、文学研究の基本となる用件をしっかりと保持していて、今日でも十分にその価値を失ってはいません。ただし、研究は、ある意味では進歩してもいます。その新たな情報は、補わなくてはなりません。その情報は、例えば国文学研究資料館のホームページなどを手掛かりにして得ることができます。それから、何よりも、文学研究は、その作品が命です。作品を読まなくては何もいえませんし、本当に面白いのは、作品それ自体なのです。ですから、たとえ頁をめくるだけでも作品と対面して下さい。今は、良いテキストに恵まれている時代です。例えば、『新編日本古典文学全集』小学館、『新日本古典文学大系』岩波書店、などがあります。また、指定したテキストの『源氏物語の世界』は、作品世界のダイジェスト的なもので、概観を知るのに適切です。そして、それから原文に進むことも忘れないでください。

M30800 国文学講義Ⅳ（近世）**竹下 義人**

教科書の内容を十分に理解することが肝心です。概説とともに引用紹介される原文は、作品の一部分に過ぎませんが、必ず精読するようにしてください。各作品の全文は、『日本古典文学全集』『新編日本古典文学全集』（小学館）、『日本古典文学大系』『新日本古典文学大系』（岩波書店）、『新潮古典集成』（新

潮社)などに収録されています。注も備わっているので、それらを参考に、解釈・鑑賞上の問題点や疑問点などをまとめてみましょう。書くことによって理解は探まっていくはずです。全集・大系本はどこかの図書館でも所蔵していると思いますが、未収録の作品を調べたい、主要な作家・作品に関する研究史を知りたい、という場合は、『日本古典文学大辞典』(岩波書店)、『日本古典文学研究史大事典』(勉誠出版)、『新版近世文学研究事典』(おうふう)などを参照してください。

教科書の内容は広範かつ多岐にわたっていますが、各単元(第一～第四単位)の要点は章末に付いている「研究課題」と関連しています。学習の区切りがついたところで、それぞれの課題に対する答案を作成してみましょう。「研究課題」ゆえに、正解が一つとは限りません。むしろ諸説あるのが普通です。ぜひ挑戦してください。教科書の記述や参考文献などを活用しながら、咀嚼・理解したことを自分の言葉で表現できるようになれば、科目修得試験の準備は整ったことになります。

M30900 国文学講義V(近代)**尾形 大**

国文学講義Vの学習の基点は、明治期から昭和期にかけての日本の近代文学の流れが丁寧に概説されたテキストおよび学習指導書の精読にあります。テキストを通じて文学史の全体像を把握した上で、さまざまな同時代状況・社会状況の下に創作され発表された個々の作品を実際に手に取り、鑑賞するという流れで学習を進めてください。そうした学習を踏まえた上で、各時期の中心的作家の文学活動の実態、代表的な作品の内容、さらに同時代の文学思潮、社会状況の中での位置付けといった点について論述できるように入念に準備を整えてください。

M31400 国語音声学**林 直樹**

音声学は暗記科目、という思い込みがあるかもしれないが、それは違う。テキストに書かれた目新しい述語や記号を漠然と眺めていると、「暗記科目」という気持ちになってきてしまうのだろう。その思い込みからの脱却が音声学に近づく第一歩である。

ここで、音声学に対する見方を変えてみよう。まず、わたしたちが口頭で言語をやりとりするときには必ず、「音声言語」を用いているのだ、ということを思い出してください。多くの人が普段の生活の中で無意識にやり過ごしている音声言語活動を意識的に捉え直す、それが音声学である。注意深く自分自身や身近な誰かの発音を観察する新しい「ものの見方」の獲得である。

つまり、テキストを単に眺めるということから脱却し、テキストで挙げられている具体例ひとつひとつを自分自身で発音してみることが、音声学理解の近道である。記号類もまとめてみると、新しい記号とその組み合わせを山ほど覚えなければいけないような気持ちになるが、落ち着いてよく見直せば、アルファベットと同じ記号や、日本語のローマ字表記と同じ組み合わせのも多くあるはずだ。全くの見知らぬ記号は、ごく少数であるはずである。以下のようなことを心がけてみよう。

- ① テキストの具体例を、ふつうの声の大きさで実際に発音し、口の構えを実感する
- ② 記号はただ眺めずに、その記号がどの仮名相当の記号か常に意識して当てはめつつ、ふつうの声の大きさで発音しながら、ノートに書き写して確認する
- ③ 抽象的な内容も具体例がある。具体例を自分でふつうの声の大きさで発音することによって体で理解する

履修者の多くが第一言語、または第一言語並の運用能力をもつ日本語のことである。恥ずかしがらず、また恐れずに「頭」「口」「手」を使いながら学習をすることを薦めたい。

テキストには、具体例が豊富に挙げられている。「頭(理解・聴解)」「口(発音)」「手(ノート作成)」を使いながら学習を進めるように構成されている。テキスト巻末の参考文献にあげられている教科書類では音源付きのものもある。それらを聞くことも理解の助けになるだろう。その際、やはりただ「聞く」ではなく、自分で発音してみることも大切である。

以下では、テキスト巻末に掲載されていない文献ならびにサイトURLを示す。講座ものはテキストをより深く理解するためにとくに薦める。

- 鹿島央 2004 『日本語教育をめざす人のための基礎から学ぶ音声学』(スリーエーネットワーク)
- 上野善道編 2003 『朝倉日本語講座3 音声・音韻』(朝倉書店)
- 窪瀬晴夫 1999 『現代言語学入門2 日本語の音声』(岩波書店)
- 小松英雄 1981 『日本語の世界7 日本語の音韻』(中央公論社)
- 杉藤美代子監修 1989 『講座日本語と日本語教育2 日本語の音声・音韻 上・下』(明治書院)
- 田窪行則他 1998 『言語の科学2 音声』(岩波書店)
- ジェフリー・K・プラム／ウィリアム・A・ラデュサー 『世界音声記号辞典』(三省堂)
- 松森晶子他 2012 『日本語アクセント入門』(三省堂)
- The International Phonetic Association サイト URL http://www.internationalphoneticassociation.org/redirected_home

M31500 漢文学 I**本間 直人**

まず、テキスト全体を概観し、書かれている内容を把握する必要があります。次に、漢文の基礎について、テキストの記述に沿って学習して下さい。続いて、実際の漢文に当たって理解を深めるわけですが、そこで留意すべきは、常に問題意識を持ちながら読むということです。テキストを精読し、科目修得試験の受験条件であるリポート作成に真剣に取り組むことも、その一環であり、漢文の実力養成には不可欠と言えます。

M31600 漢文学 II**本間 直人**

まず、テキスト全体を概観し、書かれている内容を把握して下さい。次に、テキストの精読へと進むわけですが、そこで留意すべきは、常に問題意識を持ちながら読むということです。科目修得試験の受験条件であるリポート作成に真剣に取り組むことも、その一環と言えますし、当然、その中で、テキスト所載の「参考文献」に当たる必要も出てくることでしょう。

テキスト中の詩文と典籍についての解説を熟読し、「語釈」等については、是非、積極的に漢和辞典を引いて確認して下さい。又、白文の訓読、口語訳にも力を入れて学習を進めて下さい。

M31900 文章表現法**近藤 健史**

テキストを読む前に、「本書の構成と各章のねらい」について確認することを勧める。また、各章の末尾にある「課題」を活用し、章の内容について理解を深めて欲しい。付属の「ワークブック」には、テキストにある課題の解説および発展学修のヒントがあるので、課題や章全体の理解を深めるために、活用しておくことが大切である。

N20100 イギリス文学史 I**山下 登子**

テキストの前半部は Anglo-Saxon England の文学から第十八世紀の文学までの文学史の講義となっています。いわば講義録ですから、テキストを読むことは授業を受講していることと同じとみなし、各章毎に要点をノートにまとめながら、時代背景、各作家、各作品などについて理解するとよいでしょう。各章における年代、時代背景、各作家と各作品、そして各作品の概要を覚え、説明できるようして下さい。その際、作家と作品の名前は英語で書けるようにして下さい。また、例えば、Moralityplay のような専門用語にも注意して下さい。わからないところ、くわしく知りたい所は『英米文学辞典』(研究社)、『イギリス文学史』(齊藤勇、研究社)など各種研究書を用いて調べ、テキストの内容を各自で補いながら理解を深めるようにして下さい。

テキストの後半部はアンソロジーとなっています。英文学研究の要は何といつても作品を精読することにあります(翻訳を読んで済ますのではなく)。注釈を大いに参考にして各作品(ほとんどがその抜粋ですが)を精読して下さい。少なくとも、各作品の引用を読んで、作品名とその作品を書いた作家名は英語で答えられるようにしておきましょう。

いずれの回にいずれの部分から出題されてもよいように、毎回必ずテキスト全体を学習した上で試験に臨む姿勢が必要です。

N20200 英文法**一條 祐哉**

教科書を少なくとも2回は通読すること。まずは目次を見て、学習する文法事項を概観する。

1回目の通読では、例文を活用しながら各文法事項の概念や用法などを理解することに努める。初めて知ったことや読んでも理解できなかったところはマークをしておいて、後で読み返せるようにしておく。各セクション最後の「忘れないで下さい！」コーナーを読み、そのセクションで学んだことを確認する。そこに記載されていることで、分からぬ項目があれば、該当する箇所の説明に戻って読み直す。ただし、丁寧に読みすぎて途中で挫折しないこと。1回目の通読では、分からぬところはとりあえずマークをしておいてどんどん読み進め、最後まで読み通すことを目指す。

ひと通り読み終えたら、マークしておいたところを重点的に、2回目の通読をする。併せて自分なりの言葉で、かつ中学生・高校生でも分かるような言葉で文法項目(概念、種類、用法など)についてノートにまとめる。また品詞横断的に、例えば、名詞相当語、形容詞相当語ごとにまとめてみるのもいい。その際、例文(教科書以外の簡単な例文でもよい)も併せて書くこと。この段階でもまだ分からぬところがあり、教科書だけでは解決できない場合は、文法書等で確認すること。また基本的な文法用語の英語も確認しておくこと(subject, nounなど)。

最終的には、各文法事項の概念や用法について、例文を用いながら、分かりやすく説明できるようにしておくこと。

N20300 英米文学概説**工藤 由布子**

テキストでは、第1章「文学と言語」、第2章「文学と社会」、第3章「詩」、第4章「小説」、第5章「演劇」が論じられている。それぞれに具体的な例が豊富に挙げられ、英語を母国語としない学生にとって、優れた英米文学入門書となっている。入門書と言っても、そこで平易に語られている言葉・文学・社会などの問題点はいずれも奥が深く、今後の学習・研究の大きな助けとなるものばかりである。それぞれの章は、例えば詩なら、比喩的用法、リズム、形式、雰囲気、というように、幾つかのテーマに分かれて説明されているので、テーマごとに理解していくことが大切である。

試験では、各章の内容をどの程度理解しているか、主として英文を読み、それに問い合わせを加える形式で出題する。それぞれの章の重要な箇所を英文でしっかりと読んでおくことが求められる。

N30100 イギリス文学史Ⅱ**山下 登子**

イギリス文学史Ⅱの科目修得試験の準備は、他の科目と同様、テキストをどこまで理解・把握しているかにかかっている。テキスト後半のアンソロジーの部分は、それまでの概論を具体的に理解するためにはぜひ目を通しておきたい。第1回から第4回の重点的学习範囲は、テキストの各時代に相応するから、あらかじめ当該箇所をよく読んで、試験に臨んでもらいたい。具体的には以下のよう準備をしてほしい。なお、固有名詞はすべて英語を用いるよう指示しているので、日ごろから作者名、作品名を英語で書けるようにしておくことが必須である。

〔ロマン主義の時代〕

テキスト本文に引用されたロマン派詩人の作品の一部をよく読み、作者名と作品名を確認すること。なお、代表的なロマン派詩人の解説の把握と、ロマン主義復興という現象の意味も考えてほしい。

〔ヴィクトリア朝時代〕

ヴィクトリア朝を代表する思想家と小説家について、その名前と代表作を確認すること。また、彼らが時代に対してどのような批判をしたかについても、テキストから把握しておくこと。この時代がイギリスの歴史の中でどのような意味を持ったかを、考えることが重要である。

〔世纪末から第一次世界大戦まで〕

19世纪末から第一次世界大戦にいたる代表的な作者と作品を、テキストの記述にしたがって把握してほしい。

〔第一次世界大戦から現代まで〕

第一次世界大戦から現代にいたる代表的な作者と作品を、テキストの記述にしたがって把握してほしい。とりわけ、ウルフ、ジョイス、ロレンスの3人については、十分にテキストの解説を読んでおくようになしたい。また、この時代を代表する詩人についても、代表作とともに確認すること。

N30200 アメリカ文学史（新教材）**北原 安治**

テキスト井上謙治著『アメリカ小説入門』の各章の要点をまとめた。テキストの英語原典からの抜粋英文を訳せるようにしておく。極端な意訳は避け、ぎこちなくとも良いので英文構造がわかる直訳ができるように心がけること。図書館で訳本を探して参考にすれば良い。主要作家の代表的著作の粗筋や特徴をまとめておく。作品にできるだけ多く直接触れることが大事である。また作家を取り巻く社会状況や時代背景や文学的傾向もまとめておくこと。

N30200 アメリカ文学史（旧教材）**北原 安治**

テキストの各章の要点をまとめた。テキスト内の作品からの引用の英文を訳せるようにしておく。英文引用は代表作からのものなので、図書館で翻訳書を参考にすると良い。極端な意訳は避け、ぎこちなくとも良いので英文構造がわかる直訳が良い。言及される主要作家・詩人・批評家・戯曲家・思想家の代表的著作に、できるだけ多く直接触れることが大事である。また作家を取り巻く社会状況や時代背景もまとめておくこと。

N30300 英語史**真野 一雄**

過去の問題を検討してみましょう。問題にされているところが、いつ、どのようにになっているでしょうか。よく問題とされているところを参考に、以下の部分をよく学習してください。

第I章 インド・ヨーロッパ語族／祖語、ゲルマン語派、 Anglo-Saxon族の渡来、英語の時代区分、ノルマン人の征服とその影響、英語の復活、MEからModEへの移り変わり、ModE期の借用語（※ノルマン人の征服に関してはテキスト本文には説明がありませんが、それは英国人には常識だからです。私達日本人はその出来事がいつ（何年に）、誰が、何をしたか〔テ

- キストの注参照], そして, 言語的にどうなったか, その影響を知っておく必要があります。)
- 第Ⅱ章 アグラウト, グリムの法則 (特に(2)(3)の変化), ウムラウト, 大母音推移, ModE 期の二重子音
- 第Ⅳ章 名詞の (不規則) 複数形, 二人称代名詞, 強変化動詞, 弱変化動詞, 特別動詞
- 第V章 属性 (群属性), It is me, 関係代名詞, 非人称動詞, 未来の表し方, do の用法, 接続法, 不定詞

過去の現象・出来事でも現代にその影響・結果が残っているもの, そしてそれがよく用いられるものであれば, 重要なものと言えるでしょう。それらを知っていれば英語という言語についての知識が豊かになり, 試験だけでなく, 実生活においても「役に立つ英語史」とすることができるでしょう。

それらの現象・出来事が的確に説明できるように, テキストの英文をしっかりと読み, キーポイント・キーワードを正確に捉えておきましょう。また, 語例・文例がある場合には, その代表的な語例・文例をも正しく覚えておきましょう。例を知っていなければ役に立ちません。

今年度はテキストの英文に記されていることをまとめた問題4問です (和訳ではありません)。何がポイントとなるのかをよく見極め, そこを重点的に述べてください。些細なことは言及する必要ありません。

参考物持込は全て不可です。

N30400 英作文 I

ダレル ハーディ

“English Composition 1” focuses on writing at the sentence level with an emphasis on sentence formation and the use of idioms. The textbook is basically divided into two parts. First, there is a focus on style, especially in regard to ways to begin a sentence using a variety of subject forms. Next, there is a focus on idioms which are commonly used in English writing. The textbook provides an explanation in Japanese for each language point and idiom along with a model sentence in English followed by a Japanese translation.

Students are expected to have read through the textbook and be familiar with the various sentence formations and idioms. The test will focus on the idioms presented in the textbook and students will be given a list of ten idioms and are expected to write one sentence in English for each idiom.

Make sure to carefully study the idioms in the textbook and do the practice activities. It is also recommended that students investigate further into the usage of the idioms by looking at further examples in a good dictionary or do a search on the internet.

N30500 英作文 II

ダレル ハーディ

“English Composition 2” continues from “English Composition 1” with the study of some common idioms found in English writing. The textbook then introduces paragraph writing followed by the concept of a five paragraph essay.

Students are expected to have read through and have a good understanding of the concepts introduced in the textbook. Students should be able to write a concise paragraph and understand the organization of a standard five paragraph essay in English.

Students are required to write a five paragraph essay for the test. You will be given two general themes to choose from in order to decide on a topic and compose your essay. Your essay should have a title, an introduction with a clear thesis statement (paragraph 1); body paragraphs which should support your thesis (paragraph 2-4), and a conclusion (paragraph 5).

The style of writing should be formal. Avoid using slang and writing in the first person (“I”). Also, do not write extensively about yourself or your personal experience even if it relates to the topic.

N30600 英語音声学

中村 光宏

英語音声学の学習目標は2つあります。それらは、「英語の音声・音韻体系の主要な特徴を理解すること」と「英語音声を自覚的に運用するための音声学的視点を身につけること」です。これら2つの目標を念頭において、計画的に学習を進めて下さい。

英語音声の特徴を2つに大別した上で学習を進めましょう。ひとつは分節的特徴で、母音や子音と呼ばれる個々の音を対象とします。もうひとつは、超分節的特徴（プロソディ）で、音の連続、強勢アクセント、イントネーション、話しことばにおける発音の変化を対象とします。テキストでは、日本語音声の解説が随所にありますから、身近なところから観察を始めて、英語音声の理解に結び付けて下さい。

話しことばとしての英語の様々な特徴を学ぶことは、英語の発音習慣を身につけるという側面もあります。テキストに付属するCDを利用して、実際の音声を必ず確認し、様々な発音練習と聴き取りの問題に取り組んで下さい。CDをじっと聞いているだけでは、英語音声を体験することはできません。皆さん自身がモデル・スピーカーの発音を再現することを目標に、ひとつひとつ注意深く観察しながら、大きな声で発音練習をしてみましょう。また、「テキストの音声表記と実際の音声との対応」や「スペリングと音声との対応」についても理解を深めて下さい。

皆さん自身の英語発音を注意深く観察してみましょう。例えば、次のような事柄について考えてみて下さい。日常的に使われている外来語は、英語ではどのように発音するのでしょうか。英語らしいリズムやイントネーションには、どのような特徴があるのでしょうか。「しっかり／ハッキリと発音している」などの印象は、音声学・音韻論の観点から、どのように特徴づけることができるのでしょうか。皆さん自身の英語発音をじっくり内省・観察して、何らかの感想を持ち、それを音声学の言葉で表現（説明）することは、音声学の学習にとっても、英語音声を自覚的に運用するためにも大切です。

参考文献はテキスト末に解説付きで紹介されています。ここではそこに紹介されていない文献を挙げます。

【国際音声学協会ホームページ】 <https://www.internationalphoneticassociation.org/>
【英語発音辞典】

Roach, Peter, James Hartman, and Jane Setter. (eds.) (2011) *English Pronouncing Dictionary*. 18th Edition. Cambridge: Cambridge University Press. (CD付)

Wells, John. (2008) *Longman Pronunciation Dictionary*. 3rd Edition. Essex: Pearson Education Limited. (CD付)

N30700 英語学概説

田中 竹史

1. はじめに

地球上に存在すると推計されている約874万種の生物種のうち、ヒト（ヒト科ヒト属）は唯一ことばを使用することが可能な生物種であり、ことばはヒトという存在を際立って特徴づけています。たとえ進化の隣人であるチンパンジー（ヒト科パン属）のように、学習能力が高く様々な点でヒトに比肩し得る一のみならずある側面においては凌駕するような一認知能力を持つ生物種でも、音声言語であれ手話言語であれ言語を身につけることはできませんし、どんなに優れた人工知能であっても自然言語を理解することはできません。

指定教材の安藤・澤田（2001：1）でも触れられているように、言語学・英語学は、認知科学の一分野として、生物学、医学、心理学、文化人類学、コンピュータ科学、など他の様々な研究分野と密接に関わり合いながら、古くからの疑問である「なぜヒトのみがことばを持てるのか」という問い合わせに解答を与え、同時に人間の性質—「人間はどんな存在であるのか」—を真に理解することを目指しています。ヒトのことばは“a mirror of mind”であり、“a window into human nature”であり，“a vehicle for examining the way we are”であるのです。

2. 問題について

科目修得試験の英語学概説では、どのような英語学の入門書でも必ず中心的に扱われているような、ことばという他の生物種には見られない特殊な知識体系に内在する基本的な性質の理解程度が問われます。したがって、特定の研究者の分析の詳細や、ある構文の微妙な意味差や文法的振る舞いあるいは語法の説明、といった細かい知識よりも言語学・英語学の分野で一般的に広く受け入れられている諸概念や分析手順に対する理解を重視したものとなります。当然のことながら、高等学校までは一般的であるような「どこかに記載されている正解を暗記する」ということに重点を置いた学習では実りのある成果は望めません。

出題形式は、主として用語説明と論述から構成されています。用語の説明は、指定教材の太字部分が主な対象となります。解答に際しては対応する言語事実・具体例を挙げ説明すること、つまり、性質に対する記述と対応する事実の提示、が必要ですから十分に内容を理解しなければなりません。論述問題も用語説明と同様、指定教材で扱われている内容が主な題材となります。英語学においては、「なぜそのような言語現象が存在するのか」、「なぜそのようであってそれ以外ではないのか」、「そこにはどのような仕組みが働いているのか」、などを考えることが重要です。したがって、問題の解答においても、言語事実に対してなぜそのようであってそれ以外ではないのかを説明(explain)しようとすることが求められます。単に英語を理解しているというだけでは満足に解答できず、ことばの分析で必要となる諸概念を理解しある程度使いこなせるようになっていかなければなりません。

学習の基本は指定教材（主として4章から10章の音声学・音韻論、形態論、統語論、意味論、語

用論、情報構造、日英語の比較)を活用することですが、各々の必要に応じ関連する文献・資料を参考するなど積極的な姿勢で学習を進めることができます。特に下記に示すような文献はより良い理解の一助となることでしょう。

- 安藤貞雄(2005)『現代英文法講義』開拓社
 北川善久・上山あゆみ(2004)『生成文法の考え方』研究社
 松沢哲郎(2011)『想像するちから チンパンジーが教えてくれた人間の心』岩波書店
 中島平三(2011)『ファンダメンタル英語学 改訂版』ひつじ書房
 中島平三(2005)『言語の事典』朝倉書店
 中村捷・金子義明・菊池朗(2001)『生成文法の新展開』研究社
 西光義弘(1999)『日英語対照による英語学概論 増補版』くろしお出版
 大津由紀雄(2004)『探検! ことばの世界』ひつじ書房
 大津由紀雄(2008)『ことばに魅せられて 対話編』ひつじ書房
 湯川秀樹(1974/2014)『宇宙と人間 七つのなぞ』筑摩書房 / 河出書房新社

3. おわりに

湯川秀樹は1974年の著書『宇宙と人間 七つのなぞ』の中で、人間にとて不思議であり答えを出すことがとりわけ難しく、それゆえ取り組む価値のある問題を「なぞ」と呼び、「宇宙のなぞ」、「素粒子のなぞ」、「生命のなぞ」、「数と図形のなぞ」、「知覚のなぞ」、「感情のなぞ」、などと共に「ことばのなぞ」としてヒトのことばを取り上げています。したがって、ことばの分析方法や英語の分析方法を理解することは、一見したところの簡単さとは異なり、素粒子物理学の考え方、分子生物学の考え方、数学の考え方などを理解するのと同様そう簡単なことではありませんし、初学者にとっては馴染みがなく親近感が持てないかもしれません。しかし、ヒトの脳の機能の一つであり他の生物種には見られない特殊な知識体系であることばに内在する性質を英語という個別言語を通じて探ろうとする研究分野の入り口に立ち、ことばの分析方法を身につけることにより、私達は古代から続くなぞを解く鍵を手にし“final answer”に向け一歩を踏み出すことができます。

N30900 スピーチコミュニケーション I

アレックス ブラウン

“Effective Communication I” is a task-oriented program that will take you through a number of real-life situations that you may encounter on a daily basis.

The situations you will encounter such as “meeting people” and “going shopping” take place in scenes that can easily be imagined. Therefore, it helps to have a good imagination so as to visualize yourself in each scene as you actively work through the text. Enjoy the journey as you develop your skills along the way.

1 ~ 44

It is important to take your time and not rush through the book. Before engaging in active communication, it is important to meet and engage effectively; even when simply saying “hello”. Be sure to have a good command of this section before moving on.

45 ~ 93

After you successfully meet and engage in communication you will then visit a foreign country. It is important to have a solid understanding of each part in this section before you embark on your journey.

Testing

The test is related to the sections in your text. I will be looking to see that you have a good, sound understanding of the book.

Dictionaries, especially an English to English dictionary, will prove to be helpful as well as a vivid imagination.

N31000 スピーチコミュニケーション II

アレックス ブラウン

“Effective Communication II” is designed to improve your understanding of communicating in English. The text is made up of helpful fill-in sections that are designed to assist you with putting words and phrases together in order to express yourself effectively. It is important that you take the time to break down the parts in each unit and work through them fully before moving on to larger conversations.

1 ~ 49

You will be introduced to tasks in “requesting assistance” before moving on to experiencing ways to “control people’s” speech. Be sure to have a good grasp of this section before moving on to the next.

50～109

In this, the second part of the text, you will work through “asking and giving opinions” “comparing things” and “using numerals”. This section is a little more challenging than the previous section. Do take your time.

Testing

The test is related to the sections in your text. I will be looking to see that you have a good, sound understanding of the book.

Dictionaries, especially an English to English dictionary, will prove to be helpful as well as a vivid imagination.

N31200 英米文学特殊講義

北原 安治

テキストの要点をメモしながら熟読することがまず大切です。テキスト各編に付された「学習指導書」の手引きで言及される事項、問題点等を検討することが、次に大切な点です。また何よりも大切なのは、各編で取り上げられる作家・作品に自らが直接接し、編著者の解釈視座を理解した上で、自らの作品解釈ができるようにしておくことです。テキストの中で引用される原文もしっかりと読めるようにしておいてください。

N31200 英米文学特殊講義

角田 裕子

まず、テキストの要点をメモしながら熟読することが大切である。次に各テキストの「学習指導書」で言及される問題点の検討が必要になる。そして、各編で取り上げられる作家・作品について、編著者の解釈を理解した上で、自らの作品解釈ができるようにしておくべきである。また、原文の引用を読めるようにすることも重要となる。

なお、科目修得試験の受験条件であるリポート作成に全力で取り組むべきである。

N31200 英米文学特殊講義

當麻 一太郎

テキストで扱っている作品を読み、テキストが伝えようとしていることを把握することです。テキストの「学習指導書」および本文を何度も読んでください。さらに、原文の引用は、作品批評の上で重要な意味をもつので、撞着語法やコントラスト、直喻や比喩などのレトリックを含め片言隻語まで軽視しないように努める必要があります。

なお、リポートのために示された参考文献も読み、科目修得試験の受験条件であるリポート作成は全力で取り組むように心掛けてください。

N31300 放送英語

石黒 恭代

テレビでもラジオでも、毎日、放送英語ニュースを聴取し、世界各地で発生していることに大いに関心をもつよう心掛けることが大切である。放送英語の特徴の理論については、テキストの1～25ページに news script writing に関するを中心、また137～154ページには news announcing の技術に関する事項がそれぞれ解説してある。

テキストにあるニュースは up-to-date なものではないが基本となる放送文体を学習するために選ばれたものであり、反復学習によって基本文体に慣れていただきたい。また、試験の際には、英語ニュースを日本語の放送ニュース文体で訳出することが求められるので日本語の口語表現にも日頃から注意して研究することが大切である。さらに日常生活の中で BBC, ABC, CNNなどにより、できる限り up-to-date な英語ニュースに接するよう努めることが肝要である。巻末の学習指導書 GUIDANCE FOR BROADCAST も活用して研究していただきたい。

N31400 新聞英語

桑山 啓子

新聞記事とはニュースを迅速かつ正確に、また簡潔かつ具体的に伝えるため、独特の文体、語法や構成をとっている。したがって、多用される分詞構文・無視される時制の一致というような個性的な英文を通して、記事の概要を的確に捉える訓練をしておくことが望ましい。パラグラフは、情報の重要度の高いものから、重要度の低いものへと展開する逆ピラミッド構造をとる。無論、全ての要素が含まれない場合もあるが、Leadの部分に5W1Hが含まれるのが基本である。英字新聞を読み始めるにあたっては、まず Headline と Lead のみに目を通して記事の概略を把握する練習を積むとよいであろう。また、Headline は、記事内容全般を網羅的に把握でき、かつ短くて効果的そしてインパクトのある表現にするため、省略のルール・時制のルールや特有の語彙といった様々な工夫がなされている。これらの予備知

識をふまえ、報道ジャーナリストになったつもりで、「如何に読者の興味を喚起するHeadlineをつけるか」「読者の関心を引き寄せるためにはどのようなストーリーを展開させるべきか」を吟味することが重要である。このような視点から日常的に多くの記事に触れる訓練を重ねることで試験に備えてもらいたい。記事の構成要素やHeadlineの特徴に関しては、特にテキスト巻末の「学習指導書」を熟読することが不可欠な学習となろう。尚、当然のことであるが、科目修得試験の受験条件であるリポート作成は全力で取り組むよう心掛けるべきである。

[参考文献]

- 『英字新聞がよく使う表現』森浩二（1998年 創元社）
- 『英字新聞の読み方』村田聖明（1982年 ジャパンタイムズ）
- 『英字新聞を読む』清水義次（1999年 丸善ライブラリー）

N31500 英米事情 I**北原 安治**

科目修得試験では、教科書で取り上げられている内容についての理解が問われます。教科書ではアメリカ合衆国を時代によって区分し、その時代の特徴を論じています。教科書を熟読し、それぞれの章を中心に取り扱われている内容や重要と思われる部分などについて、しっかりとまとめておくと良いでしょう。

N31600 英米事情 II**野村 宗央**

試験では、教科書から英文和訳や内容に関する問題を出題します。従って、教科書の全ての章を読み込んでおくこと（Part1-3の本文の精読だけでなくNotesにも目を通すこと、Reading Comprehension等は問題を解いておくこと）は、試験を受ける上で必須となります。そして、教科書に記載のある固有名詞（人名や出来事）は、英和辞書で調べるだけではなく、自主的に他の文献を用いて調べ、知識として身に付けておくことが大事です。また、それぞれの章を読んで、自身がどのような印象を抱いたのかをまとめておくと良いでしょう。

N31700 異文化間コミュニケーション概論**岡田 善明**

テキストをすべて読み内容を学んで下さい。特に各章の内容ごとに日本と北米の文化の違いに留意し日本人としての異文化間コミュニケーションの際に必要な内容を意識的に学んでおく。また各章のExercisesに答えておくことが大切です。この試験ではこのテキストの内容をどれだけ理解し学び覚えたかが試されます。ですので一般的な事で答えるても点に結びつかない事もあります。

P20100 哲学基礎講読**石井 友人**

教科書所収のアルノー、ニコル共著『論理学、別名思考の技法』において、論理学は、どのような学問であるとされているのでしょうか？「前文」で著者たちは論理学を「理性をよく導くための技法」であると定義しています。彼らの言う論理学は、論理規則のみに関わるものではなく、思考するとはどのような事であるのか、過ちはなぜ生じるのか、どうすればそこから抜け出せるのかについて、観念、言葉、人間の有り様、理性と信仰との関係、学的知識と蓋然的知識との区別などに着目しながら、考察を重ねていくものです。大部の著作があるので、いきなり全体を通して読むのは大変かもしれません。その時には、デカルトからの影響あるいは差異が明らかな第一部「観念について」および第四部「方法について」に、まず目を通してみて下さい。デカルトとの関係を意識し、キーワードを取り出しながら読んでいけば、『論理学』の特色が明らかになってくると思われます。付されている訳者の解説が手引きとなるでしょう。『論理学』は、多様な要素を含み、それ故、多様な方向からの理解が可能な著作です。各所が、どのような文脈や問題意識から書かれているのかを考えながら、読解を進めてみて下さい。デカルトの影響下に書かれた著作なので『精神指導の規則』や『方法序説』『省察』を傍らにおいて読むことで、いっそう理解が深まると思われます。

P20200 西洋思想史 I**嘉吉 純夫**

いわゆるデータだけを丸暗記しても哲学や思想を理解したことにはなりません。試験で問われるのは、思想史の流れに即して、そこに登場する哲学・思想のそれぞれをどれだけ深く理解したか、さらには、それらの哲学・思想に対して、あなた自身が何を考え、どのような見解や見識を得るにいたったのか、なのです。そのためには、できる限り自ら実地に各々の哲学者・思想家の著作や資料にあたって考究するという姿勢が肝要です（原典を原語で読むのは不可能だとしても、今は良質な翻訳が次々と刊行されており、そのうちの重要なものは各社文庫・新書に収められています）。配本テキストの記述・解説は、

言わば旅行の際に携える地図やガイドブックにあたるものであって、自力で踏査することなしには、すなわち「哲学者や思想家の著作を読んで彼らといっしょに考える」という体験なしには、ほんとうの意味で旅したことにはならないのです。大切なのは、配本テキストの記述を読んで、個々の哲学者・思想家の問題意識や内的世界（世界観、人生観、価値観等）に対する探求心をもつことなのです。

P20300 東洋思想史 I**本間 直人**

まず、テキスト全体を概観し、書かれている内容を把握し、次に、テキストの精読へと進んで下さい。その際、留意すべきは、常に問題意識を持ちながら、各思想家の学説を考えていくということです。それぞれの思想の背景にあるものを探るという視点を持つことも、その一例と言えます。

参考文献として、テキストの著者の『老荘の思想を読む』を読むことにより、老荘思想についての理解度が深まり、更には、中国思想全般への興味・関心が高まることがでしょう。

P30100 宗教学基礎講読**小林 紀由**

テキストは諸宗教がその歴史的展開の中で、変容をとげてきた様をつづっています。宗教といえども、不变なものではないし、歴史の流れと無縁で民族などの集団に固有なものなわけでもありません。私たちが現代世界に見るいまの宗教の姿と、現代の社会状況に適合してあります。

リポート課題がキリスト教と日本の宗教の近現代における変化を理解することに置かれているのも、そのような宗教の歴史的変遷の姿を、とりわけいま私たちが見るものがどのように生まれてきたのかを理解して欲しいと思ったからです。

テキストを諸宗教の歴史的変遷を記すものとの視点に注意して学んでください。とりわけ、私たちがいま目にする、近現代の姿に注目して学んでいただきたいと思います。

P30200 倫理学基礎講読**関谷 雄磨**

なによりもまず、指定テキストの三作品をじっくり読んで下さい。そして、テキストの流れに沿って対話の筋道をしっかりと把握してください。「書き手」であるプラトンは、これらの作品において一体どのような問題をわれわれに投げかけ、どのようなことを主張しようとしているのでしょうか。まずはそれを把握することが大切です。その際、この科目的「学習指導書」に挙げられている諸論点に留意しながら読み進めると、議論の流れを理解しやすいでしょう。

また、最も重要なことは、それぞれの議論を自分自身の価値観・人生観に照らしてじっくりと考えてみることです。作中の主張に賛成できるのであれば、どのような点が賛成できるのか。納得できないのであれば、どのような点がどういう理由で納得できないのか。そういうことを自分自身でよく考え、それぞれの主張に対して自分なりの評価を与えられるようにしておくとよいでしょう。

なお、この科目は試験時の持ち込みは一切不可で、また出題範囲も示されないので、上記の事柄についてあらかじめよく考えておかなければ試験で解答することはできません。その点に注意して下さい。

P30300 哲学概論**笠松 幸一**

『哲学概論』のアドバイスを以下の四箇条にまとめて述べる。

- (A) まず近代哲学（デカルト、カント）における主觀主義（主觀の側から考えること）を理解すること。次に政治（フランス革命）と経済（フィジオクラット）に見出される自由の展開に着目すること。
- (B) ディルタイの以下の言説を充分に理解すること。「生は合理以上のものである」「思惟（思考）は生の一機能にすぎない」（第四章・六、ハイデッガーと存在論、を参照されたい）。以上を踏まえてハイデッガーの「現存在」を把握すること（第六章・二、マルチン・ハイデッガー、も参照されたい）。
- (C) フォイエルバッハの思弁哲学および神学に対する批判は、とくに「依属の感情」とともに「神とは人間自身の本質である」に着目し理解すること。
- (D) プラグマティズムの真理論を行動（実行性）との関係において理解すること。

P30400 宗教学概論**合田 秀行**

宗教学は19世紀に生まれた比較的新しい学問ですが、一応の体系をもっています。テキストは宗教学の全体像を代表的な体系だけにしたがって概説したものですが、宗教学概論はこの体系の全体に対する広い知識を修得し、以後の宗教学の学習に備えるためのものですから、学習にあたっても各部分の全体とのつながりを意識して学んでください。

宗教学は特定宗教の研究と無縁ではありませんが、特定宗教の深い理解を目指すというよりは、類としての宗教、言いかえれば宗教一般の理解を目指す学問です。テキストでも個別の宗教に関する事例は

当然記述されていますが、それでも仏教、キリスト教などと分けて記されているわけではありません。まずはテキストのはじめの部分（「宗教学の立場と分野」）から宗教学という学問の成立、特徴をよく理解してください。その上で、宗教一般に共通する諸要素、たとえば宗教思想の特徴とか、儀礼の類型とかといった課題が扱われますので、特定の宗教の個性を学ぼうとする姿勢ではなく、宗教一般を学ぶのだという意識をもって読んでください。

分厚いテキストではありませんが、全体を理解するのは大変な努力を要するものと思います。それでも、科目的目的を達成するには全体をまんべんなく学ぶほかにありません。繰り返し読んでみてください。

なお、下記の書籍はテキストとほぼ同様の体系に従って記されており、テキストのよりよい理解の助けになるとと思います。文庫で入手しやすいものですのでお勧めします。

脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫）1997。

P30500 倫理学概論

嘉吉 純夫

読解に骨の折れる難解なテキストですが、「渋滞」にめげることなく、挫折を恐れず、各章・各節ごと、とにかく最後まで読み進めてください。その際大切なのは、叙述されている事柄や問題について、自分自身の体験や想像力を言わば総動員して自ら思索をめぐらせ、自分自身の生き方や倫理の問題として把握しておくことです。試験では必ずそこが問われます。

P30600 西洋思想史 II

瀧田 寧

テキストを手に取ったら、まず目次を開いてみましょう。本テキストに登場する哲学者たちの名前が、次々に目に飛び込んできます。さて、それぞれの哲学者は、どのような個性の持ち主なのでしょうか。哲学の長い歴史の中に、現在に至るまで名前を留めている以上、各哲学者には何か哲学史的意義があるはずです。「いったいこの哲学者は、なぜ哲学史に名を留めているのだろうか」一まずはこのような問題意識を持って、本テキストを読み進めてはいかがでしょうか。そして、「これはぜひとも本人の言葉を知りたい！」と思ったら、すぐに原典（翻訳書でも可）に触れてみて下さい。そうすれば、哲学者の言葉がさらに身近に感じられ、そこで提起されている問題を自分なりに考えてみたくなるのではないかでしょうか。

哲学的思索は、こうして原典と対話あるいは格闘していくことを通じて成立するように思います。

P30700 東洋思想史 II

本間 直人

まず、テキスト全体を概観し、書かれている内容を把握し、次に、テキストの精読へと進んで下さい。その際、留意すべきは、常に問題意識を持ちながら、各思想家の学説を考えていくということです。それぞれの思想の背景にあるものを探るという視点を持つことも、その一例と言えます。

そのためにも、易哲学、老荘思想について十分に理解した上で、竹林の七賢や何晏・王弼の思想等について考える必要があります。テキストの【学習指導書及び参考文献】も一読し、『東洋思想史 I』、又テキストの著者の『老荘の思想を読む』等も座右に置きながら、学習を進めて下さい。

P30800 日本思想史 I

島田 健太郎

テキストの各章で扱われている論争を学習する際に、特に気をつけてほしいのは、以下の三点です。

- ① 論争の争点は何か。
- ② それぞれの立場の思想的相違はどこにあるか。
- ③ その論争が、どのような思想的影響を与えたか。

これらの要点を確認しながら、ノートにまとめていくとよいでしょう。

また、テキストに引用されている文献には、現代語訳が付いていないので、特に大事と思われる引用文などは、辞書などを参考にして、現代語訳を「書いて」おくようにすると、より上記の三点が見えやすくなります。

試験の際には、単なるテキストの要約では解答になりません。十分に考えて自己の論点が設定され、それが自分の言葉で述べられているかどうかが評価の基準となるので注意して下さい。

P31000 哲学特殊講義

石井 友人

教材所収のアルノー著『真なる観念と偽なる観念』は、哲学史上の有名な論争であるアルノー＝マルブランシュ論争の先駆けとなった重要な著作です。同著で批判されるのは、アルノーが、マルブランシュによる恩寵論の要諦と見なした、マルブランシュの、私たちは「全ての事物を神のうちに見る」というテーマであり、テーゼを支える、観念についての特異な学説です。

同書の読解にあたっては、両名による観念の定義の違い、マルブランシュによる観念の定義の変遷とその問題点、上記テーゼから彼が引き出した諸帰結（神／物体／自己／他我の認識に関するもの）への各批判点に注目して下さい。また、観念、知覚、表象的存在、叡知的延長、特殊的と一般的、思念的と形相的といったキーワードを、一つひとつ確認しながら読み進めてみて下さい。哲学書では言葉の定義というのは非常に重要なものです。一見似たような言葉であっても、使い分けられている以上、理由があるはずです。

とはいっても、はじめてテキストを読む際に受ける印象は、煩瑣で、同じ議論が繰り返されているというものではないかと思います。まずは、諸章をブロック分けしていくってみて下さい。その際、最初は、細かい論点は置いておき、大きな枠組みをつかむことに集中してみてください。そうすることで、論点が整理され、単純化が可能になってくるはずです。

その上で、今度は、全体を通して、なぜアルノーが、マルブランシュの観念についてのテーゼを問題にしているのかを考えてみて下さい。アルノーは、『論理学、別名思考の技法』（本通信教育部、哲学基礎講読教材）「第四部第一章」において、学的認識の成立条件と限界を考察しています。そこでは、恩寵などの神の権能に関わる学説は、人間には理解も検証もできない領域についてのものであり、厳しく制限されるべきであるとされています。こうした学問観が、マルブランシュとの論争にどのような影響を与えていたのかを考えながら、『眞なる観念と偽なる観念』の諸章を読んでいけば、テキストにも立体感が与えられてくるはずです（第一章で、彼は議論を進めるための諸規則をまとめています）。常に、何が論争のポイントであるのか、そして、何故それが争点になるのかを意識しながら、テキストを読解してみて下さい。

尚、マルブランシュの『真理の探究』の当該部分の翻訳（「観念の本性について」）が、山田弘明『真理の形而上学』（世界思想社）に収められているので参照してみて下さい。

P31300 科学哲学**江川 晃**

科学哲学は、人間の認識活動の全体を研究の対象としています。まずははじめは、哲学史的な観点からどのようにして科学哲学にたどり着いたかを考えます。次に、現実の認識はどのようなシステムから成り立つかということについて思索します。さらに認識の機構について現代科学的な観点から深く考察していきます。科学とともに生きる我々にとって、現代科学の精密な認識を哲学的に思索することは、科学に支配されるのではなく、むしろ科学を使いこなす英知を磨くことにより、人類の未来を開く糧になると思います。

教材は各章ごとに述べられている具体的なテーマがあります。このテーマがどのようにして展開して述べられているかを理解してください。テーマの結論は各章末に要約されていますので、必ず理解しておくようにしてください。

Q20100 日本史入門**八馬 朱代**

本科目の目的は、自身の研究テーマをどのようにして発見し、それをさらに歴史研究へといかに高めていくかの方法を学ぶ事にあります。

教材は、5章・15本文の文章で構成されており、それぞれに内容を異にするが、共通する点は、各文章が全て「身近な体験」から始まり、それをいかに「歴史研究」へと発展させるかを論じている点にあります。

本科目受講生は、教材に収められた文章一編一編の内容を読む中で、常に、自身のテーマは何か、いかに研究するかを考えつつ学習を進めてもらいたい。

教材をよく読み、本科目のリポート課題、教材要綱にも必ず目を通し、教材中の不明語句や記述内容については読み飛ばさず、必ず辞書などを引いてその意味を確認しておく事。また、各文章の文末、欄外に紹介されている文献もあるべく参照して、学習することが望ましい。

Q20300 西洋史入門**藤井 信行**

テキストは全6章ですが、それぞれの章でひとつのテーマを、つまり全部で6つのテーマを取り上げています。それが何か？ということを理解すれば、テキストを読んで理解することは6つだけということです。6つのうち4つがリポートの課題です。従って、とにかくテキストをよく読むことです。科目修得試験はその延長線上にあります。

Q30100 史学概論**鍋本 由徳**

印刷教材をみてわかる通り、この教材は非常に古いテキストです。なぜこの教材が今も使われているのか。それは、歴史学を修める上で、今でも大切にされていることが記述されているからです。歴史学

を修める者は誰でも、この内容を理解し、身につけていくのです。

表現が難しく、旧漢字や旧仮名遣いに疲労感を覚えるでしょう。歴史学の世界は、現在使われている言葉を使うとは限らず、むしろ、旧漢字、歴史的仮名遣いが一般的です（戦後まで旧漢字は日常的に使われる）。古い文体に慣れるため、このテキストを諦めずに読み進める姿勢が必要です。

歴史学は、200年程度の歴史しか持っていないません。人文あるいは社会科学としての歴史学がドイツで生まれ、当時の手紙や記録をひもときながら、「歴史」を語っていくために、「史料」をどう扱うのか。歴史学とはどのような学問であるのかを学んでください。そこには日本・東洋・西洋の区別はありません。

手紙や記録について「実際に利用できるか否か」を考えますが、その方法は今も昔も、根本的には変わっていません。史学概論は、卒業論文を除けば、史学専攻専門科目唯一の必修科目です。

趣味の歴史を、学問としての歴史学へと発展させるために、少しずつでも読み進めてください。何度も読み返すこと、次は何をすべきかが段々とわかっていきます。そして、「なら、21世紀の歴史学とは？」という大きな課題を知ることになるでしょう。

Q30200 日本史概説／K32200 日本史概論

鍋本 由徳

印刷教材の特徴は、年代・事項の羅列ではなく、「研究成果」を活かした内容になっている点です。教材を読み進めると、あっさりと記述が終わる箇所が随所に見られますが、辞典や参考文献を使い「より深く学ぶこと」で不足分を補いながら理解していきます。

注意することは、「いつ、誰が、どこで、何をしたか」を並べることが「歴史の流れである」と勘違いすることです。「なぜそうなるのか」「当時の時代背景はどのようなものか」「そのできごとのあと、どうなったか」に意識を向けることで、日本史全体を知る「概説／概論」の本質が見えてきます。

「歴史」ですから、前提として、人物やできごとを知っておく必要があります。しかし、その人物の生い立ちや、できごとの辞書的な説明では「歴史」になりません。人物の場合は「その時代のなかでの位置付け」を考え、出来事の場合は「原因→経過→結果→意義」の動きを考えることが大切です。

印刷教材の内容が難しく、基礎力を定着させるために高校教科書を読むことは恥ずかしいことではありません。しかし、それは「日本史概説／概論」を学ぶ準備に過ぎず、学修のスタートラインに立っただけです。さらに一步前へ進んで、『日本の歴史』のシリーズを読んでみたり、専門の辞書『角川新版日本史辞典』(角川書店)・『日本史歴史大事典』(小学館)〔これらの辞書は電子辞書に入っていることもある〕で丁寧に意味を調べながら、教材の理解に努めてください。

史学専攻生であれば、卒業論文のテーマを意識することができますし、他専攻や他学部、特に教職をめざしている人は、「歴史の流れ」とは何かを考えるきっかけになるでしょう。くれぐれも「いつ、誰が、どこで、何をした」といったことや、出来事の内容だけを細かく調べるだけにとどまらないようにしてください。

Q30300 東洋史概説／K32300 東洋史概論

斎藤 史範

中国史の大まかな流れをつかみ、キーとなる出来事の意味について、その後の歴史にいかに影響を及ぼしたかを学修することが必要です。

前近代史では、中華文明の成立から清朝末期までを、王朝の変遷をたどりながら、皇帝支配の成立とその推移、国家や社会の変容するところの意味を明確にするとよいでしょう。

近現代史では、アヘン戦争から人民共和国の成立、改革開放時代について、どのような歴史的な展開があったのかを、歴史の流れのなかに明確に位置づけるとよいでしょう。

Q30400 西洋史概説／K32400 西洋史概論

坂口 明

歴史の学習では、大きな歴史の流れをつかみ、そのなかで鍵となるような出来事がどのような意味を持ったかを、しっかりと理解することが必要です。

科目修得試験では、いくつかの事項を説明する、というかたちで出題しますが、限られた量のなかで、その事項の内容、それがもった意味などをいかに的確に記述できているかを基準に採点します。教科書の丸暗記ということではなく、ポイントをつかむ学習が効果的だと思います。

Q30800 日本史特講 I

楠家 重敏

テキストの第二編、近代の「学習指導書」をよく読み、日本と世界との関わりについて、その形成や変遷なども含めて調べてみること。

各種の『日本の歴史』シリーズや新書などの概説書を読み、通史的理解を深めるだけでなく、研究書（学術書）を読み、研究の方法や到達点を学ぶことが大切である。

Q30800 日本史特講 I**関屋 雄一**

テキストの熟読を大前提とする。テキスト中には「学習指導書」が各章ごとにあり、掲載されている各論文の意図が示されている。それを読みこんだ上で本章を精読してもらいたい。参考文献の示し方、論述の方法などを、会得するためでもある。得た知識を、いかに「根拠」立てて、自説と他人の説を区別しつつ、論述していくかを留意すべきである。

Q30800 日本史特講 I**中村 順昭**

テキストの第一編「古代」の第1章、第2章および「学習指導書」(p.75～p.82)をよく読み、日本の律令による諸制度について、その形成や変遷なども理解を深めておくこと。

各種の『日本の歴史』シリーズや新書などの概説書だけでなく、関心を持つ問題、テーマに関して研究書（学術書）を少なくとも1冊読み、研究の方法や到達点を学ぶことが大切である。

Q30800 日本史特講 I**横山 則孝**

第三編近世の学習指導書（287～288頁）でのべられている内容や、そこで紹介されている参考文献もあわせてみることをおすすめしたい。さらに興味が増すことであろう。

Q30900 日本史特講 II**鍋本 由徳**

本科目は、大きくわけて「概説」と「各説」との2つの部分によって構成されています。印刷教材で学修を進める時、これらを独立して勉強するだけでは効果は十分に発揮されなくなります。

近世は身分制社会です。武士のあり方、農民のあり方、職人のあり方、商人のあり方を知ることは、近世全体を知る上でとても重要な要素です。「概説」では、身分制社会と石高制社会、米経済から貨幣経済という大きなうねりのなかで、人々の生活が変化していく姿をしっかりと学修してください。全体の流れを知ることが大切です。

「概説」で近世全体の流れを学修したら、次は特定の時期で起こるできごとや政策を学びます。近世の約300年間における政治・社会・経済・文化の変化や、時期ごとの特徴を把握しましょう。

教材は飛ばし読みをして理解できるものではありません。報告課題に真剣に取り組み、印刷教材を徹底的に読み込むと同時に、可能な限り近年の概説書を参照しながら学修することをお薦めします。

印刷教材では歴史資料（史料）が引用されています。教材の内容を確実に理解するために、史料の読み解を通して理解できるようにするとよいでしょう。

分からぬ用語は専門性の高い辞典（『国史大辞典』など）によって調べ、用語だけの暗記で終わらせないように学修することが大切です。

Q31000 東洋史特講 I**加藤 直人**

最初から本文に入ると難しいので「解説」を熟読してください。そして、清代の「起居注」制度の展開、また19世紀後半の大興安嶺地区に暮らす人々の状況について基本的な事項を理解しましょう。そして本文に入り、①清代「起居注」の成立、展開、そして衰退について、②19世紀後半の大興安嶺地区に暮らすブトハ、オロチョン等の人々の状況、ならびに当時の清朝とロシアとの関係について、重要な点をノートに整理するようにしましょう。難しい漢字や聞き慣れない用語は、辞書等で確認しておくことが必要です。ローマ字部分は満洲語ですので、和訳を参照ください。

Q31000 東洋史特講 I**須江 隆**

まず、テキスト『東洋史特講 I』第一編の解説部分を繰り返し熟読し、本論の理解に必要な基礎的知識を学習してください。その上で、つぎに、第一編の本論に当たる第一章と第二章を読んで、それらの内容をふまえつつ、宋代中国の社会像を「唐宋変革」と「両宋変革」という二つの視点から具体的に把握できるようにしておいてください。また、第二章で焦点を当てた、北宋時代を生きた朱長文という知識人に着目する意義や、その生涯や生き方、彼が生きた時代や社会の特色への理解を深めておいて下さい。なお、中国史上の宋という時代や社会の特色への理解をより深めるためには、テキスト第一編の解説部分で言及した参考文献にも目を通しておくことが必要です。

Q31000 東洋史特講 I**高綱 博文**

はじめにテキスト『東洋史特講 I』の「第四編『租界都市』上海」の解説を読み、租界を中心とした

近代上海の概要を捉えてください。次に第四編の第一章及び第二章を読んでから、それぞれの章の要点を整理しておいてください。第一章は、日中戦争期における「上海租界問題」を論じているが、日本側の対応に<国際派>と<強硬派>の二線路あったことを明らかにしている。第二章では日本占領下の「国際都市」上海における外国人居留民の実態を検討している。

Q31000 東洋史特講 I**松重 充浩**

第三編では、まず「解説」を精読して、戦後日本における張作霖・張学良研究が、如何なる展開を経て、如何なる成果と課題を生み出したかを理解し、第一章と第二章の論文が、如何なる研究状況の中で作成されたのかを確認しておくことが大切です。続く第一章では、張作霖奉天省地方政府による吉林省征圧(同地方政府の言わば「空間的拡大」)の背景と、その歴史的意義が地域社会の側から検討されています。また第二章では、張作霖奉天省地方政府が現地での金融恐慌を自らの現地支配浸透の契機として利用していく経緯(同地方政府の言わば「垂直的浸透」)が検討されています。両章共に、張作霖奉天省地方政府の発展が、単なる「軍閥的野心」の発露ではなく、結果として現地の金融・財政的問題解決に向けての方向性を包含していたことが確認されており、1980年代以前に主流だった張作霖地方政権をいわゆる「軍閥」的範疇(=中国近代史発展の阻害要因)とする研究を批判的に継承・発展させる成果となっています。なお、両章註記に示されている通り、近代中国東北地域史研究においては、いわゆる「満鉄史料」や「日本外務省記録」をはじめとした日本側史料も重要な史料として利用できることにも留意しておきたい点です。

Q31100 東洋史特講 II**高綱 博文**

はじめにテキスト『東洋史特講 II』の序章を読み、本テキストの課題を明確に把握することが大切です。次に第一章から第六章まで学修し、孫文の「大アジア主義」を彼の対外戦略の一環として捉えた上で、1924年の「大アジア主義」講演の歴史的背景、その解釈の歴史的変遷を十分に理解しておいてください。

Q31200 西洋史特講 I**坂口 明**

特講では、かなり専門的なテーマが扱われており、学術論文に近い書き方がされています。テーマの設定、史料の扱い方、論旨の組み立て方など、皆さんが将来卒業論文を書く際の参考になると思います。暗記することではなく、そういう点をしっかりと読み取って下さい。もちろん、試験の際には、重要な事項を頭に入れておくことが必要となります。

Q31200 西洋史特講 I**藤井 信行**

レポートの課題は、テキストを全部読まなければ解答できない課題です。従って、とにかくテキストを読むことが重要です。レポートの課題は、3つのポイントから出来ています。それについて、指定された字数でまとめて下さい。安易に他の概説書に頼らずに、しっかりとテキストを読んで下さい。科目修得試験は、その延長線上にあります。

Q31700 古文書学**渡邊 浩史**

テキストの佐藤進一著『古文書学入門』を熟読し、近代的な古文書学とはいかかる学問であるかを学習する事。また、特に公式様文書・公家様文書・武家様文書の各文書様式と機能をきちんと理解しておこう事。

R20100 経済原論／L20200 経済学原論**藤本 訓利**

経済学は、労働力も含め天然資源などの希少な諸資源をいかに効率的に配分するかを研究する学問であるといえますが、現実には、家計や企業などの経済主体の行動や、そこから起こるさまざまな経済現象などを対象として分析する学問です。そして、経済学の研究は多岐にわたり、理論の分野、政策の分野、歴史の分野に分けられます。

「経済原論」(R20100)あるいは「経済学原論」(L20200)は、経済学の理論の分野を分析対象としています。「経済原論」・「経済学原論」は、さらにミクロ経済学の分野とマクロ経済学の分野に分けられます。この理論分析では多くの図表や数式を用いますが、単に図や式を暗記するのではなく、この図や式がどのような意味を持ち、またそれが現実の経済にどう対応しているかを理解することが必要です。そのためにはテキストや参考書を丁寧に読み、一つ一つ理論を積み重ねていくことを心がけてください。理論の修得には近道はありません。基礎からしっかりと学習していくことが肝要です。ミクロ経済学お

よりマクロ経済学に関する参考書は数多く出版されていますので、それらを積極的に活用して欲しいと思います。

ミクロ経済学の分析では、家計は限られた予算（所得）で財やサービスの購入をどのように組み合わせれば満足度が最大になるか、また企業は一定の費用のもとでどのように生産をすれば最大の利潤が得られるか、などを自分の身近な観点で考察してみてください。そして市場における価格や取引量の決定やその変動、また社会的厚生についても、実際の経済に即して考察すれば理解が深まるでしょう。

マクロ経済学の分析では、国内総生産（GDP）がどの水準で決定されるか、貨幣市場はどのように均衡するのか、財市場の均衡（IS曲線）と貨幣市場の均衡（LM曲線）はどのように同時に均衡するか、あるいは政府が行う財政政策や、中央銀行が行う金融政策がどのような効果をもたらすか、など現実のわが国の経済状況と関連づけて考察すればより興味深いものになるでしょう。

R20200 経済史総論

飯島 正義

通信のテキストには、一部難しい表現が使われていたり、また専門用語も現在と若干異なる表現（訳語）が使われていたりするところがありますので、テキストは繰り返し熟読して下さい。テキストの内容は、原始・古代から近代まで扱われていますので、各時代をきちんと整理しながら歴史の大きな流れをつかむことが大切です。各時代を理解するにあたっては、世界史の知識を必要とする場合があります。高校の教科書や参考書、世界史辞典、これまでにシリーズで出版された「世界の歴史」など自分のレベルにあつた書籍を利用して知識を深めて下さい。

高校時代に世界史を学習していない方は、これを機会にまずテキストの各時代をきちんと整理・理解することから始め、それを積み重ねて下さい。理解しづらいところが出てくるかと思いますが、あまり細かいところにこだわらずに大筋をしっかりつかむようにして下さい。

R20300 経済学概論

関谷 喜三郎

経済学概論では、ミクロ経済学の基本的な体系を理解することが必要です。まず、消費者行動の理論を理解することが重要です。ここでは、財の消費によって得られる効用についての理解をベースにして、無差別曲線と予算線を用いて効用最大化を説明できるようにすることが大切です。これが右下がり需要曲線の導出に繋がります。

次に、完全競争市場における企業の利潤最大化行動をみていきます。ここでは、収入と費用の差としての利潤最大化を理解します。この場合、完全競争の条件のもとでは企業にとって価格が所与になることに注意する必要があります。また、費用について、総費用、平均費用、限界費用の概念を理解しておくことが重要です。ここから供給曲線が導出できます。

需要曲線と供給曲線が導出できると、そこから均衡価格の決定と均衡の安定条件が得られます。これについては、フルラスとマーシャルの両面からの理解が必要です。さらに、消費者余剰と生産者余剰を用いて資源の最適配分が説明できます。

次に、市場の競争が不完全な場合の生産量と価格の決定についてみていきます。市場が1社の企業からなる独占企業に関して、そこにおける利潤最大化条件を確認し、それを図によって表示できるようにしておくことが必要です。寡占市場における屈折需要曲線の理論についての理解も重要です。

さらに、市場における現実的な問題の一つとして、市場の失敗のケースを考察しておく必要があります。ここでは、代表的なものとして公共財と外部不経済について理解をすることが重要です。

R30100 経済学史／L31300 経済学説史

塚本 隆夫

「経済学の歴史」という視点からみれば、「経済学」は、それぞれの時代に社会が抱える経済問題に対し、経済学者がいかに対応したかという知的な闘いの歴史ともいえましょう。経済学者が提唱したさまざまな学説と、その時代の社会・経済問題との間に、深い関係が見られます。それゆえに、経済理論の精緻化と洗練化の過程は、その「副産物」であった、とも言えます。

15・16世紀からの市場経済体制の形成と展開にともない、国富増強策として「重商主義」が提示されます。例えばイギリスではT.マンによって「貿易差額説」が提唱されました。しかしこの学説は「流通過程」の分析に留まりました。一方フランスでは、重商主義政策は国民経済の疲弊を引き起こしました。これに対処すべく、F.ケネーらによって重農主義が提唱され、「経済循環」が究明されました。重農主義者たちによって「生産過程」が注目されました。

18世紀の第4四半期から始まるイギリス産業革命期に、A.スミス、T.R.マルサス、D.リカードらのいわゆる古典派経済学者たちは、資本主義経済の運動法則を解明しようとしていました。古典派経済学者たちの手によって資本主義の運動メカニズムが次第に解明されていきました。

しかし各国の間で経済の発展に格差が存在する場合、政府による何らかの介入が必要である、とドイツのF.リストらは主張しました。産業革命による急激な経済成長が引き起こした問題は、古典派経済学

者たちが言うような「自由放任」では解決されないことが判明してきました。それどころか K. マルクスは、「資本主義には本質的に矛盾が存在する」ことを明らかにしました。

一方、主流派経済学にも、1870年代に「限界革命」が起こり、古典派の労働価値論から主観的な効用理論へと転換し、一般均衡論への模索が進められました。そして1930年代の不況に対応すべく「ケインズ革命」が引き起こされました。

「経済学の歴史」を勉強すれば、このように17世紀から20世紀へと、経済学者は時代の問題と知的格闘戦を繰り広げてきていることが見て取れます。21世紀の現在でも、この戦いは進められています。この「知的格闘戦の歴史の積み重ね」が、「経済学の歴史」です。

「経済学の歴史」から学ぶべきもう一つのモノは、「同じ現象についても異なる解釈が成り立つ」という教訓です。それぞれの学派が主張する学説に優劣がある訳ではありません。それが異なる次元にたって、経済社会をみているのです。これが同時に異なる経済学説が提唱されるゆえんです。

こうした経済学の歴史の流れを把握したうえで、テキストを研究しましょう。これまで高校や大学で学習した世界史の知識が、「経済学の歴史」を理解するのに役立ちます。そして「経済史」をはじめ、「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」で得た学習成果は、過去の経済学者たちが唱えた学説や思想の理解を助けます。

R30300 値格理論

有馬 守康

経済学は、暗記をして習得できる科目ではありません。論理を1つ1つ丁寧に積み重ねて理解していくことが肝要です。どのような教材でも良いですから、練習問題などを行って、理解度をチェックしながら学習することを強く薦めます。

価格理論（ミクロ経済学）のポイントは、家計や企業が、個々のインセンティブ（誘因）に従って行動すると、その結果として社会は最も望ましい状態になる点を理解することです。のために、専門用語や図等を正しく理解することに努めてください。実際に、様々な図を描いてみると理解が深まります。完全競争市場では家計や企業の行動、最適資源配分について、不完全競争市場では独占や寡占行動について理解を深めてください。また市場が最適資源配分を達成できない「市場の失敗」もミクロ経済学での重要なテーマです。

科目修得試験は、第一、第二分冊を通して出題されます。家計（消費者）行動、企業（生産者）行動および市場メカニズムによる資源配分の効率配分の効率性が価格理論（ミクロ経済学）の中心テーマですから、この論点を章末の練習問題を自力で解くなどしっかり理解してください。

R30500 日本経済史

岸田 真

本科目の採点においては、①設問の趣旨を理解し、それに適合した解答となっているか、②設問に対し具体的かつ論理的な説明がなされているか、③単なる教科書や参考文献の丸写しではなく、その内容を理解した上で答案を作成しているか、を中心に評価する。

持ち込み条件は【全可】であるが、その分、解答の「質と量」が問われることとなる。自宅学習においては、指定教材の内容理解はもちろんのこと、下記に示した参考文献も活用してほしい。自分で学習ノートを作成し、それを試験に持ち込むという方法も有効であろう。

近年の科目修得試験では、解答欄の片面に満たない答案が多いが、受験する学生は十分な準備をした上で試験に臨むようにしてほしい。

【参考文献】

- ・杉山伸也『日本経済史 近世 - 近代』岩波書店、2012年。
- ・石井里枝・橋口勝利編著『日本経済史』ミネルヴァ書房、2017年。
- ・中西聰編『日本経済の歴史 列島経済史入門』名古屋大学出版会、2013年。
- ・三和良一『概説日本経済史 第3版』東京大学出版会、2012年。
- ・三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧 増訂版』東京大学出版会、2010年。

R30600 西洋経済史

上村 能弘

学習を進めるに当たり、先行研究を批判的に摂取することは、もちろん重要である。しかし、ここでさしあたり学修したいのは『経済史』であって、「経済史学の歴史」ではないので、学修上の一番の力点は、あくまでも史実の検証・確認と、それがもつ経済史的意義の考究においてはよい。

R30700 経済政策総論／L31500 経済政策

周藤 利一

経済政策は、政府という政策主体が経済、特に市場に対して介入することです。

日本を含む世界の大半の国は、市場に基づいて経済が成り立つ「市場経済体制」を採用しています。

それは、市場メカニズムは経済全体で見たときに、大きなメリットがあるからです。それを前提とした上で、政府が介入するのは、市場にはデメリットもあるからです。

したがって、経済政策を理解する上での第一歩は、「市場メカニズムのメリット」と「市場の失敗」を理解することです。

そして、どのような問題に対して、どのような経済政策が求められるのか、経済政策の目的と必要性、内容と効果について各分野ごとに学んでいきましょう。

特に、最近の重要な課題については、学習指導書で説明しているので、合わせて学習してください。

教科書以外の参考文献としては、毎年7月下旬に公表される「年次経済財政報告」(いわゆる「経済財政白書」)があり、内閣府のHPからダウンロードすることができます。このほか、各省庁の白書があります。また、教科書の各章末に参考文献が掲げてあるので、関心のある方は参照してください。

R30900 工業経済論

草原 光明

工業経済論の学習の目標は、工業の発展の要因とその発展の形態・特徴を理解することの二点にあります。テキストの各章、各節の記述はこの目標を理解できるようになっていますので、各々の標題になるように本文をノートにまとめてみることです。特に各章、各節の冒頭の文章は要約したものになっています。

テキストは分量が多く、学習上、困難な様に思われるかもしれません、それは説明を詳しくした為と、事例を挙げた為に多くなったものですからこのことを理解して学習してください。

なお、特殊な学術用語が出てきますので、次の事典を参照して学習することがベストですが、まずは、テキストそのものを読み直すことをお勧めします。

伊東光晴編『現代岩波経済学事典』(岩波書店) (6,000円)

R31000 日本経済論

飯島 正義

まずテキストを繰り返し熟読して、これまでの日本経済のポイントについて理解を深めて下さい。テキストが刊行された年以降の最新事柄や統計については、他の著作や「経済財政白書」などの白書類、新聞の経済記事、「東洋経済」や「エコノミスト」などの週刊誌などを利用して下さい。白書や経済統計などは、各官庁のホームページでも見ることができます。また、日本経済について理解を深めていくにあたって経済学の基礎理論をしっかりと学習しておくことも重要です。さらに、著作などを読む場合にわからない用語が出てきたときにはその都度「経済辞典」などで確認するようにして下さい。日本経済について理解を深めるには日頃から経済情報に关心を持ち、積み重ねていくことが大切です。

R31100 国際経済論

南 雅一郎

まず、ゴチックで記してある用語の意味を明確に理解しながらテキストを熟読して欲しい。第1章については世界経済の発展と構造変化について歴史的にまとめたものであるが、それぞれの時代の特徴をきちんと把握し、整理しておくことが重要である。第2章は貿易の理論と政策について解説したものであるが、それぞれの考え方についてグラフの見方も含めて理解し、まとめておこう。第3章は国際経済に関するマクロ経済的なアプローチを試みたものであるが、国際収支表の見方、国際収支の動向、財政・金融政策の経済効果についてしっかりと学習しよう。必要があればマクロ経済学を復習して見るのも良いかもしれない。第4章は様々な外国為替制度と国際金融システムに関するものであるが、それぞれの制度の特徴を整理しておく必要があろう。

又、各章の最後に参考文献が挙げられているので、適時自分に合ったものを選んで学習を深めて欲しい。

R31400 経済開発論

陸 亦群

本講座は、歴史、理論、政策の3つの観点から経済開発問題について体系的に学んでいこうとするものである。まず、歴史の部分では、途上国を巡る開発問題がこれまでどのように扱われ、その扱われ方がどのように変わってきたのかについて理解することをねらいとしている。歴史を学ばずして現在のことを理解することは難しく、また、将来を見通すことも出来ない。関連分野の文献も併せて活用するのが望ましい。

理論について学ぶ際には、経済学の基礎理論をしっかりと理解しておくことが必要である。経済学概論で勉強したいいろいろな経済法則や専門用語などが曖昧な場合には、もう一度復習をしておいてもらいたい。また、国際貿易の発生のメカニズムなど国際経済論の基礎理論について理解しておくことが経済開発の理論を学ぶ上で有利である。理論の部分では、学説史についても学ぶ。その際には、単に様々な理論を漫然と理解するのではなく、歴史的な流れと共に、学説がどのように変遷していったのかという点にも注意すればさらに理解が深まるといえる。

政策については、個々の問題について多面的に考えることを心掛けてもらいたい。テキストでは、6つの政策について論じているが、それらは個々の政策問題であると同時に相互に関連している。途上国が抱える個々の政策課題は、途上国経済全体の中に位置づけて捉えることが必要であり、個々の政策課題にのみ注目し、それ以外の事象との相互関連を無視することは問題の解決に至らないばかりか、途上国経済全体に悪影響を及ぼしかねない可能性があることについて学んでももらいたい。

経済開発論は途上国経済に関わる開発問題を扱う学問であるが、経済学のみならず、政治や社会、文化、歴史など幅広い視野から捉えるように努めてもらいたい。そのためには、テキストだけにとどまらず、関連分野を含む幅広い文献から知識を得ることが望ましいといえる。この講座は、あくまでも皆さんに発展途上国を巡る開発問題に关心を持ってもらうための序論的存在である。これを機会にさらに途上国問題への关心を深めてもらいたい。

R31500 財政学総論／L31400 財政学

中川 雅之

まず第1章で財政の機能についての原則を把握して下さい。

その上で、第2章、第3章で日本財政の現状と制度の仕組みを理解するようにして下さい。現状については、数字を覚えるのではなく全体の傾向を定性的につかむようにして下さい。また必要に応じて財務省のホームページなどで最新の傾向について補足的に把握するようにして下さい。

第4章では政府支出をめぐるいくつかの理論が紹介されています。なぜ政府が財政活動をしなければならないか、政府の活動を効率化する工夫にはどのようなものがあるかを理解して下さい。

第7章、第9章では公債、財政の安定化機能などの現在の悪化した財政状況を理解する上で重要な事項が解説されています。公債の負担論、乗数効果などの理論を深めるようにして下さい。

第5章と第6章は税を扱っています。第5章で解説されている理論を理解し、第6章で解説されている租税毎の特色を応用的に学ぶようにして下さい。

第8章では現在の日本にとって最も重要な課題といつてもいい社会保障について解説されています。制度の解説が主となっていますが、なぜそのような制度が存在するかを理解するようにして下さい。

第10章と第11章は地方分権という問題意識をもって、国と地方公共団体の財政関係に着目して学習をして下さい。

R31600 地方財政論

沼尾 波子

テキストの各章を読み始める前に、まず別冊の学修指導書に目を通し、各章における学修のポイントを把握しましょう。その上で、テキストを読み進め、それぞれのポイントについて整理をおこなうとスマートな学修ができます。

地方自治体は、私たちの暮らしに密接にかかわる様々なサービスを提供していますが、その中には、全国共通のルールにしたがって提供されるサービスもあれば、自治体独自の判断で提供されるサービスもあります。地方自治体は、国が定めたルールに基づいて一定の役割を果たすと同時に、自らの判断で住民サービスの提供を行っているところもあります。したがって、地方財政制度を学ぶ際には、国と地方の行財政関係に着目し、自治体の歳出・歳入構造とそれを取り巻く行財政制度について学ぶことが大切です。また、今日の自治体が抱える行財政課題や、地方分権改革の動向、諸外国と比べた日本の地方行財政制度の特徴などについて、併せて把握しておくことが大切です。

R31700 租税論

楠谷 清

1. 租税は、国、地方公共団体の経済活動である財政の収入面を支える主要な財源である。したがって、租税は、租税制度の経済的側面を研究する「財政学」や、また、制度の法的側面を研究する「税法学」や租税会計に関する諸問題の体系的研究を目的とする「税務会計学」などの分野からも考察される。
2. 「租税論」は、一般に「租税総論」と「租税各論」から構成される。「租税総論」では、租税全般に関する原則や事柄について解説されている。教材（高木勝一編著 新版『租税論』八千代出版）の第1章は「租税総論」に相当する。

「租税各論」では、それぞれの税目、たとえば、「所得税」「法人税」「消費税」など、種々な税についての制度の仕組み・効果（主に経済的效果）・作用（主に経済的作用）などが解説されている。教材の第2章から第13章がこれに相当する。なお、「租税各論」の部分では、主要国の租税制度の解説や日本と主要国との租税制度の比較検討もなされている。

R31800 金融論

谷川 孝美

金融とは、資金（オカネ）を必要としている経済主体（個人、企業、政府など）が、その資金を調達することであり、資金に余裕がある経済主体がその資金を運用することです。具体的な例として、貨幣（オ

力ネ）の貸し借りがあります。金融論は、この金融に関連する事柄を取り扱うため範囲が広いのですが、教材では次のように大きく分けています。

第1部では、金融の基礎として、貨幣やその貨幣の貸借に関する金利について解説しています。また、金融において重要である情報の非対称性問題、金融政策の影響を考えるための基礎理論を取り扱っています。

第2部では、実際の金融取引について日本の金融制度を中心に論じています。金融取引がおこなわれている場である金融市場、金融取引において大きな役割を果たしている金融機関、さらには、その金融制度を維持、発展させている中央銀行としての日本銀行について書かれています。

第1部、第2部のどちらから読み始めても良いのですが、基礎から順に読み進めていく方がより理解が深まると思います。また、学修の際には、教材の「学習の手引き」にある「学習のポイント」を参考に、専門用語、定義などをよく確認し、正確に理解することが大切です。

R31900 貨幣経済論

藤本 訓利

まずは、教材『貨幣経済論』(R31900)の「学習指導書」を熟読し、各章での学習ポイントを把握しよう。貨幣経済論は、今日、マクロ経済学の一部として位置づけられているので、貨幣とマクロ経済の関係（教材の第Ⅱ部）について論じられることが多い。

だからと言って、貨幣の本質について議論しないわけにはいかない。まず、貨幣がどのように定義されるか、またそのとき、貨幣がどのような機能を果たしているかを理解しよう。とくに近年、電子マネーが普及しているので、それとの違いなどを考えることも必要でしょう。次に、貨幣経済論の主要なテーマである、貨幣とマクロ経済の関係について考えてみよう。今日、貨幣供給量（あるいは通貨供給量—ただし、わが国の場合、現在、「マネーストック」と言われている—）の変化が、産出量や雇用量や物価水準にどのようなメカニズムでどのような影響を及ぼすかということについて理解しなければなりません。そこでまず、通貨（あるいはマネーストック）の概念やその供給メカニズム、さらに金融政策について理解しましょう。貨幣の「供給」について学習した上で、貨幣の「需要」（主にケインズの流動性選好説）に関する理論もしっかりと理解しましょう。とくにここでの学習が、後に登場するケインズ理論（『一般理論』体系）の理解に役立つはずです。

教材の第Ⅱ部の範囲では、マクロ経済理論が貨幣の視点から説明されています。学説的には、フィッシャーの貨幣数量説に代表されるような古典派の貨幣理論（貨幣ヴェール観あるいは貨幣の中立性）や、ケインズ『一般理論』で展開された理論（貨幣の非中立性）や、『一般理論』の一般化としてのIS-LM分析、反ケインズ理論としてのマネタリズムが詳細に説明されています。これらの理論は、マクロ経済学の主要な理論でもあるのでしっかり学習しましょう。なかでも『一般理論』における国民所得の決定理論や投資乗数理論や利子率の決定理論（流動性選好説）、さらにはIS-LM分析における財政金融政策の効果は重要な理論です。これらの学習を通して、とりわけ、ケインズ体系における貨幣のトランスマッショング・メカニズムと古典派理論の違いについて理解を深めることが重要です。

ところで、ここまで理論では物価の変化が明示的に取り扱われていませんでした。そこで最後に、物価の変化を導入した理論である、総需要・総供給分析を学習し物価水準が決定されるメカニズムや、物価と失業との関係（フィリップス曲線）を理解しなければなりません。これらの理論を学習することによって、デフレ、インフレ、失業といった諸問題について何らかの基礎的知識が得られるでしょう。

R32000 経済統計学

川崎 茂

経済統計学は、経済学と統計学の融合により、経済を統計的・定量的に把握・分析する学問分野です。学習する上では、統計理論・手法を学ぶとともに、統計を通じて経済の実態を学ぶという姿勢が大切です。経済は生き物であり、常に変化するものですが、その動向の中には何らかの法則性があります。統計学を通じてそのような法則性を見出し、そうして得た知見を実社会に役立てていくことが必要です。

テキストは、序章を含め全部で15章から構成されています。序章から第4章までは統計の基本的な作成方法・手法について解説し、第5章以降では、ミクロ経済の視点の統計からマクロ経済の視点の統計まで幅広く解説しており、これを学習することによって、経済統計に関する幅広い知識が得られます。

学習の際には数式などにしばしば接しますが、その場合、数式を記憶するよりも、その意味を理解するよう努めてください。また、様々な統計の作成方法・分析方法を学んだら、公的機関がインターネット上に公表している実際のデータにそれを適用して、現実の経済を理解するように努めてください。そうすることによって、知識を実際に応用することができるようになります。

なお、経済統計の手法や仕組みは、近年、大きく変化しつつあり、テキストの内容には若干古くなっている部分もあります。例えば、巻末の「統計法」については、ぜひ最新のものもインターネットで確認してください。また、第11章「国民経済計算」についても、日本のGDP統計は、2008年に国連で採択された国際基準に基づくように改められているので、テキストの学習に加えて、統計作成の機関の公表する資料や新聞、インターネット等で新しい情報を把握し、最新の実情を学んでください。

教科書以外にも、次の書籍やサイトが学習に役立つので推薦します。

「統計学基礎」(東京図書) 今泉忠、田村義保、中西寛子、美添泰人著

「データサイエンス・オンライン講座『社会人のためのデータサイエンス入門』」

総務省統計局 <http://gacco.org/stat-japan/>

「統計法について」総務省政策統括官

http://www.soumu.go.jp/toukei_toukatsu/index/seido/1-1n.htm

「国民経済計算とは」内閣府経済社会総合研究所

<http://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/contents/sna.html>

「国際収支状況」財務省

http://www.mof.go.jp/international_policy/reference/balance_of_payments/index.htm

R32100 社会政策論／L31600 社会政策

齋藤 有里

社会政策が取り扱う分野は労働・人口変動、生活保障など多岐にわたります。現代に至るまでに、社会政策では、さまざまな社会問題を解決・改善するため、新たな制度の創設や改正を繰り返しおこなってきました。しか一方で、社会政策が十分に機能しているかというと、不十分な点も多くあり、さらには政策自体が逆に問題を大きくしている場合もあります。教科書はこのような各種制度の創設の歴史から現在に至るまでの流れや社会政策の理論などの概要などがつかめるように構成されています。

学習する際には、各章で取り上げられているトピックスについて、①どのような問題に対して、②どんな政策が打ち出されたのか、③現在の制度はどのような状況か、という点を中心に自分なりに要点を整理してください。他の章とも関わりがある項目もありますので、内容の関連性も重要なポイントです。さらに近年では制度改正も相次いでいることから、最新の情報などにも留意してください。そのため、他の資料や文献などから得られる知識もあわせてまとめておくことを推奨します。

R32200 労働経済論

木暮 雅夫

今年度は、『よくわかる社会政策（第2版）』（ミネルヴァ書房）をテキストとし、その労働経済論に関する部分を中心に学習を進めてください。具体的には、①賃金格差問題、②時間外労働問題、③非正規雇用問題、④高齢者雇用問題、⑤同一価値労働同一賃金の各問題領域について学習してください。そして、それぞれの問題領域の中で、キーワードが示す特徴（または問題状況）は何か、なぜ解決されず残っているのか、どのようにすれば解決への道が開けるのかを考えしてください。そのうえでテキスト以外の関連文献も読んで、想定問題を考え、その回答案を準備するようにしてください。

それぞれの問題領域の中で、関連する主なキーワードをすべて把握することが重要です。そしてそれらの用語を正確に使用または関連付けられるようになることが重要です。問題領域によっては、用語の正確な定義が重要になることもあります。また、具体的な問題領域ばかりですので、統計的な現状把握も必要になる場合もありますが、統計数値を覚える必要はありません。大小の違い、高低差、傾向など、基本的な認識を支える大掴みの実態を誤りなく把握していることが重要です。

R32300 情報概論

久東 義典

科目修得試験では、全体的な知識を問われますので、教科書全体をよく読み、教科書の見出しから練習問題とその解答を作ると、試験準備がしやすいでしょう。教科書の目次のページを開いてください。「1 コンピュータの基礎」から「24 アルゴリズム」までの章の中にキーワードがたくさんあります。例えば、「24. 4 ヒューマンインターフェースの設計」というタイトルから、『ヒューマンインターフェースの設計について説明しなさい』という問題文を作り、教科書で該当する部分から解答を作文して学習する方法を推奨します。

さらに、この分野は、日常利用しているパソコンがどのような仕組みで動いているのかに疑問を持つことや、新聞やテレビ等などで目にする情報技術について関心を持つことで、より理解が深まります。また、教科書の中だけの勉強ではなく、現代を生きる身近な技術について知識をし、試験解答にあたっては、それらをできるだけ詳細に記述するように心がけてください。

S20100 商学総論

松本 竜一

テキストの冒頭部分である「序」を読むことで、本書がどのような問題意識で展開されているかを理解してください。

本書は、まず商業の概念とは何か、ということについて、その規定を試みていきます。そして、商品の社会的流通現象について考察していきます。以上のことを踏まえながら各章のテーマについて理解していくことが重要です。また、テキストのテーマに即しながら、社会の変化に目を向けていくことも必

要です。商品、流通に関わるビジネスは技術の進展や消費者の動向、それらを包括した時代の流れに大きな影響を受けます。すでに確立している商業の概念を十分に理解しながら、現代社会を捉えていくことを試みてください。

以下のテキストに示されているキーワードについても、注意を払いながら検討してください。

主な商業学説。商業の研究対象。マーケティングについて。自給自足経済、交換経済、市場経済の成立と発展について。百貨店の意味、特性、課題、展望。商品の概念や分類について。広告やパブリシティの意義と機能。卸売業の概念。小売業とは何か。小売引力の法則やハフ・モデルなど、小売業の商圈設定の方法について。通信販売、訪問販売、自動販売機などの無店舗販売について。チェーンストアの意味や特性。チェーンストアの形態について。ショッピング・センターや商店街などの商業集積について。

注や注に示されている文献も活用してください。

S20200 経営学

松本 芳男

経営学のテキストを丹念に読み経営に関する基礎的知識を身につけることが重要であることは当然であるが、それに劣らず重要なのが新聞や経済誌などを通じて現在の企業社会の現状や課題などについて正確な認識を持つことである。ビジネスにおいて高い成果をあげるためにには、テキストなどを通じて習得すべき理論的知識と、経済や企業社会の現状に関する正確な事実認識のいずれも不可欠である。企業社会において生じている現実について正確な認識を持つことは有効な行動を導くための前提であるが、その意味、すなわち何故そうなっているのかを理解するためには理論的知識が不可欠である。さらに付け加えれば、理論的知識を活用して、現実に直面している問題や課題を有効に解決するためには、理論的知識を現実の問題解決に適用する知恵が必要になる。現実世界に関する正確な事実認識と、そのような現象の背後にある論理を理解するための理論的知識、さらには理論を現実の問題解決に活用できる知恵が備わって、初めて有効な行動が導かれるのである。

科目修得試験において求められるのは、テキストを通じて、経営現象を深く理解するための理論的知識であるが、常に現実の企業経営の実態を正確に認識しておくことも重要である。経営学の基本的な分野は、企業論、経営戦略論、経営組織論、経営管理論などであるが、いわゆるヒト、モノ、カネなどの経営資源を扱う人的資源管理、生産管理、財務管理や、製品・サービスの開発・販売・流通に関わるマーケティングなどの企業経営職能の各論的分野の知識や企業経営上の現代的課題についての学習も不可欠である。テキストの第1部、第2部の両分野について満遍なく学習する必要がある。

S20300 簿記論 I

村井 秀樹

1. 教材の概要

テキストは、12章から構成されています。第1編は、簿記の基礎理論を中心としてまとめられています。章のタイトルを見ますと、第1章簿記の概要、第2章複式簿記の構造、第3章複式簿記一巡の手続き、第4章商品です。第2編では、具体的な簿記上の会計処理についてであり、第5章現金・預金、第6章売掛金と買掛金、第7章有価証券、第8章手形、第9章固定資産、第10章伝票、第11章決算、第12章財務諸表の作成です。各章のはじめに、「ポイント」を付けており、また本文中の重要用語は太字にしています。

2. 学習計画のポイント

- (1) まず第1編のポイントは、簿記理論の概要をしっかりと把握することです。取引を借方・貸方に仕訳し、精算表を作成するという技術的なことも大切ですが、その根拠となった考え方を学ぶことがより重要です。したがって、簿記の種類、複式簿記の特徴、簿記上の取引、複式簿記の構造、決算の意味・内容等を十分理解することが大事です。
- (2) 第2編のポイントは、第1編の簿記理論の概要を踏まえた上で、具体的かつより複雑な取引についてその簿記上の処理方法を学習することです。ここでは、実際に数多くの仕訳問題を解く必要があります。具体的な取引としては、現金取引、当座預金取引、未収金等のその他の債権・債務取引、有価証券取引、手形手引、固定資産取引、伝票制度等です。これらに関わる仕訳を正確に理解した上で、決算整理の必要性を認識し、精算表の作成へと進みます。

3. 学習上の留意点

簿記の習得には、問題を数多く解く必要があります。本テキストは、練習問題を適宜設けており、受講生がテキストに直接書き込めるようにしております。しかし、日商簿記検定試験3級に合格するためには、本テキストの例題や練習問題だけでは、やや不足していると思います。必ず、自分自身のレベルにあった市販の練習問題集を購入して、より多くの問題を解いて下さい。まずは、日商簿記検定試験3級にトライし、興味を覚えれば、2級、1級、税理士、公認会計士等の資格試験にチャレンジしていただきたいと思います。

S30300 商 品 学**見目 洋子**

商品学では、現代の経済・産業・消費社会における商品やサービスの意義と特性について学習する。われわれは、商品を利用してどのように便利な生活を実現しているのだろうか。商品は、どのような市場競争を経て登場し、消費者の関心を捉え、商品の魅力や機能を発揮しているのだろうか。また、新たに、商品や消費活動に関する今日的な課題や消費問題、トラブルが発生していないだろうか。学習者は、現代商品の商品としての特性や課題を理解するために、国の商品に関わる法律や諸制度による商品化政策、企業のビジネス活動、消費者のライフスタイルやニーズ等々、それぞれの側面から、多様な考察をして欲しい。

S30400 貿 易 論**飯野 文**

現在の世界貿易がどのような貿易ルールに基づいて規律され、秩序づけられているのかを歴史的経緯も併せて理解することがポイントである。具体的には、第1章では、世界貿易の動向とWTO（世界貿易機関）の成立経緯と現状、第2章では、WTOの仕組みと貿易政策の諸手段を理解してほしい。第3～6章で論じる貿易ルールについては、各章で解説する個別ルールについて学習を深めると同時に、個別ルールを全体像に位置付けて把握することが望ましい。第7章では地域経済統合の基本的概念、WTOの基本原則との関係をしっかりと把握してほしい。第8章では貿易・投資紛争の仕組みと両者の相違を理解することが求められる。

解答する際には、誤字・脱字がなく、また題意に応える形で論旨を明確に記述すること。

S30400 貿 易 論**松原 聖**

教科書の内容を特定の章・分野に偏りなく理解することが、科目修得試験学習のために最も重要です。そのためには漫然と教科書を読むのではなく、「学習指導書」を特に以下の2点において参考にして下さい。

(1) 各章の内容や特に重要なポイントを理解する

学習指導書で取り上げられているキーワードに常に注意を払いながら教科書を読むとよいでしょう。

(2) 練習問題をすべて解く

解答例は付いていませんが、教科書の内容が理解できていれば答えを導けるはずです。自分の理解度を確認するためにも、練習問題を有効活用して下さい。

S30500 マーケティング**松本 竜一**

消費者ニーズの多様化に伴い、さまざまな商品・サービスがあふれ、移り変わっていく社会の中で、ビジネスを成功に導くためには、単に商品を売るということではなく、顧客との良い関係性を構築し維持していくことが必要な視点になってきます。そのためには、マーケティングへの理解を深めていくことが求められます。

上記のような現状をイメージしながら、テキストの各章に設定されたテーマについて理解し、それらを総合的に把握していく事が重要です。各章のテーマの理解を深めるために、それぞれに設けられている「学習のポイント」を読み、その点を意識しながら学習してください。また、テキストに示されているキーワードについても注意を払いながら、本文を読み進めてください。

「学習のポイント」と合わせて、以下の諸点についても参考にし、検討してください。

マーケティングとは何か。マーケティング・ミックスの構成要素である、プロダクト、プライス、プレイス、プロモーションとは何か。製品ライフ・サイクルの各期の特徴。市場細分化戦略について。望ましい行動変革を支援するためのアプローチを開発するソーシャル・マーケティングについて。サービスのマーケティングについて。マーケティングにおいて消費者行動を分析する意義。消費者がどのような要素に影響を受けるのかについて。マーケティングをとりまくさまざまな環境について。市場や競合他社を理解し、顧客に価値を提供するための新製品開発プロセスについて。顧客価値の創造と獲得のキーポイントである価格政策の意義について。価格決定の方式。再販売価格維持政策について。販売経路政策の意義。ターゲット市場、市場ポジション、マーケティング・ミックスに基づいて設定された広告の意義や特性について。販売員活動の意義や管理について。消費者に対するプロモーションについて。小売店において、商品を販売するための重要なアプローチ方法である陳列の基本的考え方。陳列の構成方法。

注に記されている文献も理解を深めるために活用してください。

S30600 保険総論**岡田 太**

指定教材（テキスト）をキーワードに注意しながら精読してください。難しいと感じる場合は易しい参考書などで補うよといでしょ。保険への関心を持つと学習意欲が高まります。保険を紹介する新聞記事や雑誌などをチェック、分類し保管してください。以下、テキストの学習ポイントを記します。

1. 第1編第2章の保険制度の意義については、テキストのほかに参考書を読むことで理解が深まります。
2. 第2編第1章および第2章の保険商品の概要については、最新の商品内容を理解するよう補ってください。
3. 第2編第3章の社会保険については、近年の動向を知るために、厚生労働白書をぜひ読んでください（厚生労働省のホームページにあります）。
4. 第2編第4章の保険企業の経営については、マーケティングを重点的に最新事情も学習してください。

S30700 交通論**山上 徹**

テキストの各章の内容を理解し、交通・観光に関する新聞等の情報についても興味を持ち読み、下記のような学習上のポイントを整理し、勉学に励んで下さい。

第一編 交通サービスの特徴と物流活動

- ①交通の語源と交通サービスの特性を理解すること
- ②交通ターミナルの役割と機能を理解すること
- ③流通活動における物流費とは何かを理解すること
- ④物流システムの目的と重要性を理解すること

第二編 国際航空の特徴と観光行動

- ⑤国際航空における交通需要の形態を理解すること
- ⑥観光の語源やどのような観光資源があるかを理解すること
- ⑦訪日外国人観光客の現状と問題について理解すること
- ⑧国際航空市場の自由化と空港間競争を理解すること

S30800 証券市場論**佐藤 猛**

証券市場論は広範囲なので、どのように学習したらよいか難しい科目です。以下は証券市場の重要なテーマですので、テキストと参考書でしっかりとノートにまとめておきましょう。問題は3問です（I - IIIから各1問）。また持ち込み可で【行数】は目安です。

（指定テキスト：『証券市場論』日本大学通信教育部）

（推薦参考書：佐藤猛著『証券理論の新体系』H28. 税務経理協会）

I 証券理論の公式【3行】

- ・ゴードン・モデル ・ROE, PER, PBR ・資本コスト（=期待投資収益率）（MM理論）
- ・債権の利回り ・2銘柄のポートフォリオのリスクとリターン ・CAPM（資本資産価格モデル）
- ・先物取引の損益 ・オプション取引の損益

II 論述問題【10 - 15行】

- ・証券市場の機能と役割 ・証券会社の機能と役割 ・資金調達の推移
- ・効率的市場について（情報と投資家の合理性） ・公開企業システム
- ・証券のファクターマルズ（株式と社債） ・行動ファイナンス ・デリバティブ取引

III 経済状況と株式市場【5行】（各自あらかじめ調べておいてください）

- ・証券市場のガバナンス（コーポレートガバナンス・コードと日本版スチュワードシップ・コード）
- ・昨年（2017年），日経平均が上昇した理由 ・なぜ東芝は窮地に陥ったか。そしてその対応策は？
- ・ESG投資とは何か ・証券市場の5頭のクジラ

S30900 広告論（新教材及び旧教材）**雨宮 史卓**

マーケティング戦略の主要な要素である広告・プロモーションに対する研究の重要性が高まっています。TVを見ない日はあっても広告を見ない日はないといつても過言でなくくらい、広告は我々の生活に深く浸透しています。しかしそれは、時代のトレンドとして広告が話題になるという単純なことを意味している訳ではありません。広告は常に人々の欲求や願望と共に変化しているのです。

広告の根幹は企業と消費者を結ぶコミュニケーション活動ですから、広告を学ぶことの基本は、様々な人々の生活や感覚の変化、ギャップをしっかりと知ることにあります。まして個性化や国際化が進み、人々の視線がグローバルになって来ている今、新たに出会う人の暮らしぶりは私達の想像を超えるもの

かもしれません。このように暮らしや生活者の価値観が多様化する中で、広告・プロモーションの研究も幅広く、高度になってきています。マーケティングの一要素にとどまらず、今や製品開発や町おこし等を含め、かなり多岐にわたります。

上述の事を踏まえて、まずテキストの新教材は「序にかえて」、旧教材は「序論」を熟読し、広告を学ぶことの意義・目的を理解してください。次にテキスト全体に目を通し、章と章との関連性や節ごとの関連を意識しながら読んでください。自分の興味のない章があったとしても、決して読み飛ばすことなくテキスト全体の流れを理解できるように心がけてください。広告論では、様々な専門用語が使われています。個人差はありますが、初めて見る用語や理解し難い文脈が見付かる可能性があります。その場合は、下記に示したマーケティング及び広告の用語辞書・辞典等で調べることを薦めます。

1. 日経広告研究所(2005)『広告用語辞典』日経文庫
2. 和田充夫、日本マーケティング協会編(2005)『マーケティング用語辞典』日経文庫
3. 宮澤永光、亀井明宏監修(2005)『マーケティング辞典』同文館出版
4. 宣伝会議編(2006)『マーケティング・コミュニケーション大辞典』株式会社宣伝会議
5. 電通広告辞典プロジェクトチーム(2008)『電通広告辞典』株式会社電通

S31000 商業政策**雨宮 史卓**

まず、テキストの「まえがき」を読み、この本の方向性を理解してから本文に取り組んでください。次にテキスト全体に目を通し、章と章との関連性や節ごとの関連を意識しながら読んでください。自分の興味のない章があったとしても、決して読み飛ばすことなくテキスト全体の流れを理解できるように心がけてください。

テキスト各編の大きなテーマをイメージしながら、各章に設定された項目を理解し、再び各編のテーマを振り返り整理することで、全体を把握していくことが重要です。また、テキストに示されているキーワードについても注意を払いながら、本文を学習してください。そして、必ず各章の最後に付与されている「課題」についても自身で検討してみてください。「課題」はテキストを熟読すれば必ず理解できる内容です。自分自身でノートにまとめるこによって理解度が深まります。

〈参考文献〉

梅沢昌太郎編著『現代商業学』慶應義塾大学出版会、2010年

S31200 国際金融論**山倉 和紀**

学習は教材を丹念に読むことからはじまります。教材は4編から構成されており、それぞれ以下の点に留意して学習してください。

第1編では、国際金融の基本的な概念や仕組みが解説されています。これらは国際金融の諸問題を学習する際の基礎知識となるため、読み飛ばすことなく、確かな理解を得ておくことが必要です。国際金融の理論を扱う第2編では、為替レートや国際収支などについて、私たちがもつ直観的ないし常識的の理解だけでなく理論的な視点を身につけることが大切です。変動為替レート制への移行や資本取引の自由化といった歴史的な出来事が、国際金融理論の発展と深化にあたえた影響もあわせて考えましょう。第3編は、国際通貨制度の発展を跡付けています。その変遷をふり返るだけでなく、時代固有のダイナミズムを理解することが必要であり、各々の時代に国際通貨としての信認が何によって支えられてきたか（あるいは失われたか）も考えなければなりません。第4編は、国際金融市场および現状問題を取り上げています。まず国際金融取引と国内金融取引の区別が難しくなった現実を理解し、グローバルな金融市场の機能と特徴を把握することが必要です。内外の金融市场の一体化がすすむなかで、国際協調やBIS規制が登場した意味も考えてください。また金融現象の世界化に伴い、通貨危機や金融危機も世界的に伝播するようになりましたが、それに対応する国際通貨制度がいかにあるべきかについても考えてみましょう。

なお科目修得試験では、教材の理解不足のために、しばしば問題の要求を満たしていない解答がみられます。報告課題にしっかり取り組むことはもちろんですが、上記のポイントに留意しながら、個々のトピックスの背後にある教材全体の問題意識を読み取り、それらを統合的に理解していくことが必要です。

S31300 商業英語 I**藤本 淳史**

この教材の今年度の主要テーマは「商談・交渉」です。ビジネスは商談と交渉の連続です。間違いや、ふとした不注意や勘違いも減点要素です。減点されればビジネス成功の確率は落ちます。ノーエラー・ノーミステークに徹しましょう。そこでは英語のみならず日本語も磨きましょう。

教材はやさしく書いてあります。読み抜いてください。いつものことですが、読み込みが不足しています。読んだら、必ず理解すること、一人合点はダメです。ハンパもダメです。マメに手を動かしてメ

モを取りながら読んでください。そうすると記憶力が必ずシャープになります。

商談・交渉は相手があつてのことです。「話し上手」だけではなく「聞き上手」になります。「聞き上手」は人に好かれます。しかも、均整のとれた双方向のコミュニケーションがビジネスです。そのためにはコミュニケーションの中味を深く広く豊かにできる語彙や語法をたくさん身に付けてください。豊富な語彙や語法の蓄積なしにコミュニケーションは不可能です。語彙や語法を思う存分増やしてください。それには2分でも3分でも毎日の努力が必要です。怠けてはいけません。「継続は力なり」です。

また、ビジネスは人間関係で成り立っています。円滑な人間関係はビジネス成功のカギです。この重要性も教科から学んでください。「人財」といわれるほど人は大切な財産です。しかもメンテナンス（保守管理）が大事なことも併せて学んでください。対人関係を促進させるにはジョークやユーモアも大切です。この教材からどのようにしてジョークやユーモアがコミュニケーションの円滑化に役立っているかを学んでください。また、あなたの周辺に英語環境を創ってください。例えば、テレビ（CNN）・ラジオ（AFN）の英語放送を、つけっぱなしにしておくとか、頻繁に外国の音楽を聴くとか、部屋の壁に外国のポスターを貼るとかです。

科目修得試験やリポートでは問題をよく読んで、求められていることを早とちりしたり、間違ったりしないことです。求められていることを素直に書いてください。文字はきれいに、丁寧に、読みやすく。誤字や脱字の無いように。誤字や脱字や誤綴りはダメです。この教科は英語力の習得を目指すためでもあります。リポートの中に、できるだけ教材にある英単語や英語表現を引用してください。リポートに与えられたスペースや行数は、あなたの既得権益です。余すところ無く使い切ってください。

参考書としては、研究社刊・石川英夫著「英語でビジネス交渉！」（電子書籍です。各種PCサイト、携帯サイトからダウンロード可）及び「ホスピタリティ・マインド実践入門」をおすすめします。座右の書として大いに活用してください。教材は熟読して下さい。

S31400 商業英語Ⅱ

藤本 淳史

この教材の主要テーマは「プレゼンテーション」です。これは日本人が不得手とするコミュニケーション技法です。この章を読み抜いてください。試験の答案もリポートも大切なプレゼンテーションです。プレゼンテーションに負けることは「評価が落ちる」「仕事がとれない」「競争に負ける」ということです。ビジネスで成功する第一歩はプレゼンテーションに勝つことです。そのための「術」を理解し身につけましょう。

プレゼンテーションは人間がやることです。プレゼンテーションの主役は「プレゼンター」です。非凡な能力が求められます。プレゼンターにはどのような資格要件が必須なのかこの教材から学んでください。プレゼンテーションは口頭だけではありません。文書も重要です。人間関係を円滑化するコミュニケーション・スキルも大事です。そして文章作成能力も身につけましょう。マナーもルールも大切です。ビジネス相手との貸し借りのバランスにも心を配りましょう。reciprocity（共生）やhospitality（おもてなしの心）などはその中でも主たる要素です。

国境を越えてビジネスを展開するには国際交流も重要です。難しい仕事ではありません。教材から国際交流の楽しさ、面白さを読み取ってください。そして、英語コミュニケーションの楽しさを味わってください。また、あなたの周辺に英語環境を創ってください。例えば、外国のポスターを部屋の壁に貼るとか、外国の音楽を聴いたり、テレビ（CNN）・ラジオ（AFN）の英語放送をつけっぱなしにしておくなどおすすめします。

前述したように、科目修得試験やリポートも自分のベストを相手に訴えて、然るべき評価を勝ち取るために大切なプレゼンテーションです。そこには減点要素があつてはなりません。字はきれいに、読みやすく書いてください。汚いのはダメです。誤字や脱字は論外。ノーエラー・ノーミステークに徹してください。試験やリポートでは問題や課題をしっかり読んでください。求められていないことは書かないこと。つまり、求められていることに絞って、正確に、きれいに、読みやすく書くことです。これを口で言うのは易しいのですが、実際には容易なことではありません。固い決意で真剣に臨んでください。

この教科は英語力の習得を目指すためでもあります。リポートの中に、できるだけ教材にある英単語や英語表現を引用してください。リポートに与えられたスペースや行数は、あなたの既得権益です。余すところ無く使い切ってください。

参考書としては、研究社刊・石川英夫著「英語でビジネス交渉！」（電子書籍です。各種PCサイト、携帯サイトからダウンロード可）。及び「ホスピタリティ・マインド実践入門」をおすすめします。座右の書として大いに活用してください。教材は精読して下さい。

S32000 観光事業論

服部 伊人

本書を学習する最初の手順としては、まず本書の冒頭に掲げた「まえがき」および「本書の目的と特徴」を、つぎに第1章から第8章までの各章末に掲げた「本章の要点」を何回か通読し、観光事業の全体像を把握し、その学問的体系（フレームワーク）を理解することである。

つぎの大変な手順は、主要な言葉の意味を理解することである。本書の末尾に掲げた「索引」を利用して、本学習の基本となる用語、たとえば、「観光」「観光者」「観光客」「観光地」「事業」「観光事業」「観光事業主体」「観光立国」などの意味を正確に把握することである。

以上の手順を踏んだうえで、第1章から順序よく次章へと読み進むとよい。なぜなら、本書は、観光事業が展開される活動プロセスを、前半（I）に、政策→計画→資金（フィーザビリティ・スタディ）、後半（II）に、組織づくり→事業化（開発・保全）→効果・評価→今後の課題という順序で、体系的にかつ実践的に記述しているからである。したがって、各章の途中とか何章かを飛ばして精読しても容易に理解することはできないであろう。最後に、各章末に掲げた「引用文献」および「参考文献」のなかから関心のある何冊かを選出し併読すると、本書の内容が一層理解しやすく、本書への興味や関心が一層深まるであろう。

本書の学習は、単に学問として学習するのではなく、観光事業の実践にかかる一人のメンバーとして、あるいはこれからそのメンバーに加わるつもりで学習すると、観光事業をより身近に、しかも、より動的かつ能動的に理解することができるであろう。

S32100 商業史（新教材）

竹内 真人

本書は、近現代の資本主義世界体制を創出したイギリスとその帝国に関する通史である。イギリスで初めて行われた産業革命や商業・ファイナンスについて詳しく解説しており、近現代のグローバルな商業史を理解する上で最適な教材となっている。

本書を学習する手順としては、序章からノートを作成しながら読み進めるしかないが、世界史の知識がある程度必要になるので、世界史辞（事）典や百科事典を適宜活用すると良い。また、既に絶版となり、入手困難かもしれないが、図書館などで、本書の巻末の「主要参考文献」のなかから何冊か関心のあるものを参照したり、平田雅博『イギリス帝国と世界システム』（晃洋書房、2000年）、アンドリュー・ポーター（福井憲彦訳）『帝国主義』（岩波書店、2006年）、秋田茂・木村和男・佐々木雄太・北川勝彦・木畠洋一編『イギリス帝国と20世紀』（全5巻、ミネルヴァ書房、2004～2009年）を読んだりすると、さらに理解が深まるだろう。

また、科目修得試験とは直接関係しないが、古代から近世までの西洋商業史を学びたい人は、谷澤毅『世界流通史』（昭和堂、2017年）がコンパクトにまとまっており参考になる。

S32100 商業史（旧教材）

鍋本 由徳

旧教材は、商学部商業学科の科目としては異質の内容となっています。商業の歴史を扱ったものは多くなく、参考文献となるものも限られています。

旧教材は、「歴史」、特に「日本史」の要素が強いものなので、当時の政治状況（政策）や、社会経済のあり方を意識しながら学修を進めると効果的です。何を使って取引していたのか、取引する場所はどのようなところであったのか、商業活動する人々の動きはどうだったのか。さまざまな要素が複合的に関係する「歴史」のなかでも、特に商業に着眼点をあてた科目が「商業史」ですので、大きな流れは「日本史」系の参考書（近年の『日本の歴史』シリーズ）などを読み、その他、分野別の参考書（たとえば、『流通経済史（新体系日本史）』山川出版社）などが役に立つと思います。

辞典類も、国語辞典ではなく、歴史専門の辞書（『国史大辞典』吉川弘文館、『日本史大事典』平凡社、『日本歴史大事典』小学館など）を図書館で使ってみると用語に対する理解が深まります。

S32200 経済地理／R32600 経済地理学

井村 博宣

これから経済地理（学）をテキストで学習しようとする場合、まず、常に「経済空間の普遍性と固有性」の存在を念頭において、理論的把握から実践的把握へ、全体的把握から部分的把握へという学習志向目標を見定めるとよい。

つぎに、学習は、原則として各章（末）ごとの「本章の要点」をよく読み、第1章からじっくり読み始め、次章に進む度に、前章を何度も読み返し、理解を深めるとよい。

テキストの前半I（2単位：3～159頁）では、まず、経済地理（学）の主要な対象である経済活動とこれが展開される経済地域・空間を把握する。つぎに、成熟社会における生活者の生活行動や生活空間の多様性などがみられることを理解する。さらに、高度サービス化・情報化社会における小売企業、卸売企業、および総合商社の活動の場としての流通地域・空間をそれぞれ捉え、これらの地域・空間的变化の特徴について、背景となる経営環境の変化との関係に留意して理解する。

テキストの後半II（2単位：163～292頁）では、まず、ソフト化・ハイテク化社会におけるハイテク企業の生産活動を、とくに地域・空間的に捉えるために、ハイテク企業の立地、立地決定、立地適応、および立地戦略を通して会得する。そして、生活空間、流通空間、および生産空間が情報ネットワーク化され、経済的地域・空間構造が、究極的には、多極連絡情報ネットワーク型になることを学習する。

しかしわが国では、依然東京一極集中型地・空間構造を形成しており、その構造的・機能的な問題点とは正策や中心地理論的視点上の特色などに留意して理解する。

なお、テキストの文中で使用されている、あるいは各章末に載せられている引用文献や参考文献は、できるだけ原典に当たって併読するとよい。

S32700 中小企業論**和田 耕治**

学習指導書とともに本テキストが取り扱う範囲は具体的で、広い分野に及んでいる。各領域はいずれも専門分野の知見で分析した作業を基礎にしている。

「中小企業論」に関する学習・研究は、一般に流布している中小企業に対する既成観念にとらわれずに自分の目で中小企業を見つめる力を涵養することが必要である。

本科目に限られることではないが、経済・経営問題研究には普段の経済状況に対する「感性」を涵養することが大切である。そのため、①経済関連の新聞、週刊誌等で内外の経済情勢を把握することを習慣とすること、②何よりも経済学、経営学などの基本文献を読み中小企業研究の基礎を作ること、③国や地方自治体をはじめとして調査・研究機関など関係諸行政は多くの情報、政策立案への関心をもつこと、④それらの多くの機関は雑誌、ホームページなどに多くの情報を開示していること、これらを踏まえて意欲的に学習してほしい。

なお、リポートはできるだけ現実の中小企業問題を考える基礎となる理論の学習を要することから、テキストだけでなく、経済学、経営学に関する科目を履修、学習して専門領域と基礎理論との相互の効率的な研修成果を上げるように努めることを勧める。

S32800 会計学**勝山 進**

会計学という用語は、広義にも、狭義にも捉えることができるが、広義には、簿記論、財務会計論（狭義の会計学）、管理会計論、原価計算論、会計監査論、税務会計論、財務諸表分析論、会計学説史等がある。このうち、狭義の会計学といわれる「財務会計論」が本講座の対象である。

財務諸表は、企業の「実像」を写し撮る「写像」であるといわれている。しかし、今日の財務会計論を支配する取得原価主義は、「実像」と「写像」との間に大きな乖離を作り出している。この乖離を埋めるキーワードが「オンバランス化」である。このことは、これまで財務諸表に開示されなかった項目ができる限り開示することによって、信頼性のある「財務諸表」を作成しようというものである。

具体的な課題は、貸借対照表項目と損益計算書項目の「認識」と「測定」である。なお、財務会計論を学習する際の最も重要なキーワードは、「適正な」期間損益計算である。これらのことを念頭におきながら学習して欲しい。現在、受講者自身が解答しようとしている問題に対しても、また、論文をまとめる場合でも、その作業が「適正な」期間損益計算に寄与するのか否かという視点を持って欲しい。

以上その他、財務会計論の動向についても理解していただきたい。特に、企業が保有する金融資産が著しく増加していることに関連しているが、現在では、会計構造が、「収益費用アプローチ」から「資産負債アプローチ」に変化している。つまり、金融資産等の一部ではあるが、このような資産に「時価評価」が導入されているのである。

こうした動きに関連して、世界的に国際財務報告基準（International Financial Reporting Standards:IFRS）が大きな問題となっている。現在は、この IFRS が主流となっているが、国によっては、これ以外の会計基準の採用も認められている。しかし、財務諸表の重要な視点に「比較可能性」という課題があるので、今後の動向に关心を持つ必要がある。

さらに、現行の財務会計は、財務情報として定量化（貨幣価値表示）が可能な「財務報告」を中心となっているが、近い将来財務情報（財務的側面）のみならず環境的側面や社会的側面といった定性的評価といわれる「非財務情報」をも開示する「統合報告書」が求められるようになってきているので、こうした動向についても関心を持っていただきたい（テキスト 23～26 頁）。

次に、付録の「財務会計概念フレームワーク」（405 頁以降）は、財務会計の基礎にある前提や概念をまとめたものであるので是非精読して欲しい。

最後に、社会科学全体にいえることであるが、会計学は、用語法の学問であるといわれている。このため、専門用語の理解が非常に重要であることを認識して戴きたい。

S33300 外国史／R32800 外国史概説**坂口 明**

歴史の学習では、大きな歴史の流れをつかみ、そのなかで鍵となるような出来事がどのような意味を持ったかを、しっかりと理解することが必要です。

科目修得試験では、いくつかのテーマを設定してそれについて述べる、というかたちで出題しますが、限られた量のなかで、そのテーマについての歴史的事実とそれがもつた意味を、いかに的確に記述できているかを基準に採点します。教科書の丸暗記ということではなく、ポイントをつかむ学習が効果的だ

と思います。

S33300 外 国 史／R32800 外国史概説**齋藤 史範**

「第4章 東アジアの植民地化」をきちんと学んでください。この章は6節から構成されています。それぞれの節は、さらにいくつかの項目から成り立っています。学習に際しては、それぞれの項目についてきちんとまとめて下さい。項目の内容にもありますが、おおむね100字・200字から400字程度にまとめるといいでしょ。そしてそれぞれの項目の内容を頭の中でめぐらして下さい。次に節ごとの内容をイメージして下さい。この作業を繰り返すことにより、この章の内容が把握できていくでしょ。あとはイメージする内容が確実なものになるように、時間と労力をかけて下さい。なお、学習に当たっては巻末の参考文献も使うと、より理解が深まります。是非、実行してみてください。

「第6章 第一次世界大戦とアジア」をきちんと学んでください。この章は6節から構成されています。それぞれの節は、さらにいくつかの項目から成り立っています。学習に際しては、それぞれの項目についてきちんとまとめて下さい。項目の内容にもありますが、おおむね100字・200字から400字程度にまとめるといいでしょ。そしてそれぞれの項目の内容を頭の中でめぐらして下さい。次に節ごとの内容をイメージして下さい。この作業を繰り返すことにより、この章の内容が把握できていくでしょ。あとはイメージする内容が確実なものになるように、時間と労力をかけて下さい。なお、学習に当たっては巻末の参考文献も使うと、より理解が深まります。是非、実行してみてください。

T10100 現代教職論**古賀 徹**

「現代教職論」は、教職者として必要な知識と覚悟を修得することを目的とする科目である。教師になりたいという思いが強いだけではなく、「教育」というものにともなう責任をよく理解して教壇に立つてもらうためには、その意義をよく理解しておくことが必要となる。この科目において、「教師に必要な資質・能力とは何か」を具体的に学んでもらうことになる。受講学生は以下の点に留意して学習していくもらいたい。

- ① テキストをよく読み、各章の課題を十分に理解する。「学習指導書」に記してあるポイントも参照すること。
- ② 学習する内容は「教員養成」の変遷と、そこに期待される「教員の資質・能力」がどのように変化してきたのか。そして、これから社会や学校教育において、どのような教員やその指導が求められているのか。具体的には、「教師の行う指導・職務」「教員養成で期待してきたこと」「教師教育－養成・採用・研修」「理想の教師像とは何か」について、考えていただきたい。テキスト以外にも関連する参考文献や新しいデータ等を入手しノート等にまとめて自ら学習を深めていくこと。
- ③ 学習の成果を、リポートや試験の論述に反映させること。この科目は「教職者として必要な知識と意識」を目的としている。正しい知識（学習の成果としての理解）をつかって論理的に書くこと。ここに学習の成果としての意識が試されるとしっかり自覚して臨んでほしい。

T10200 教育原論／T10300 教育の思想**北野 秋男**

テキスト『教育の思想』は、各章ごとに現代の教育の在り方、考え方の思想史的な源流（ルーツ）を解説することが意図されている。とりわけ、教育の目的論、教授理論、公教育理論、教育の人権理論、教師論などが主要なテーマとなっている。現在、我が国で進行中の教育改革の理念を根本的に再検討する視点も課題となっているので、受講学生は、以下の点に留意しながら、テキストの内容を理解してもらいたい。

- 1 テキストを丹念に読み、中心となる問題を十分に理解すること。
- 2 自分なりの理解をもち、自分の言葉と考えて問題点をまとめてみること。
- 3 現代の教育問題を意識しながら、教育思想の源流を理解すること。
- 4 異なる思想家に共通する教育思想の特色を理解すること。

上記のテキストから得られた知識をふまえ、今日の教育のあり方の根源を形成している教育思想の意味や内容を自分なりに丁寧に考えることが重要である。そのためには、現在、進行中の我が国の教育改革に関する最新の動向や諸問題に日頃から注目していることが望ましい。テキストの記述で不十分な場合は、積極的に文献を調べて、自らの学習を深めることも重要である。

受講学生がリポート作成において冒しやすい間違いや誤解、考え方などの特徴は、以下のような項目が挙げられる。

- 1 課題に適切に答えていない。課題とは異なる内容の記述を行う。
- 2 解答が論述形式になっておらず、要点のみ記載されている。
- 3 教育学上の正しい用語が使われていない。誤字脱字が多い。

効果的な学習方法は、教育思想に関する各思想家の理念や特色を整理した上で、具体的な事実を関連

させながら理解することである。また、教育学上の特殊用語・専門的な用語を自分の言葉で正しく理解することである。

なお、当然のことではあるが、科目修得試験の受験条件であるリポート作成は、全力で取り組むように心掛けてほしい。

T10400 教育の歴史

羽田 積男／小野 雅章

教科書は、前半が日本の教育の歴史を、後半が主として西洋の教育の歴史を扱っている。日本の近代教育は、西洋の教育の歴史に引き継がれたものである。それ故、教科書の全体をよく読み、教育の歴史の全体像を把握することが重要である。

特に18世紀啓蒙の時代から21世紀に至る西洋における近代公教育の成立とその展開、日本の明治期以降の近代学校の成立の様相をよく理解しておくことが重要である。

教科書に示された参考文献などを利用して、さらにひろく深く学び、教育の歴史から自分自身の教育に関する歴史像を描いておくことが望ましい。

なお、興味ある歴史上の人名やテーマについては、専門書や専門雑誌の論文に目を通すことをお薦めする。

T10500 発達と学習

野村 康治

発達は全一的过程であり、個々の領域が単独に発達するのではない。身体の発達と心の発達には密接な関係があるし、心の諸側面も複雑に絡み合いながら発達していく。こうした発達過程の中で、人は様々な学習を成立させていくのである。従って、人間の発達と学習を理解するときには、様々な知識をバラバラに覚えるのではなく、それらを関連づけ統合的に理解していく必要がある。教科書を読むときも、ただ最初から終わりまで読み流すのではなく、「ここに書いてある内容は、前のページに書いてあったあの内容と関係しているのではないか?」ということを考え、ページを行きつ戻りつしながら読み進めしていくと、より深い理解が得られるであろう。

また、教科書に記載されている参考文献など教科書以外の文献からも広く知識を得ておくと、論述問題への回答に膨らみを持たせることができるし、自身の知識もより包括的、体系的なものになるはずである。

T20100 教育の社会学

角 能

教育現象が、個別の学校教育現場や個別の家庭のみで完結する現象ではなく、それを取り巻く労働市場の構造や学校以外の対人関係などにおける時代の変化などの影響も受けるものであることを理解し、社会的視点から教育現象を分析できるような力をつけてほしい。

つまり時代と共に労働市場や家庭、対人関係そして学校がどのように変化し、その結果それらの関係がどのように変化したのか、という視点から分析ができるように学習を進めることが重要である。さらにその結果、学校の教員や保護者、そして子どもにどのような影響が及ぼされ、どのような家庭環境で育った子どもにとって有利になり逆にどのような家庭環境で育った子どもにとって不利になるのか、このような視点から個別の教育現象を観察し、「教育の社会学」の学習を進めてほしい。

ではそのためには具体的にどのような学習を行うべきなのだろうか。以下に述べたい。

まず0から自分の頭で考えようとするのではなく、既存の教育社会学の理論を駆使して考えるようになるとよい。教育社会学の理論はこれまで豊富な蓄積が見られ、様々な教育現象を分析するのに応用がきく優れた道具である。特にテキストに登場している欧米の教育社会学の学者の理論は、様々な現場での実践家や研究者の批判に耐えて生き残った優れた分析道具なのである。つまり日本をはじめ様々な国での教育現象を分析するのに非常に有用である。

よって、テキストに登場する欧米の教育社会学の理論に関しては繰り返し読んで学習し、覚えてほしい。その際ただ丸暗記するのではなく、意味を理解して覚えることがまずは重要である。つまり人名と理論の名前をただ覚えるだけでは不十分である。その理論がどういう意味なのか、を文章で説明できるようにしておくことが重要である。

さらにテキストに登場する教育社会学の理論を使って、個別の教育現象を説明できるようになること、これも重要である。

初期の段階では、教育現象について自分の力だけで考えようとするよりも、テキストに登場する理論をその意味を理解した上で使って分析した方が鋭い分析になるはずである。

これができるようになれば「教育の社会学」の学習目標は達成できたといえる。

ぜひ努力して目標を達成してほしい。

T20200 教育制度論**北野 秋男**

テキスト「教育制度論」は、各章ごとに現代の教育制度及び教育行政の理論と構造を理解することが意図されている。とりわけ、現在、我が国で進行中の教育改革の理論と実態が中心的テーマである。受講学生は、以下の点に留意しながら、テキストの内容を理解してもらいたい。

- 1 テキストを丹念に読み、中心となる問題を十分に理解する。
- 2 自分なりの理解をもち、自分の言葉と考えて問題点をまとめる。
- 3 現代の教育制度の理論と構造を理解する。
- 4 アジアやアメリカなどの諸外国の教育制度が我が国に与えている影響を理解する。

上記のテキストから得られた知識をふまえ、現在、進行中の我が国の教育改革に関する最新の動向や諸問題に日頃から注目していることが望ましい。テキストの記述で不十分な場合は、積極的に文献を調べて、自らの学習を深めることが重要である。

受講学生がリポート作成上において冒しやすい間違いや誤解、考え方などの特徴は、以下のような項目が挙げられる。

- 1 課題に適切に答えていない。課題とは異なる内容の記述を行う。
- 2 解答が論述形式になっておらず、要点のみ記載されている。
- 3 教育学上の正しい用語が使われていない。誤字脱字が多い。

効果的な学習方法は、教育制度に関する全体の理念や特色を整理した上で、具体的な事実を関連させながら理解することである。また、教育学上の特殊用語・専門的な用語を自分の言葉で正しく理解することである。

なお、当然のことではあるが、科目修得試験の受験条件であるリポート作成は、全力で取り組むように心掛けてほしい。

T20300 国語科教育法 I**品川 利幸**

本講座の試験は全て論述形式による。従って論述内容を成文化する文章力が求められる。この養成には、例えば日頃から日記をつけるなど、毎日文章を書く練習を積み重ねることである。また、読書習慣のない者が読書指導は出来ないように、いやしくも国語教師を目指すほどの人は、読み・書き・話し・聞く日常を国語力涵養の場と捉えて欲しい。そこから自ずと見識は生まれて来る。

まずは専門用語の解説書を備えること、次に本書の内容をノートにまとめてみることである。次いでスクーリングに用いる『国語総合』で教科書本文から、どのような授業を展開するかを学習指導要領と『教育法』テキストの理論から組み立ててみる。この三者の咀嚼によって国語教育の指導法がはかられる。国語教育の内容は、本書の目次から見ても多岐にわたるが、大切なことは、それら各項目の内容を実際に指導する場を想定して、どのように学習指導案を立て、指導したら良いかを考えることである。

また、本書の効果的な活用法として、目次にはない語彙の、自作索引作りをお勧めする。

なお、論述する際、文末を「～であろう」「～ではないか」などと推測表現で述べてはいけません。自分の考えを明確に打ち出すことが大切です。

参考文献：大槻和夫『国語科重要用語300の基礎知識』（明治図書）

T20400 国語科教育法 II**品川 利幸**

本書は、書く・読む・聞く・話すの各分野と、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の内容について章立てし、その指導の実際を、遠くは明治期にまで遡り国語教育の変遷をたどりつつ、現代に於ける国語教育の位置づけをみる。書く教育に於いては、生活綴り方教育の実際から現代に於ける伝え合う力を高める教育へとその流れをたどり、読むことに於いては、文学教材と説明的文章の異質性からその指導法を考察する。読書指導は、単に国語科に止まらず、複合的視点から捉えると、その展開も様相が一変する。音声言語教育ではコミュニケーション能力との相関に於いて指導例が示されている。伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項では、国語の各分野に於ける指導の実際を、特に読む・書くの分野から指導の実際を考察する。最新の成果を取り込んだ新訂版によって国語教育の現在を学びたい。

なお、論述する際、文末を「～であろう」「～ではないか」「～かもしれない」などと推測表現で述べてはいけません。自分の考えを明確に打ち出すことが大切です。

参考文献：池上彰『日本の教育がよくわかる本』（PHP文庫）

T20500 社会科・地理歴史科教育法 I**宇内 一文**

科目修得試験の出題範囲は広く、教科書の内容を理解できるまで読み込んでおかないと合格は困難である。とりわけ、1998（平成10）年版「学習指導要領」の目標と内容、および内容の取扱いの留意点については精読しておく必要がある。また、自分の住んでいる地域（都道府県・市区町村）または教員

採用試験の受験を考えている地域の歴史や地理的特色について、事前に調査しておくこと。

試験では、必要なキーワードを含めながら自分の言葉で表現できることが評価のポイントとなる。したがって、「精読」といっても、教科書を丸暗記するのではなく、教科書の内容を章や節ごとに要約してみると良い。

なお、指定されている教科書には現行（2008（平成20）年）の「学習指導要領」については記載されていない。下記の参考書を必ず購入し、各自で内容を確認し、1998（平成10年）版のものと比較しておくこと。

【必読参考書】

文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版、平成20年（185円）

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』教育出版、平成22年（421円）

T20600 社会科・地理歴史科教育法Ⅱ

関 幸彦

指定のテキストを熟読し、戦前の国定教科書にいたる変遷戦後については、指導要領の沿革について勉強すること。

T20700 社会科・公民科教育法Ⅰ

宇内 一文

本科目の科目修得試験の出題範囲は広く、教科書の内容を理解できるまで読み込んでおかないと及第点を得ることは困難である。とりわけ、1998（平成10）年版「学習指導要領」の目標と内容、および内容の取扱いの留意点については精読しておく必要がある。

試験では、必要なキーワードを含めながら自分の言葉で表現できることが評価のポイントとなる。したがって、「精読」といっても、教科書を丸暗記するのではなく、教科書の内容を章や節ごとに要約してみると良い。

なお、指定されている教科書には現行（2008（平成20）年）の「学習指導要領」については記載されていない。下記の参考書を必ず購入し、各自で内容を確認し、1998（平成10年）版のものと比較しておくこと。

【必読参考書】

文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』、日本文教出版、平成20年（180円）

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』、教育出版、平成22年（346円）

T20800 社会科・公民科教育法Ⅱ

大塚 友美

教科書を熟読して、市場経済および民主主義社会の仕組・働き・長所・短所などについて、理解を深めてください。その際に重要な点は、経済学・政治学・法学などの断片的知識を単に暗記するのではなく、たとえば「市場経済」の基盤である「経済活動の自由」と基本的人権の「自由権」との関係や、市場経済の欠点（経済活動の自由の副作用、すなわち貧富の格差の拡大など）と「生存権」との関係に着目するといった具合に、体系的に理解するように努めることです。

そのためには、歴史の流れに沿って、経済学の発展を俯瞰することが効果的である、といえます。また、社会科・公民科が扱う範囲は広範多岐にわたるため、自習をしていて疑問を感じた場合、その部分を経済学事典などを用いて多角的に調べることが必要です。なぜなら、こうした疑問を解消するための地道な努力が、学習効果を飛躍的に高めるからです。

T20800 社会科・公民科教育法Ⅱ

嘉吉 純夫

テキストを精読して、まず各分野における大項目および中項目の内容をしっかりと把握してください。次に、それぞれの項目について、自分が教壇に立った時を想定して、どのように教えれば生徒の理解が容易になるか、深まるか、しっかりと自分なりの授業計画を立ててください。それこそが、本科目の修得を志す者に要求される必要不可欠な準備作業です。

T20900 英語科教育法Ⅰ

小林 和歌子

記述式の設問となっています。単なる感想や個人的な意見だけを綴るのではなく、事実や資料に裏打ちされた内容を自らの言葉で表現することが求められます。そのためには、通信テキストのみならず、他の文献にもいくつかあたることが大切です。

T21000 英語科教育法Ⅱ**佐藤 惠一**

本学使用的教材は特に資料編が充実しているので、これを大いに利用してもらいたい。特に問1から語彙問題の問4までは、資料編や索引等も利用し確認して頂きたい。問5から最終問題までは上記だけでなく、それぞれの章の内容を把握し説明できるように心掛けておく必要がある。また科目修得試験にこれまで出題されてきたものも利用し、それぞれの章のポイントを把握し簡潔に説明できるよう、自分の考えをまとめてみることも必要である。

さらに補足すれば、記述部分では教授法や学習指導要領はじめ、その他のことについてもインターネットや様々な英語教育関連の文献などから基本情報を確認することも必要であろう。

T21100 商業科教育法Ⅰ**大嶋 伊佐雄**

平成11年改訂の高等学校学習指導要領と平成21年改訂の高等学校学習指導要領とを混同して理解しないように注意をすること。自らが教師になって生徒に教科の指導をすること前提にその専門性を高めるよう努めてほしい。具体的には学習指導要領の改訂の趣旨や教科「商業」の目標、科目編成・分野構成及び各科目の目標・内容とその取扱いなどについて理解を深めるようにする。また、教育課程の編成と指導計画の作成についても十分理解しておくこと。

以上の内容の理解は教科の指導や教育課程編成の基礎となるものである。なお、教材の付録の部分についても一読しておくこと。

当然のことではあるが、リポートの作成は全力で行い、そこで得た各種の知識などは確実に身に付けておくことが重要である。

T21200 商業科教育法Ⅱ**大嶋 伊佐雄**

平成11年改訂の高等学校学習指導要領と平成21年改訂の高等学校学習指導要領とを混同して理解しないように注意をすること。自らが教師になって生徒に教科の指導をすること前提にその専門性を高めるよう努めてほしい。具体的には商業教育の必要性と意義や学習指導要領の変遷、教科「商業」の目標、科目編成・分野構成及び各科目の目標・内容・内容の取扱いなどについて理解を深めるようにする。また、指導計画と授業展開、商業教育と人間形成の章についても十分理解しておくこと。

以上の内容の理解は教科の多様な指導法や特色ある教育課程編成の基礎となるものである。さらに商業科教師への期待や商業教育の課題と展望についての学びにより、教師としての使命の重要性や資質についても一層理解を深めることができる。

当然のことではあるが、リポート作成は全力で行い、そこで得た各種の知識などは確実に身に付けておくことが重要である。

T21300 道徳教育の理論と方法／T21400 道徳教育の研究**関川 悅雄**

まず、テキスト・教材の全体を通読し、各章・節・項などに付してある「見出し」に従って、その「見出し」を書き出し、その下で当該のテキストの内容をていねいに熟読して要点をまとめるとよいでしょう。とくに、第2章の「道徳性の発達」、第3章の「学校における道徳教育」、第4章の「道徳科の目標と内容」、第5章の「道徳科の指導計画と実際の指導」、第6章の「新しい道徳授業を求めて」などを中心に、各章の「解答への手がかり」に頼って、問題を解きつつ知識を確認してみよう。これらの事柄は、少なくとも皆さんこれから中学校で道徳科の授業を担当するのに不可欠な内容である。

T21500 特別活動論／T21600 特別活動の研究**関川 悅雄**

まず、テキスト全体を通読し、各章・節・項などに付してある「見出し」に従って、その「見出し」を書き出し、その下で当該のテキスト内容をていねいに熟読して要点をまとめるとよいでしょう。とくに第3章以下では、「特別活動の改訂と目標」、「学級・ホームルーム活動の目標・内容・内容の取扱い」、「生徒会活動の目標・内容・内容の取扱い」、「学校行事の目標・内容・内容の取扱い」などを中心に学習して下さい。これらの事柄は、少なくとも皆さんがすでに中学校・高校時代に体験している内容であるので、その立場から実践上の要点や課題などを加味するとよい。

T21700 教育の方法・技術論**壽福 隆人**

まず、テキスト全体を通読して、教育方法論・教育技術論とはどういう世界かということを理解することが重要である。リポート課題で必要な部分のみに注目して学習すると、教育方法・技術論の意義が本質的に理解されない可能性があるからだ。また、テキストは学習の指針に過ぎないことを理解してお

くことも重要である。教育方法・技術は学校教育のあらゆる場面の指導方法について深く関係する問題であり、テキストで紹介・説明しきれる程度の狭い学習分野ではない。したがって、テキストを学習のプロローグと考え、ここから本格的な学習、すなわち専門的書籍の検索と学習を始めなければならない。

近年、学校教育において、この教育方法・技術の分野は研究成果が多く発表され、最も発展している分野のひとつと言っても過言ではない。図書館でこの分野の書籍は容易に検索できるし、けっして高価ではない参考文献を書店で購入することもできる。それらの書籍は、学問的な専門書ばかりではなく、実践報告など、現場の教育経験が直接紹介されているものも多く見いだすことができるはずである。そのような書籍を検索したり、見いだしたりすること自体が、教育方法・技術論研究の第一歩と考えるべきである。

次に必要な学習は、学生諸君がこれまで経験してきた学校教育と関連させながらまとめてみることである。教育方法・技術の成果は何らかの形で、すでに多くの学校で実践されているから、必ずや学生諸君も体験しているはずである。その体験と関連させながら考えることによって、児童・生徒の時代にはその意義・意味を理解できなかったことも、教職課程を履修し、教員をめざしている今日、理解できるようになっているはずである。この自らの体験と書籍による学習を組み合わせて理解を深め、文章でまとめていくという学習方法が最も学習効果をあげるだろうと考える。

T21800 地理学概論（地誌を含ます）

両角 政彦

テキストは、現代地理学の論点と意義をまとめ、その見方と考え方を具体的な事例を通して紹介した概論書である。在宅学習やリポート作成の際には、本文を熟読し、図表や写真をもとに基礎知識を身につけた上で、巻末の文献や索引も参照しながら、専門用語を事典等で調べることが求められる。

本書の内容は、6つに分けることができる。「地理学——世界が舞台」は、地理学とは何か?という根本的な問い合わせに対するひとつの回答である。「自然的側面——我々の自然環境」は、自然環境科学としての自然地理学の見方について複数の空間スケール等から紹介するものである。「人文的側面——場所の中の人間」は、人文地理学の研究方法とその劇的な変化の過程をまとめている。「全体としての地理学——共通基盤」は、地理学としての共通基盤を探査し提示するものである。「地理学者の研究法」は、地理学に必要となる技能、道具、社会貢献の方向性を示したものである。「地理学の現在と将来」は、統一的学問としての地理学の立脚点と多様化や継続的变化の下での意義について検討している。なお、コラムに掲載されている内容も地理学を理解する上で一助になる。

T21900 地 誌 学／T22000 地誌学概論／T22100 地理学概論（地誌を含む）（旧教材）羽田 麻美

教科書は、第一・二分冊に区分できる。この区分基準は大陸別なものであり、各大陸の中から、地理的に特徴ある国家や地域を捉えている。

地理学が得意とする国土の特徴を、自然環境のあるいは人文社会的に記述している。教科書をよく読んでみると、地誌をとりあげる地理学的な視点が、何となく見えてくる。いずれの事例も、特異な事象を述べているが、一つの事例を通して、地域を分析する地理的能力を養ってほしい。

そうすることによって、他の国家・地域の理解につながることを期待している。トピックス的な記述が目立つかもしれないが、それらはその地域を理解する上で最良の地理的事象と考え、学習することが重要である。

教科書の刊行年の古さから、内容的には新たなる資料類を積み重ねることが必要になっている。時々刻々変化する世界の実状は、事例として取り上げた地域を中心に、新たなる変化を自ら学び取ることが必要であろう。

T22200 人文地理学概論

小倉 真

- (1) 教科書は、地理学全般の中で、とくに都市地域に重点をおいて記述されている。その主旨は教科書の序論部に詳しく述べている。
- (2) 教科書全体は、4単位構成を2部（2+2単位）に区分されている。記載内容は、各章をテーマごとにまとめつつ、章が進行するごとに学問的に深化（具体例の記述を含め）する順序になっている。
- (3) 第1部は、私たちの身の回りに生起する諸問題が取り上げられている。地理学の都市研究には、日常の生活に有効な見方も多く含まれている。
- (4) 概論的な章の後半には、具体的な事例を取りあげ、詳細な分析がなされている。慣れないうちは、学術的な文章を資料とともに読みこなすのが大変であろう。しかし、慣れてくると選ばれた一つの事例地の理解を通して、地域についての都市研究の切り口がみえてくる。
- (5) 都市研究に関わる他分野（都市工学、都市経済学、都市社会学、都市計画など）においても、多くの書籍が頻繁に刊行されている。各項目のテーマに合致する、これら分野におけるアプローチを知り、地理学のそれと比較して欲しいと考える。

T22300 自然地理学概論**江口 誠一**

自然地理学は、地表面に生じる自然現象の空間分布を対象とする分野である。そして空間分布の特徴を理解するためには、因果関係を理解することも重要である。つまり、ある現象やその空間分布には必ずそれが生じる直接的・間接的要因が存在している。したがって、学習にあたっては現象・空間分布とそれが生じる要因を整理して理解することが重要である。自然地理学は各種の専門分野を包含しているため、内容は多岐にわたっているが、ここでは地形、気候、土壤、植生分野を重点的に学習する。

それぞれの分野における現象や事実は、相互に原因と結果という関係を持つ場合が多いので、学習の際にも常にそれを意識し、関連性を考えながら学習することが肝要である。また、専門用語には厳密な定義が存在するので、誤用しないように注意することが必要である。それぞれの分野においては、以下の観点を念頭に置き、学習を進めて頂きたい。

テキスト第1単位—地形

様々な空間スケールを持つ地形の形成要因と形成過程を整理し、空間分布との関係を理解すること。

テキスト第2単位—気候

気候帯や気候区の特徴を知り、それらの空間分布を大気循環や気候因子との関係から理解すること。

テキスト第3単位—土壤

グローバルな土壤分布の特徴を気候、植生との関係と共に把握し、形成要因を理解すること。

テキスト第4単位—植生

グローバルな植生分布の特徴を分類基準も踏まえ理解し、さらに主要な形成要因となる気候との関係を整理すること。

T22400 漢字書法**金子 騒**

太古から続く文字造形（書体や書風）の変遷は、書道史として体系づけられています。書の表現は、書道史を無視しては成り立ちません。書道史を学ぶことによって、過去の豊かな表現力を現代に生かすことができます。

まず、書体の成立・特徴、文字の造形の変遷を理解するために、教科書のはじめ（太古時代）から学んでください。教科書を熟読するだけでなく、実技を通して、造形や線質の違いなどを細かく学んでください。

教科書には情報に限りがありますので、参考図書を利用して見識を広げてください。興味のあるところから学んでも結構です。

教科書

『漢字書法教本』学習指導書

参考図書

『書の古典と理論』全国大学書道学会 2013

『書の総合事典』柏書房 2010

『書の百科』芸術新聞社 2010

『書道講座』新装版 第1～7巻 二玄社 2009～2010

『決定版 中国書道史』芸術新聞社 2009

『書道テキスト』大東文化大学書道研究所 2006～2011

『書の文化史』上・中・下 二玄社 1991～1999

T22500 かな書法**齊藤 まゆみ****アドバイス**

- ・テキスト「かな書法教本」を熟読し、日本固有の文字である「かな」について知識を深めておくこと。
- ・代表的なかなの古筆名や、筆者名はきちんと漢字で書けるようにしておくこと。またその古筆の特長もとらえておくことが大切である。
- ・かなの美の表現にはどんな方法があるのか、その効果についても答えられるようにしておくこと。

T22600 法学通論／T22700 法律学概論（国際法を含む）**高畠 英一郎**

法学通論／法律学概論は、法律を学ぶうえで必要な基礎的な思考方法・知識の習得を目的とします。指定のテキストは平易な言葉で書かれていますが、読み飛ばすのではなく、一語一語に注意を払いながら、よく読むようにしてください。そして、基本的な法原則の名称とその内容（定義）を正しく理解するよう努めてください。対立する概念については、両者はどの点が異なるので対立しているのか、という点を意識するようにしてください。

上記の点に留意しながら、テキスト全体を精読し、必要ならばノートをとるようにしましょう。

T22800 政治学概論**山田 光矢**

政治学に限らず、社会科学系の学問には歴史的な理解が求められます。人類の歴史は、一般的には、太古・古代・中世・近世・近代・現代・ポスト・モダンに分けられます。そこでは、時代ごとに特色のある政治や、生産活動、あるいは社会生活が営まれていました。その特徴や目的や内容あるいは問題点などを理解し、最終的には現在の政治をどう考え、それがどのように改革されるべきかを考えてもらうことがこの科目的目的です。

古太古や古代の政治は、小規模な都市国家を前提に、宗教の中心人物とされたものが国王（女王）となり、祭政一致の政治が行われてきました。但し、古代ギリシアの一部のポリスだけは、王政から貴族政をへて民主政へ移行しました。そこではソクラテスの影響を受けたプラトンが、理想主義哲学の立場から理想的な政治像を追及したのに対して、アリストテレスは現実主義哲学の立場から、現実のポリスの政治を比較し政治の実態を分析しました。これが伝統的政治学と科学的政治学のスタートということができます。

中世はやはり小規模国家ですが、国王から荘園を付与された貴族が、荘園を単位とした領邦国家ごとに独立性の高い政治を行ないました。これは封建制ともいわれています。但し、政治の頂点にはローマ教会が存在していました。ローマ教皇の権威が統治権の基礎づけており、宗教（キリスト教）の権威を背景として政治が営まれていたのです。

近世からは民族を単位とする大規模な国民国家が形成され、それを単位として政治が行われてきました。但し、近世の絶対主義王政は、王権神授説に立脚した絶対君主が、中央集権的で恣意的な独裁政治を展開していました。初期の大規模国家は重商主義経済と結びつきながら、強力な独裁政治によって営まれてきたのです。

こうした政治を転覆させたものが近代市民革命であり、そこで生まれた市民社会では、市民だけが参加した制限民主政治が実践されました。統治制度は議員内閣制と大統領制（アメリカのみ）に分かれました。この近代国家は自由主義と保守主義を前提に運営され、立法国家あるいは夜警国家と呼ばれる消極国家すなわち小さな政府が理想とされました。

その後、国民の政治意識が高まりに合わせて選挙法が改正され、原則として成人男女すべて（大衆）を有権者とする大衆民主政治が展開される、大衆社会に移行しました。この現代国家では、社会民主主義を前提とする行政国家あるいは福祉国家と呼ばれ、積極国家すなわち大きな国家に移行しました。フランスでは議院内閣制と大統領制を折衷した、フランス型大統領制（半大統領制）が確立されました。

現在の政治では、アメリカ型多元主義とヨーロッパ型ネオ・コーポラティズムという、新しい参加型民主政治が展開されています。また民主政治をポリアーキーとする考え方もあります。またマニフェスト民主政治や、ITを利用した選挙活動も実践されています。こうしたポスト・モダンの新しい政治のあり方や必要な改革にも注意を払っておく必要があります。

この科目は教職関連科目です。教員を目指す皆さんには、政治の歴史や特徴や改革などを自分で考察し理解してもらう必要があります。そこには「宗教と政治」、「独裁政治と民主政治」、「議会制度や選挙制度」、「少数代表と多数代表と比例代表」、「政党と圧力団体」、「伝統的政治学と科学的政治学」など、多くの課題が出てきます。それは教科書にある各項目を丹念に整理していくければ見えてくるはずです。教科書141頁の表の各項目を覚えるつもりで研究に取り組んでください。

T22900 職業指導**李 吉魯**

教科書の第1章および第2章では、学校における「出口指導」ではない「本来の進路指導」が持つ意義・目的と、それが学校教育において果たす役割が取り上げられている。第3章では、進路指導を支える諸理論が紹介されている。第4章から第9章においては、進路指導の意義・目的を達成するために行われる指導の6領域が詳細に説明されている。第10章では、進路指導を効果的に推進し、その教育的機能を十分に発揮するために必要な指導体制や各教師の役割等が取り上げられている。第11章では、学修指導要領の改訂に伴う進路指導のあり方が示されている。第12章から第14章では、平成16年度から導入され、これからの中学校教育のあり方と方向性を示すキャリア教育とそこでの進路指導の役割等が取り上げられている。教科書を熟読して、「本来の進路指導」について明確な認識を持つことが重要である。教科書学習から得た知識をふまえて、教育や社会の動向を理解することも重要な学習である。そのためにも、日ごろから新聞等や新しい文献に目を通すよう心掛けるべきである。

T23000 心理学概論**内藤 佳津雄**

心理学の対象は、様々な領域に広がっており、「心理学概論」で取り扱う内容も、テキストを見ておわかりいただけるように、多様なものとなっている。それでも、テキストは内容を精選して初学者向けに作成しているので、まずは丹念によく熟読して、それぞれの内容について理解して欲しい。

教職においては、生徒やその家族との、あるいは教職員同士の相互理解やコミュニケーションが不可

欠である。ぜひ、教職課程における他の学習と連動して、課題解決に学習成果を生かして欲しい。

ただし、注意していただきたい点は、心理学の研究は「一般的によく起きる傾向」を明らかにすることを中心としており、個々の人に対する理解については、それぞれの理論が100%あてはまるわけではないということである。心理学の理論や考え方は人間の理解を進める上で役に立つが、過剰に理論を適用することはかえって理解を阻害するので注意する必要がある。

当然ではあるが、科目修得試験の受験条件であるリポート作成についても、参考文献を読むなどして全力で取り組むように心がけていただきたい。

T30100 国語科教育法Ⅲ

品川 利幸

本書には、他の教育書に余り見られない項目が散見する。国語教師の資質や能力に触れ、評価・評定について語り、読書指導ではフィクションとノンフィクションに二分した取り組みが提示される。多感な年代層を相手にする中等教育の発達段階に応じた教材の選別も見られる。将来を見据えて世界標準の課題と展望が語られる。

他方で国語教育は、言葉の教育の実現にありとして、人間存在の根幹に資するものであるべきと説く。それら不易の部分は、授業の三要素や授業の構築力として述べられ、研究授業の実際まで示されている。これら教師が当面する多角的な事柄を総合的に捉えることで教育法Ⅲの狙いと繋がっている。

T30200 国語科教育法Ⅳ

品川 利幸

生徒の意識調査に見る国語科の受け止め方は様々であるが、教科書で学ぶ教材には、いわゆる新人類特有の退屈さがつきまとつようである。ここで教授者が自ら学んで来た小学校以来の国語の授業を思い起こして欲しい。国語科の教師を目指すほど的人は必ずや感動を以て接した教師なり教材があつた筈である。そこから魅力ある教材とは何か、生き生きした授業を創成するにはどうしたらよいか、考察の糸口は掴めるに違いない。イノベーションとは単なる革新ではない。戦略としての広義の視点の上に、まずは教材開発という次元から様々な可能性が広がる。ただ、気をつけるべきは、安易な「流行」に走り、国語教育の原点を忘れないことである。伝統的な教材の中には、教科書がもたらした優れた文学作品が存することも忘れてはなるまい。これから国語科は新時代に即したメディアリテラシーが求められる一方で、新たに加わった「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の事柄もクリアしなければならず、課題は山積している。読む・聞く・話す・書くの各項目は無論のこと、国語科における不易流行について考察して貰いたい。

なお、論述する際、文末を「～であろう」「～ではないか」「～かもしれない」などと推測表現で述べてはいけません。自分の考えを明確に打ち出すことが大切です。

参考文献：田中孝一監修『中学校・高等学校 PISA型「読解力」－考え方と実践－』（明治書院）

T30300 英語科教育法Ⅲ

小澤 賢司

試験受験にあたって、リポートに合格していることが前提となります。課題に関係（関連）するところだけを読むのではなく、章全体を読むようにしてください。

そして、取り組んだ報告課題を、いかにListening / Speaking / Reading / Writing の4技能指導に応用するかを熟慮してください。その際、わかり易く明快に論じることが求められます。これは、和訳問題が出題された場合も同様で、正しい日本語であることはもとより、わかり易い日本語にすることが肝要です。英語の単なる直訳や日本語だけを読んでみても何を言っているのかわからないようなものは得点にはなりません（部分点もなし）。この点には十分注意してください。

T30400 英語科教育法Ⅳ

水本 孝二

試験は、(1)教科書の中にある重要な専門用語の（日本語での）解説と(2)本文中から抜き出した、ある程度の長さの文章の和訳から構成されています。なお、受験時には英和辞典の持込みを許可します。ただし電子辞書は不可とします。(1)に関しては、巻末のGlossaryや本文の該当部分を熟読してそれぞれの専門用語の意味を十分に理解しておいて下さい。(2)に関しては教科書の内容を正確に把握しておくことに尽きますが、解答に際して心掛けることを二点挙げておきます。一点目は「自分で自分を納得させられる文章にすること」です。一番いけないことは次のようになります。意味の分からぬ單語を辞書で引いて、一番目に出てる意味をただやみくもにつないで行って、その結果確かに日本語ではあるが、（おそらくは書いた本人にも）さっぱり理解不能な日本語の訳文が出来上がっている。自分で自分を納得させられない時は、必ず誤訳をして下さい。丹念に辞書を引いて、文章の前後関係なども慎重に考慮して解釈を進めていきましょう。二点目は「代名詞が何を指しているのかを常に把握しておくこと」です。このことを考えずに、ただ機械的にitが出てきたら「それ」、theyが出てきたら「彼ら」とし

ていたら正確な解釈は出来ません。「それ」とは文中の何のことか、「彼ら／それら」とは文中の誰／何のことかを、代名詞が出てくるたびに常に確認しておくことが重要です。

T30500 生徒指導・進路指導論**山岸 竜治**

- テキスト『生徒指導・進路指導論』のみならず、以下に【参考文献】としてあげた『生徒指導提要』、『中学校キャリア教育の手引き』、『高等学校キャリア教育の手引き』にもしっかりと目を通しておいてください（『生徒指導提要』は廉価であり、『中学校キャリア教育の手引き』および『高等学校キャリア教育の手引き』は市販の他、2017年12月現在、文部科学省のホームページで閲覧が可能です）。
- テキストで生徒指導／進路指導をめぐる定義、理論、原理、原則、方法等、基礎的事項を理解したうえで、参考文献で具体的な事柄・テーマの理解につとめてください。
- 具体的な事柄・テーマとは、「いじめ」、「不登校」、「発達障害」、「体罰」、「キャリア教育」、「出口指導」といったものをさします。特に新聞・テレビ等でたびたび取り上げられ、すなわち社会問題化している事柄・テーマは、生徒指導／進路指導の実践においても重要度が高いと考えられますので、重点化した学修を心がけてください。

【参考文献】

文部科学省『生徒指導提要』教育図書、2010年。

文部科学省『中学校キャリア教育の手引き』教育出版、2011年。

文部科学省『高等学校キャリア教育の手引き』教育出版、2011年。

T30600 教育相談／T30700 教育カウンセリング論**植松 紀子**

まず、テキスト『教育相談』(T30600) 植松紀子著 日本大学通信教育部出版を熟読すること。そこには、カウンセリングの全般的な意義・目的・歴史やその必要とされる背景が記されてある。そのことを理解するとともにカウンセリング理論に見られる差異などを明確に知る必要がある。また、カウンセリングの効果を高めるために不可欠な、カウンセラーの態度についても十分に理解すべきである。
学校教育相談についても、その意義・目的を把握し、学校教育相談がなぜ必要になったのかという歴史的背景と現状についても理解する。また、学校教育と学校教育相談との関係、カウンセリングと学校教育相談の違いについても明確に把握する必要がある。

U20100 学校経営と学校図書館

木川田 朱美

この科目は論述によって試験を行い、試験解答の採点は、基本的に下記の各項目の評価を平均して実施いたします。受講者のみなさまにおかれましては、これを踏まえて学修と試験に取り組んでください。テキストの通読による学修を基盤とした、発展的な意見の提示を期待しています。

	S	A	B	C	D
論点 ・ 視点	課題に提示されている論点について理解しており、学校経営全体における学校図書館の関わりを踏まえて論述できている。かつ、発展的な意見についても提示できている。	課題に提示されている論点について理解しており、学校経営全体における学校図書館の関わりを踏まえて論述できている。	課題に提示されている論点について理解し、論述できている。	課題に提示されている論点について、自分なりの理解によって論述しようと試みているが、一部適切でない点がある。	課題に提示されている論点について全く理解していないように見受けられる。
論理	理由や根拠、具体例などといった論拠が公正な引用等によって適切に示されており、論理的一貫性・整合性が認められる。	論理的一貫性・整合性が認められるが、論拠がやや乏しい。公正な引用がなされている。	論理的一貫性・整合性に乏しいが、論拠を示そうとしており、公正な引用がなされている。	論拠がみられず、説得力に欠ける。あるいは、論拠として示すテキストや文献の引用部が最小限となっていない。	論理的一貫性・整合性がなく、主張が支離滅裂となっている。あるいは、記述の4割以上がテキストの写しとなっている。
語彙 ・ 表現	論述にふさわしい語彙を用いた表現ができている。(キーワードが提示されている場合) キーワードも適切に使用されている。	論述に適切な表現がほぼできている。キーワードも適切に使用されている。	論述に適切な表現がほぼできているが、キーワードについて用法に誤解がある。	表現・語彙が幼稚である。文末表現などに工夫が見られない。敬体(です・ます)と常体(だ・である)が混在している。	論述にふさわしい表現になっていない。
文字数	指定された文字数の95%を占めている。	指定された文字数の90%を占めている。	指定された文字数の80%を占めている。	指定された文字数の70%しか書かれていない。	指定された文字数の60%しか書かれていない。

U20200 学校図書館メディアの構成

須永 和之

教科書、教材をよく読んで学んでほしい。日頃から図書館を使って、分類（図書の背ラベル）や目録（OPAC）を利用していることが望ましい。

U20300 学習指導と学校図書館

木川田 朱美

この科目は論述によって試験を行い、試験解答の採点は、基本的に下記の各項目の評価を平均して実施いたします。受講者のみなさまにおかれましては、これを踏まえて学修と試験に取り組んでください。テキストの通読による学修を基盤とした、発展的な意見の提示を期待しています。

	S	A	B	C	D
論点 ・ 視点	課題に提示されている論点について理解しており、その論点と学校図書館・司書教諭との関わりを踏まえて論述できている。かつ、発展的な意見についても提示できている。	課題に提示されている論点について理解しており、その論点と学校図書館・司書教諭との関わりを踏まえて論述できている。	課題に提示されている論点について理解し、論述できている。	課題に提示されている論点について、自分なりの理解によって論述しようと試みているが、一部適切でない点がある。	課題に提示されている論点について全く理解していないように見受けられる。
論理	理由や根拠、具体例などといった論拠が公正な引用等によって適切に示されており、論理的一貫性・整合性が認められる。	論理的一貫性・整合性が認められるが、論拠がやや乏しい。公正な引用がなされている。	論理的一貫性・整合性に乏しいが、論拠を示そうとしており、公正な引用がなされている。	論拠がみられず、説得力に欠ける。あるいは、論拠として示すテキストや文献等の引用部が最小限となっていない。	論理的一貫性・整合性がなく、主張が支離滅裂となっている。あるいは、記述の4割以上がテキストの写しとなっている。
語彙 ・ 表現	論述にふさわしい語彙を用いた表現ができている。(キーワードが提示されている場合) キーワードも適切に使用されている。	論述に適切な表現がほぼできている。キーワードも適切に使用されている。	論述に適切な表現がほぼできているが、キーワードについて用法に誤解がある。	表現・語彙がやや幼稚である。文末表現などに工夫が見られない。敬体(です・ます)と常体(だ・である)が混在している。	論述にふさわしい表現になっていない。
文字数	指定された文字数の95%を占めている。	指定された文字数の90%を占めている。	指定された文字数の80%を占めている。	指定された文字数の70%しか書かれていない。	指定された文字数の60%しか書かれていない。

U20400 読書と豊かな人間性

山本 さゆり

まず、人はなぜ本を読むのか、読書はなぜ大切かということを考えてみましょう。そして子どもにとって、読書はどういう意味をもつのかということの理解を深める必要があります。子どもは、優れた本を読んで何を得るのかという実例が、テキストには多く取り上げられています。そこから、あるいは自分自身の体験にも照らして、このことを考えてみるとよいでしょう。「子どもの本がもつ力」、「読書がもたらすもの」について、また、「豊かな人間性とは何か」ということも具体的に考えておかなければなりません。

その上で、読書教育の具体的な方法ということを考察します。映像文化、情報化社会、核家族化というような現代の状況をも考慮しつつ、子どもの発達に即した読書教育はどうあれば良いのかを考えてみましょう。

実際に学校ではどのような読書活動が展開されているのかについても調べておきましょう。月刊『学校図書館』(全国学校図書館協議会)、文部科学省や読書活動の研究校のホームページなども参考になります。

テキストに掲載されている参考・引用文献は、なるべく多く目を通してください。特に、『橋をかける—子供時代の読書の思い出』、2005年に出版された脇明子著『読む力は生きる力』などは熟読してほしいと思います。

また、「子どもの読書活動の推進に関する法律」や「『子ども読書年』の理念」について理解しておきましょう。取り上げられている子どもの本については、できる限り多くを実際に読んでみることが大切です。

自分の体験のみを基に論じられたものは、どうしても視野が狭くなります。必ずテキストや参考文献を読み、自分の体験を合わせて論ずることが大切です。

U20500 情報メディアの活用**須永 和之**

情報メディアの技術は日々進歩しているので、最新の文献を読んで教科書、教材の内容を補完してほしい。特に著作権法は改正が頻繁にあるので、最新の文献で確認しておくことが重要である。

Y20100 生涯学習論**金塚 基**

本科目は、生涯学習の概念の整理（社会教育との関係を含む）ならびに生涯学習が重視される社会的背景、その意義、関連諸制度を理解することをねらいとする。

まず、生涯学習の理念はユネスコで「生涯学習」の概念として取り上げられたことにはじまる。今日、生涯学習は聞き慣れた言葉であるが、その概念をめぐっては様々な誤解がある。

例えば、生涯学習は学校外のノンフォーマルな学習活動を意味するように扱われているが、本来、学校教育や社会教育を包括する教育理念として提唱されたものであった。また、生涯学習は社会教育と混同される傾向もみられるが、これも生涯学習の概念を一側面から捉えることから生じる誤解である。生涯学習の概念は広義的ならびに狭義的それぞれの側面から捉えられ理解されるべきである。

本科目の学習に際しては、以上のような概念を踏まえた上で、市町村や教育委員会、関係法人などが実施する学習・文化・スポーツ事業の具体的な事例に着目・収集し、答案作成の材料にすることが必要である。つまり、そのような事例を取り上げ紹介していないものは不合格となる。そして、各種の生涯学習関連施設のあり方について学習しておくことが重要となる。

テキスト 佐藤晴雄 著『生涯学習概論』学陽書房

Y20300 博物館概論**野中 和夫**

学芸員課程における本科目は、学芸員養成科目の基礎をなす一つである。

試験にのぞむ（勉強する）にあたり、指定教材を熟読することはもとより、関連する参考書を多用し、理解を深めておく必要がある。

Y20400 博物館経営論**野中 和夫**

学芸員課程における本科目は、学芸員養成科目の基礎をなす一つである。

試験にのぞむ（勉強する）にあたり、指定教材を熟読することはもとより、関連する参考書を多用し、理解を深めておく必要がある。

Y20600 博物館資料論**野中 和夫**

学芸員課程における本科目は、学芸員養成科目の基礎をなす一つである。

試験にのぞむ（勉強する）にあたり、指定教材を熟読することはもとより、関連する参考書を多用し、理解を深めておく必要がある。

Y20700 博物館資料保存論**青木 繁夫**

「博物館資料保存論」は、博物館活動を支える資源である博物館資料をできるだけよい環境で保存し、活用するための基本的な考え方を理解していただくための授業である。

参考文献を読んで、以下に示した項目について学習する。特に「照明基準」や「温湿度基準」「生物被害の防止」に関連する事柄についてはしっかりと理解してください。

- 1) 博物館における資料の役割
- 2) 博物館資料の製作技術
- 3) 博物館資料が損傷、劣化するメカニズムの理解
- 4) 博物館資料を保存管理するための環境コントロール
- 5) 博物館資料を災害や事故から護るために危機管理と対策

学習した知識を踏まえて、地域にある博物館や美術館を見学して、照明、温度、湿度などの保存環境をどのようにコントロールした中で博物館資料が展示・公開されているかを具体的な事例で確認してください。

参考文献

- 1) 東京文化財研究所編『文化財虫害事典』クバプロ、2001年
- 2) 東京芸術大学大学院文化財保存学日本画研究室編『図解日本画の伝統と継承』東京美術、2002年
- 3) David Dean著、山地秀俊他訳『美術館・博物館の展示』丸善株式会社、2004年
- 4) 全国大学博物館学講座西日本支部編『新しい博物館学』芙蓉書房出版、2008年

- 5) 園田直子『紙と本の保存科学』岩田書店, 2010年
- 6) 東京文化財研究所編『文化財の保存環境』中央公論美術出版, 2011年
- 7) 全国大学博物館学講座西日本支部編『新時代の博物館学』芙蓉書房出版, 2012年
- 8) 本田光子他『博物館資料保存論』放送大学教材, 2012年
- 9) 神庭信幸『博物館資料の臨床保存学』武蔵野美術大学出版局, 2014年
- 10) 藤原工『学芸員のための展示照明ハンドブック』講談社, 20014年
- 11) 大林賢太郎『装潢文化財の保存修復』国宝修理装潢師連盟, 2015年
- 12) 文化庁ホームページ 重要文化財等データベース
<http://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/categorylist.asp>

Y20800 博物館展示論**折茂 克哉**

教科書の第1章から第4章まで熟読し、「展示」の意義や種類、手続き、諸問題など総合的に理解することが必要である。

教科書には「展示」の意味や歴史、社会的な役割、形態や分類、実際の作業、最近の動向などがコンパクトに述べられている。さまざまな「専門別展示」が紹介されているが、共通した理念がある上で扱う資料と「展示」の方法が異なっていることに留意されたい。

博物館における「展示」活動は、今日各地の都道府県、市町村に存在する博物館施設で普遍的に行なわれており、展示の実践を体感することは容易である。学芸員を目指す者にとって、分野の異なった博物館施設における「展示」を体感しておくことは不可欠である。

また、「展示」と「展示」以外の博物館活動との関係性を考えることで、「展示」をより理解できるだろう。

Y20900 博物館教育論**折茂 克哉**

教科書の第5章から特論まで熟読し、その上で各章に書かれている「博物館教育」の内容を理解することが必要である。

教科書には「博物館教育」と類似する言葉として「生涯学習」、「社会教育」、「教育普及活動」などの文言があるが、各章の執筆者によってその内容は微妙に異なっている。各章での使い方とその内容を理解して、各執筆者の論旨をとらえなければならない。その上で、博物館における教育の概念とその実践事例を理解することが重要である。

また、博物館における教育は、今日各地の都道府県、市町村に存在する博物館施設で普遍的に行なわれており、その行事（イベント）に参加することによって容易に体感することが可能である。これらの行事に参加するか、少なくとも近隣の博物館施設で行われている行事にはどのようなものがあるのかを調べておくことは、学芸員を目指す者として必要不可欠の学習事項であろう。

Y21000 博物館情報・メディア論**品川 欣也**

博物館情報・メディア論では、教科書（第11章から第14章）を通読して、博物館のもつ情報やその活用方法について運営者と来館者双方の視点から理解する必要がある。

博物館のもつ情報やその活用方法の理解にあたっては、まず博物館の成り立ちやその役割を知り、その後に博物館に必要な情報化の作業やその技術、そして公開と活用がどのような形態で行われているかを捉えることが重要である。そのためには、普段から博物館のホームページ、図録・リーフレットなどの印刷物に目を通し、また展示を観覧し情報端末を体験するなどして博物館がどのような情報を扱い、発信しているのかを積極的に考える機会を増やすこともまた大切である。

〈参考文献〉

- 大堀哲・水嶋栄治編 2012『博物館学—博物館情報・メディア論 博物館経営論』学文社
 西岡貞一・篠田謙一編 2013『博物館情報・メディア論』放送大学教育振興会
 日本教育メディア学会編集 2013『博物館情報・メディア論』株式会社ぎょうせい

Y21200 民俗学**田中 藤司**

民俗学は、学芸員コースのために開設された専門科目だが、学芸員志望でない人にも有意義だと確信している。リポート課題をご覧いただければ、他の科目と異なる点が明瞭であろう。この課題は、学芸員コース科目ということを考慮した私の方針であると同時に、民俗学という学問の性格を反映している。

庶民の生活文化を研究する民俗学には、核となるような知識や基礎、体系性が稀薄だ。その理由は、大きな理論や常識的理解に当てはめて事例を解釈して良しとするのではなく、実際の生活のなかから見いたした小さな具体的な疑問が、その分析に必要な知識の収集を要求するからだ。だから「問い合わせ」こそ

が学問の始点である。問い合わせに対する解答がフィールドワークによって満たされる点に、民俗学の最大の特色がある。

ただし、そのような探求の前に、先行研究を検討する必要があることは、他の学問と同じである。自分自身の問い合わせながら、自分で調べ自分で考え、先行研究と格闘することは、卒業論文作成にも必須の技術である。論文を読まないと、論文は書けない。引用文献を表示しないリポートや抜き書き・丸写しに合格点は望めない。リポートは、同時に2通を提出するのではなく、1通めの添削指導を吟味のうえ、各自の研究を継続してバージョンアップしたリポートを2通めとして提出するのが望ましい。

試験では、生活文化の研究に関連した概念（キーワード）ひとつ以上を先行研究から借用し、リポート作成過程で情報収集・分析した題材（実例）について、要約・記述・再分析していただく。分析のための概念は、通過儀礼・生活革命・創られた伝統・博物館展示・地域史研究・近代家族・境界・贈与・生業暦・予祝儀礼・村社会・伝承者・民具・世間話・年齢集団・株・忌み・ジェンダー・人口移動・文化的多元性など、「使える」ものならなんでもよい。リポート準備段階から意識しておきたい。

試験時間は短く、答案スペースは小さい。自分が取り組んできた問題について、課題リポート以上に大胆にコンパクトな見取り図を示し、抽象に流れない答案を作成するように期待する。記述内容を示すタイトルを工夫して掲げることを絶対に忘れないように。

Y21300 文化人類学**服部 慶亘**

我々人間は、自分の育ってきた環境・経験・価値観で物事を判断しやすい存在である。育ってきた環境が異なれば、異なる経験をしていれば、価値観がそぐわなければ、自分が「当たり前」と思っていることが相手には「珍しい」「奇妙だ」といった偏見を抱かれてしまうことになる。

そのような現実を十分に意識した上でテキストを精読し、グローバル化が進んでいる現代において異文化への偏見をいかにして取り除くかを、自分の考えをふまえながらノートを作成しておくことが望ましい。

なお、各章末の「参考文献」「推薦図書」および巻末の「さくいん」をもとに、重要語句・概念そして主要人物についても理解を深めてほしい。

MEMO

XII 各種用紙

- ・履修届
- ・第1回受験届
- ・第2回受験届
- ・第3回受験届
- ・第4回受験届
- ・受験科目変更届
- ・教材配本申請書
- ・教材購入願（通信教育教材用）
- ・学割証交付願

>○

履修登録年度 平成 年度

履修届

提出年月日	平成 年 月 日
-------	----------

学生番号	氏名	フリガナ 氏名
------	----	------------

科目コード	科目名	単位	科目コード	科目名	単位
1			14		
2			15		
3			16		
4			17		
5			18		
6			19		
7			20		
8			21		
9			22		
10			23		
11			24		
12			25		
13					

記入例 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

合計 単位 ←

年間 48 単位まで登録できます。
教職生及び 2 学年以上の教職コース登録者は
年間 60 単位まで登録できます。

日本大学通信教育部

内をすべて記入してください。

日本大学通信教育部 御中
(提出先: 教務課試験係)

平成 30 年度 第 1 回 科目修得試験受験届

年	月	日	実施回
2018	4	15	1

会場コード	_____
会場名	_____

受験希望科目						
時限	科 目 コ ー ド					科 目 名
1	_____	_____	_____	_____	_____	
2	_____	_____	_____	_____	_____	
3	_____	_____	_____	_____	_____	
4	_____	_____	_____	_____	_____	

- 提出締切日 〔平成 30 年 3 月 14 日 (水)〕 窓口提出: 事務取扱時間内
郵送提出: 必着
- 郵送又は窓口にて、提出してください。
- **これは、平成 30 年度第 1 回科目修得試験の受験届です。**それ以外の科目修得試験をこの受験届で申し込んだ場合、無効となります。
- 本受験届は、上記科目修得試験の受験に関する事項について使用します。
- 履修登録を行っていない科目は、本用紙のみでは申込が完了しません。
必ず、履修登録を行ってください。

学 生 番 号	_____
フ リ ガ ナ	_____
氏 名	_____
自 宅 電 話 番 号	_____
緊 急 時 電 話 番 号	_____

教務課受付印

内をすべて記入してください。

日本大学通信教育部 御中
(提出先: 教務課試験係)

平成 30 年度 第2回 科目修得試験受験届

年	月	日	実施回
2018	6	24	2

会場コード	
会場名	

受験希望科目					
時限	科 目 コ ー ド				科 目 名
1					
2					
3					
4					

- 提出締切日 〔平成 30 年 5 月 30 日 (水)〕 窓口提出: 事務取扱時間内
郵送提出: 必着
- 郵送又は窓口にて、提出してください。
- **これは、平成 30 年度第2回科目修得試験の受験届です。それ以外の科目修得試験をこの受験届で申し込んだ場合、無効となります。**
- 本受験届は、上記科目修得試験の受験に関する事項について使用します。
- 履修登録を行っていない科目は、本用紙のみでは申込が完了しません。
必ず、履修登録を行ってください。

学 生 番 号	
フ リ ガ ナ	
氏 名	
自 宅 電 話 番 号	
緊 急 時 電 話 番 号	

教務課受付印

内をすべて記入してください。

日本大学通信教育部 御中
(提出先: 教務課試験係)

平成 30 年度 第3回 科目修得試験受験届

年	月	日	実施回
2018	10	21	3

会場コード	_____
会場名	_____

受験希望科目						
時限	科 目 コ ー ド					科 目 名
1	_____	_____	_____	_____	_____	_____
2	_____	_____	_____	_____	_____	_____
3	_____	_____	_____	_____	_____	_____
4	_____	_____	_____	_____	_____	_____

- 提出締切日 〔平成 30 年 8 月 29 日 (水)〕 窓口提出: 事務取扱時間内
郵送提出: 必着
- 郵送又は窓口にて、提出してください。
- これは、平成 30 年度第3回科目修得試験の受験届です。それ以外の科目修得試験をこの受験届で申し込んだ場合、無効となります。
- 本受験届は、上記科目修得試験の受験に関する事項について使用します。
- 履修登録を行っていない科目は、本用紙のみでは申込が完了しません。
必ず、履修登録を行ってください。

学 生 番 号	_____
フ リ ガ ナ	_____
氏 名	_____
自 宅 電 話 番 号	_____
緊 急 時 電 話 番 号	_____

教務課受付印

内をすべて記入してください。

日本大学通信教育部 御中
(提出先: 教務課試験係)

平成 30 年度 第4回 科目修得試験受験届

年	月	日	実施回
2018	12	9	4

会場コード	
会場名	

受験希望科目					
時限	科 目 コ ー ド			科 目 名	
1					
2					
3					
4					

- 提出締切日 〔平成 30 年 11 月 14 日 (水)〕 窓口提出: 事務取扱時間内
郵送提出: 必着
- 郵送又は窓口にて、提出してください。
- **これは、平成 30 年度第4回科目修得試験の受験届です。それ以外の科目修得試験をこの受験届で申し込んだ場合、無効となります。**
- 本受験届は、上記科目修得試験の受験に関する事項について使用します。
- 履修登録を行っていない科目は、本用紙のみでは申込が完了しません。
必ず、履修登録を行ってください。

学 生 番 号					
フ リ ガ ナ					
氏 名					
自 宅 電 話 番 号					
緊 急 時 電 話 番 号					

教務課受付印

平成 年 月 日

日本大学通信教育部教務課長 殿

平成 30 年度科目修得試験受験科目変更届

標記のことについて、既に「受験届」にて申し込んだ受験科目を下記のとおり変更いたしましたく、本書面をもってお願ひいたします。

記

(受験希望回)

実施回	

(当初の受験科目)

時限	科 目 コ ー ド	科 目 名
1		
2		
3		
4		

(変更後の受験科目)

時限	科 目 コ ー ド	科 目 名
1		
2		
3		
4		

(受験希望会場) 変更なし ・ 変更あり

会場コード	
会場名	

上記のとおり相違ありません。

学 生 番 号	
フ リ ガ ナ	
氏 名	
自 宅 電 話 番 号	
緊 急 時 電 話 番 号	

教務課受付印

配本申請（無償）

平成 年 月 日

日本大学通信教育部 御中
(提出先：研究事務課)

教 材 配 本 申 請 書

学 生 番 号						氏 名	
連絡先電話番号（携帯電話可）						- - -	

(太線枠内にボールペンで記入してください)

No	教材コード					教 材 名	配 本 単位数
1							単位
2							単位
3							単位
4							単位
5							単位
6							単位
7							単位
8							単位
9							単位
10							単位
合 計							単位

ポータルサイト「教材発送申請照会」の「配本申請」から申請できます。
ポータルサイトから申請できない方は、この用紙を使用してください。

※年度内2回まで、計32単位分まで教材の申請ができます。

※科目履修生は申請できません。「教材購入願」にて購入してください。

※消えないボールペンを使用し、記入してください。

※書ききれない場合には、用紙をコピーして2枚用いてください。

※「教材コード」は『教材要綱』、『各種スクーリングの手引』で確認し、記入してください。「教材コード」と「科目コード」は異なりますので注意してください。

※2冊組教材はセットコードを記入してください。

※スクーリング等で指定する丸沼表記の教材は、対象外です。

事務局使用欄

—「教材配本申請書」、「教材購入願」—

研究事務課

通信教育教材を入手する場合は、以下の内容を熟読し、手続きしてください。

1 教材の入手方法について

通信教育部で扱う教材は、「通信授業」（在宅学修）を目的とした教材です。

一部のスクーリング等で、通信教育教材（**通材**と表記）を使う場合も、対象となります。

通信教育部で扱う教材の入手方法は、2通りあります。

なお、教材コード・販売価格等は『ポータルサイト』『スクーリングの手引』に掲載されます。

① 「教材配本申請書」による配本（無料）

正科生のみ対象となります。年度内2回まで合計32単位分まで申請できます。

所定の「教材配本申請書」で申請してください。

一度提出した書類の追加・変更はできません。

ポータルサイトの「教材発送申請・照会」画面の「配本申請（無料）」からも申請できます。

② 「教材購入願」による購入（有料）

教材を有料で購入することができます。

科目履修生の教材入手や、「教材配本申請書」の回数・単位数の上限を超えた場合、その他の理由で教材を入手したい場合には、有料で購入することができます。

教材を購入する場合、「教材購入願」に必要事項を記入し、次の手続により購入してください。

ポータルサイトの「教材発送申請・照会」画面の「教材購入（有料）」からも用紙を作成・出力できます。

(1) 窓口の場合

会計課窓口にある「教材購入願」に必要事項を記入し、現金を添えて会計課窓口で手続をしてください。

(2) 郵送の場合

ポータルサイトで「教材発送参照」画面の「教材購入願作成」から出力後、必要事項を記入し、費用と併せて会計課に郵送してください。

2 注意事項

- ① 教材は「通信教育部教材」に限り購入できます。スクーリング等で指定する市販教材（**丸沼**表記の教材）は、対象外です。
- ② 手続後の変更・取消し、納入金額の返還はできません。
- ③ 印刷教材は、大学登録住所あてに送付します。教材が手元に届くまで7～10日を要しますので、余裕をもって手続をしてください。
- ④ 窓口で教材を渡すことはできません。申請処理完了後に大学から送付します。

通材

平成 年 月 日

日本大学通信教育部 御中
(提出先:会計課)

教材購入願 (通信教育教材用)

学 生 番 号						氏 名	フリガナ
連絡先電話番号 (携帯電話可)						- - -	

教材コード	科 目 名	金 額	スクーリング種別
			講 座 名
1 0 0 0			
2 0 0 0			
3 0 0 0			
4 0 0 0			
5 0 0 0			
6 0 0 0			
合計科目数		合計金額	
		_____	円

(太線枠内にボールペンで記入してください)

*ボールペンで記入してください。

*「教材コード・科目名・金額」は『ポータルサイト』及び『スクーリングの手引』で確認し、必ず記入してください。

「教材コード(6桁)」と「科目コード」は異なりますので、注意してください。

*「スクーリング種別・講座名」にはスクーリング・メディア授業において『通信教育教材』を使用する場合にのみ記入してください。

*『スクーリングの手引』における各講座の教科書(参考書)欄で指定されているもの、例えば、「**通材**『政治学 B11700』通信教育教材(教材コード 000279)」と記載されている教材を購入する場合は「政治学」を科目名として記入してください(受講科目ではなく**指定された教材の科目名**を記入)。

会計課領収印

「通信教育教材」の購入について

平成 27 年度から、『通信教育教材』は「配本申請」又は「教材購入」で入手します。
「教材購入」をする場合、「教材購入願」を使用し、以下の手続きにしたがって教材を入手してください。また「教材購入願」で購入できる教材は、『通信教育教材』のみです。
スクーリング等で指定する市販教材（**丸沼**表記の教材）は、対象外です。

1 購入手続

① 窓口手続

「教材購入願」に必要事項を記入し、現金を添えて会計課窓口へ提出してください
(なるべく釣り銭のないようにしてください)。

② 郵送手続

現金書留又は為替が利用できます。

(1) 現金書留での購入

「教材購入願」と合計金額分の「現金」を現金書留封筒にて会計課あてに送付
してください。**その際、必ず釣り銭のないようにしてください。**

注意：普通郵便の中に現金を封入することは、郵便法によって禁止されています。

また、郵便事故による補償もありませんので、必ず現金書留を利用してください。

(2) 為替での購入

「教材購入願」と合計金額分の「定額小為替証書」又は「普通為替証書」を会
計課あてに送付してください。

注意：郵便事故防止のため、なるべく簡易書留や特定記録郵便を利用してくだ
さい。**為替には何も記入せず送付してください。**

2 注意事項

- ① 手続後の変更・取り消しはできません。また、返金もしませんので注意してください。
- ② 教材は大学に登録されている住所へ発送し、**窓口ではお渡しません**。

教材が手元に届くまでに約 1 週間要しますので、特にスクーリング、メディア授業
で使用する場合は受講許可が出ていることを確認した後、速やかに購入手続きを
してください。

日本大学通信教育部長 殿

学割証交付願

下記の事由のため、学割証の交付をお願いします。

記

			平成 年 月 日 申請	
学部	学科（専攻）	学生番号		
氏名			年齢 歳	
現住所 〒 -				
TEL ()				
申請事由（該当箇所に○を記入してください）				
	東京スクーリング（ 月期）		卒業論文指導（ 月 日）	
	夏期スクーリング（第 期）		総合面接試問	
	地方スクーリング（ 月期）	開講地 ()	科目修得試験（第 回）	
	昼間・夜間スクーリング（ 曜日 時限）		その他（ ）	
乗車区間	自	線 駅	至	線 駅
乗車日	行	平成 年 月 日	帰	平成 年 月 日
必要枚数	枚	(1枚で往復乗車券購入可能。複数枚の場合は理由を明記すること)		
	※ 理由			
利用交通機関	鉄道・バス・その他()		受取方法	窓口・郵送

【注意事項】

- ・鉄道会社等の規定により、科目履修生は学割対象外です。
- ・大学主催行事以外（旅行等個人的事由）には使用できません。
- ・乗車区間が101kmを超える場合に限り発行します。
- ・郵送で受取希望の場合は、返信用封筒（あて名明記、82円切手貼付）を同封してください。
- ・1枚で往復乗車券が購入できます。ただし、学割証の有効期間内に限ります。
- ・この交付願では通学定期券の購入はできません。
- ・乗車日欄に記載の日程が、「有効期間」として学割証に記載され、乗車券を購入できる期間となりますので、購入日等を踏まえて記入してください。



DISTANCE LEARNING DIVISION, NIHON UNIVERSITY
編集兼発行人 関 正晴 〒102-8005 東京都千代田区九段南4-8-28 日本大学通信教育部